

科目名	社会福祉論A		科目コード	W31023	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-PPSW1-01H	時間	30時間					
区分	社会福祉系科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	丸山 龍太			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。また、社会福祉の問題と社会構造の関係の視点から現代社会問題について理解する。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解することができる。また、社会福祉の問題と社会構造の関係の視点から現代社会問題について理解することができる。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解することができる。</p>									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	社会福祉の原理(1)		社会福祉の歴史、思想・哲学について学ぶ。						講義・Think pair share	
第2回	社会福祉の原理(2)		社会福祉の理論、社会福祉の原理と実践、社会福祉学の構造と特徴について学ぶ。						講義・Think pair share	
第3回	社会福祉の歴史(1)		政策史、実践史、発達史等の観点から社会福祉の歴史について学ぶ。また、日本と欧米の比較史の観点についても学ぶ。						講義・Think pair share	
第4回	社会福祉の歴史(2)		日本の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。慈善事業・博愛事業・社会事業・社会福祉事業・社会福祉について。						講義・Think pair share	
第5回	社会福祉の歴史(3)		欧米の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。救貧法・慈善事業・博愛事業・社会事業・社会保険・福祉国家・福祉社会について。						講義・Think pair share 社会福祉の原理・歴史について の小テスト	
第6回	社会福祉の思想と哲学		社会福祉の思想と哲学を学ぶ。社会福祉の思想と哲学・人間の尊厳・社会主義・平和主義について。						講義・Think pair share レポート課題提示	
第7回	社会福祉の理論(1)		戦後社会福祉の展開と社会福祉理論、政策論と運動論と経営論、欧米の社会福祉の理論について学ぶ。						講義・Think pair share	
第8回	社会福祉の理論(2)		社会福祉の論点について、とくに公私関係・効率性と公平性・普遍主義と選別主義・自立と依存の観点から学ぶ。						講義・Think pair share	
第9回	社会福祉の理論(3)		社会福祉の論点について、とくに自己選択・自己決定とパターンリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、社会的承認の観点から学ぶ。						講義・Think pair share	
第10回	社会問題と社会構造(1)		貧困・孤立・失業・要援護性・偏見と差別・社会的排除等に代表される社会問題と社会福祉の関りを学ぶ。						講義・Think pair share	
第11回	社会問題と社会構造(2)		少子高齢化・格差社会・グローバル化・価値観の変化等に代表される社会問題の構造的背景について学ぶ。						講義・Think pair share レポート課題提出	
第12回	社会福祉政策の基本的な視点		社会問題と福祉政策、福祉政策の理念、福祉政策と社会保障、福祉レジームと福祉政策について学ぶ。						講義・Think pair share 社会福祉理論・政策に関する 小テスト	
第13回	社会福祉政策におけるニーズとは		ニーズの種類と内容、ニーズの種類と資源、ニーズの把握方法について学び、社会福祉の対象とニーズについても考える。						講義・Think pair share	
第14回	福祉政策におけるニーズと資源の関係		社会資源の種類と内容、把握方法、開発方法について学び、福祉政策におけるニーズと資源の関係についても考える。						講義・Think pair share	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。						講義	
評価 方法及び 評価 基準	<p>出席が2/3以上に満たない場合は、評価の対象としない。講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、途中小テストを実施する。また、講義中盤でレポート課題を課す。これらの項目が講義への参加態度の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようお願いしたい。</p>									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。レポート課題は、TEAMS上で提示し、TEAMSにより提出する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は福田幸夫・長岩嘉文編(2021)『社会福祉の原理と政策』弘文堂(ISBN 978-4-335-61209-1) 参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	社会福祉論B		科目コード	W31024	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-02H		30時間				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	工藤 久			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。また、福祉サービスの供給と利用の過程について理解すると共に、福祉政策の国際比較の視点から日本の福祉政策の特性について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	社会福祉の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解できる。また、福祉サービスの供給と利用の過程について理解できる。さらに、福祉政策の国際比較の視点から日本の福祉政策の特性についても理解できる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	福祉政策の構成要素(1)		福祉政策の構成要素とその役割・機能について学ぶ。また、政府・市場・事業者・国民との関係性についても学ぶ。							
第2回	福祉政策の構成要素(2)		措置制度と契約制度、多元化する福祉サービス提供方式について学ぶ。							
第3回	福祉政策の過程(1)		政策決定と実施及び評価について学ぶ。また、福祉政策の方法と手段についても学ぶ。							
第4回	福祉政策の過程(2)		福祉政策の政策評価と行政評価について学ぶ。また、福祉政策と福祉計画の関係性についても学ぶ。							
第5回	福祉政策の動向(1)		社会福祉法の特徴と近年の法改正の動向を学ぶ。また、地域包括包括ケアシステムについても学ぶ。							
第6回	福祉政策の動向(2)		地域共生社会について学ぶ。また、多文化共生と持続可能性(SDGs等)と社会福祉の関係性についても学ぶ。						第1回～5回までの範囲小テスト	
第7回	福祉政策の課題		日本の福祉政策の課題について考える。							
第8回	福祉政策と関連施策		保健医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策、経済政策と福祉政策の関係性について学ぶ。							
第9回	福祉サービスにおける供給部門(1)		公的部門と民間部門の違い、公的部門の特徴について学ぶ。							
第10回	福祉サービスにおける供給部門(2)		民間部門(営利・非営利)、ボランティア部門、インフォーマル部門の特徴を学ぶ。また、部門間の調整と連携と協働についても学ぶ。							
第11回	福祉サービスにおける供給課程(1)		公私(民)関係、再分配と割当について学ぶ。						第6回～10回までの範囲小テスト	
第12回	福祉サービスにおける供給課程(2)		市場・準市場、福祉行財政、福祉計画、福祉開発について学ぶ。							
第13回	福祉サービスにおける利用過程		スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップについて学ぶ。							
第14回	福祉政策の国際比較		国際比較の視点を学ぶ。とくに、欧米・東アジアの福祉政策の特徴を学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価 方法 及び 評価 基準	出席が2/3以上に満たない場合は、評価の対象としない。講義への参加態度40%、定期試験60%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度40%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は福田幸夫・長岩嘉文編(2021)『社会福祉の原理と政策』弘文堂、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	キリスト教社会福祉論		科目コード	W31002	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-03H		30時間				
区分	社会福祉系列科目	必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉とキリスト教は、どう関わっているのか。キリスト教なんて関係なくても社会福祉は学べるのではないか。そう考える人たちに、社会福祉の基本や基盤となる考え方をキリスト教や聖書を通して考えてもらいたいと願っている。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-2, 3-1, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 思う、感じる、考えるというような心の動きを大事にする。 2. 「自分ができること」という視点と観点を持つ。 3. 聖書やキリスト教がどのように社会福祉に関連するのかを学ぶ。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション		どういうことを目指したいか、担当者の思いや願い							
第2回	キリスト教の基本		イエス・キリストとはいかなる者であったのか							
第3回	聖書から学ぶ：愛について		新約聖書、福音書の中から愛の精神を学ぶ							
第4回	聖書から学ぶ：ゆるしについて		新約聖書、福音書の中からゆるすこと・ゆるしについて学ぶ							
第5回	聖書から学ぶ：病気といやしについて		新約聖書、福音書の中から病気といやしの物語を学ぶ							
第6回	聖書から学ぶ：奉仕について		新約聖書から奉仕や福祉について考えてみる						レポート提出	
第7回	福祉を考える：宗教と福祉の関係		キリスト教以外の宗教も含めて、福祉をどう捉えているのか学ぶ							
第8回	福祉を考える：差別と人権の問題（1）		人権をおかすものとして差別を考える。部落差別や出自による差別など							
第9回	福祉を考える：差別と人権の問題（2）		同上。女性差別や性差別、LGBTQなど							
第10回	福祉を考える：差別と人権の問題（3）		同上。外国人差別や先住民差別、レイシズムやヘクトクライムなど						レポート提出	
第11回	いのちを考える：生と死（1）		出生前診断、人工妊娠中絶など生命のはじまりを巡る問題を学ぶ							
第12回	いのちを考える：生と死（2）		優生思想の問題、津久井やまゆり園事件やナチス・ドイツの行為を学ぶ							
第13回	いのちを考える：生と死（3）		HIV／エイズ、ハンセン病などを学ぶ							
第14回	共存と共生のために		誰もが住みやすく生きやすい社会のために自分ができることを考える							
第15回	キリスト教的倫理観の構築のために		これまでの学びから、今後の自分に必要なことを考える						レポート提出	
評価 方法 及び 評価 基準	講義の出席と参加40%、レポート3回60%で評価する。 講義は出席のみではなく参加態度や発表をも含めての評価。 レポートは講義の感想、自分の見つけたテーマ等をA4一枚程度で論述してもらう予定。									
課題等	講義時に指示。									
事前事後 学修	調べ学習を取り入れる予定。講義時に指示したことは予習復習として行うこと。									
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』。新共同訳で新約聖書、旧約聖書が入っていればどのサイズでも良い（入学時購入者は新共同訳である）。 ノートは各自準備。必要に応じてプリントなどの資料を配布する。参考書も講義時に提示する。									
留意点	宗教学ABと多少重なる部分があると想定される。受講者及び担当者の状況によっては多少変更を加える場合もある。									

科目名	ソーシャルワーク総論A		科目コード	W31005	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-04H	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	小川 幸裕				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。          ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。          ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。          ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。          ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。</p>									
授業計画										
回	主題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(1)		社会福祉士及び介護福祉士法による社会福祉士の定義、義務、法制度の成立の背景、法制度見直しの背景について学ぶ。						講義	
第2回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(2)		精神保健福祉士による精神保健福祉士の定義、義務、法制度の成立の背景、法制度見直しの背景について学ぶ。						講義 グループワーク	
第3回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(3)		社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性について学ぶ。						講義 レポート課題	
第4回	ソーシャルワークの概念		ソーシャルワークの定義、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について学ぶ。						講義 グループワーク	
第5回	ソーシャルワークの原理(1)		社会正義、人権尊重について学ぶ。						講義 グループワーク	
第6回	ソーシャルワークの原理(2)		集団的責任、多様性の尊重について学ぶ。						講義	
第7回	ソーシャルワークの理念(1)		当事者主権、尊厳の保持について学ぶ。						講義	
第8回	ソーシャルワークの理念(2)		権利擁護、自立支援について学ぶ。						講義	
第9回	ソーシャルワークの理念(3)		ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーションについて学ぶ。						講義	
第10回	ソーシャルワークの形成過程(1)		事前組織協会、セツルメント運動について学ぶ。						講義 レポート課題	
第11回	ソーシャルワークの形成過程(2)		医学モデルから生活モデルへの転換、ソーシャルワークの統合化について学ぶ。						オンデマンド授業	
第12回	ソーシャルワークの倫理(1)		専門職倫理の概念について学ぶ。						講義 グループワーク	
第13回	ソーシャルワークの倫理(2)		倫理綱領とは、ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領について学ぶ。						講義	
第14回	ソーシャルワークの倫理(3)		精神保健福祉士の倫理綱領、倫理的ジレンマについて学ぶ。						講義 グループワーク	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。						講義 グループワーク	
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加態度10%、レポート30%、定期試験60%で評価します。          定期試験では、【知識・理解】の観点から到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出し評価します。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から、リアクションペーパー、小テスト、レポート提出を求めます。          リアクションペーパーは、講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価します（配点は1回1点とし、各項目で半分以上記載されていない場合は評価対象としません）。          レポートは、ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートを課し、評価します。</p>									
課題等	フィードバックとしてリアクションペーパーに記載された疑問について、講義内でコメントを返します。									
事前事後学修	<p>講義時にて、次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習ください。          授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行ってください。          準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。</p>									
教材教科書参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)『ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版 ISBN 978-4-8058-8241-2									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待します。</li> <li>・社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてください。</li> <li>・オンデマンド授業は、指定された期間に、ネット上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。</li> <li>・Teamsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受け付けます。</li> </ul>									

科目名	ソーシャルワーク総論B		科目コード	W31006	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
	科目ナンバリング		W-PPSW1-05H	時間	30時間					
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目	必修 必修	担当者名	小川 幸裕			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。          ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。          ③マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。          ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解することができる。          ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解することができる。          ③マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解することができる。          ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解することができる。</p>									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲		ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について学ぶ。					講義		
第2回	社会福祉士の職域(1)		行政関係、福祉関係(高齢者領域、障害者領域、児童・母子領域、生活困窮者自立支援・生活保護領域)について学ぶ。					講義 グループワーク		
第3回	社会福祉士の職域(2)		医療関係、教育関係、司法関係、独立型事務所等と社会福祉士の職域拡大について学ぶ。					講義 レポート課題		
第4回	福祉行政における専門職		福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司等について学ぶ。					講義		
第5回	民間の施設・組織における専門職		施設長、生活相談員、社会福祉協議会の職員、地域包括支援センターの職員、スクールソーシャルワーカー、医療層ソーシャルワーカー等について学ぶ。					講義		
第6回	諸外国の動向		欧米諸国の動向、その他諸外国における動向について学ぶ。					講義		
第7回	マイクロ・メゾ・マクロレベルの対象		マイクロ・メゾ・マクロレベルの意味、マイクロ・メゾ・マクロレベルの対象について学ぶ。					講義		
第8回	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク		マイクロ・メゾ・マクロレベルの意味、マイクロ・メゾ・マクロレベルの対象について学ぶ。支援の実践について学ぶ。					講義		
第9回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意味と内容		多機関による包括的支援体制、その実際について学ぶ。					オンデマンド授業		
第10回	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(1)		フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制について学ぶ。					講義 グループワーク		
第11回	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(2)		ソーシャルサポートネットワークングについて学ぶ。					講義 グループワーク		
第12回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(1)		多職種連携及びチームアプローチの意義について学ぶ。					講義 レポート課題		
第13回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(2)		機関・団体間の合意形成と相互関係について学ぶ。					講義 グループワーク		
第14回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(3)		利用者、家族の参画について学ぶ。					講義 グループワーク		
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。					講義 グループワーク		
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加態度10%、レポート30%、定期試験60%で評価します。          定期試験では、【知識・理解】の観点から到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出し評価します。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から、リアクションペーパー、小テスト、レポート提出を求めます。          リアクションペーパーは、講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価します(配点は1回1点とし、各項目で半分以上記載されていない場合は評価対象としません)。          レポートは、ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートを課し、評価します。</p>									
課題等	フィードバックとしてリアクションペーパーに記載された疑問について、講義内でコメントを返します。									
事前事後学修	<p>講義時にて、次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習ください。          授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行ってください。          準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。</p>									
教材教科書参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)『ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版 ISBN 978-4-8058-8241-2									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待します。</li> <li>社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてください。</li> <li>オンデマンド授業は、指定された期間に、ネット上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。</li> <li>Teamsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受けつけます。</li> </ul>									

科目名	社会福祉発達史 A		科目コード	W31009	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-06	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目 教職科目（高一種【公民】）	選択 必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 前近代からの日本における社会福祉のあゆみを概観する。そのうえで、慈善事業やその組織化から社会福祉の段階に至るまでの流れについて、高齢者・障害者・医療などの各領域に踏み込んで、詳細に講義する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	1. 社会福祉の歴史を学ぶことによって、現在日本の社会福祉の状況や到達点について、科学的に認識し、社会や時代の流れの中で、社会福祉実践について見通しをもてるようになること。 2. 日本の社会福祉の歴史を学ぶことによって、先人の努力を謙虚に学び、社会福祉の発展に寄与するためには、どのようにしたらよいかを考察すること。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	講義計画、社会福祉の歴史の全体像			日本における社会福祉の歴史の流れを説明する						
第2回	前近代における社会福祉の歴史			日本における前近代の社会福祉の歴史を概観する						
第3回	恤救規則			明治維新と恤救規則				文献複写		
第4回	特別救護立法			恤救規則以外の救済制度				文献複写		
第5回	救済事業の展開			救済事業における二つの流れ、窮民救済				文献複写		
第6回	慈善事業			近代日本における慈善事業				文献複写		
第7回	児童保護事業			明治期の育児施設について				文献複写		
第8回	熊本バンド・「北海道バンド」			感化事業・感化院創設・監獄改良事業				文献複写		
第9回	感化救済事業			感化救済事業における実践				文献複写		
第10回	救済と慈善の思想			慈恵主義、慈善事業思想の諸相				文献複写		
第11回	救貧法制構想			恤救規則の改正案				文献複写		
第12回	慈善事業の発展			慈善事業ほ本格化				文献複写		
第13回	児童保護事業の展開			児童保護事業における諸実践				文献複写		
第14回	養老事業の形成			高齢者領域の取り組み				文献複写		
第15回	慈善事業・慈善組織化の時代のまとめ			前期中の講義で取り上げた内容の整理						
評価 方法 及び 評価 基準	客観式・短答式試験のみ。合格点に達しない場合、毎回の小テストの点数を10点まで加算するが、加点の上限は10点まで。									
課題等	毎回指示を出す。文献複写をしたら、辞書を引いて読んでおくこと。									
事前事後 学修	配布資料を講義前に、辞書を引いて読んでおくこと。本学図書館における文献検索の方法を習得しておくこと。 生江孝之（1931）『日本基督教社会事業史』教文館、五味百合子編著（1973）『社会事業に生きた女性たち』ドメス出版などを使用する。尚、五味編集のものは、正篇・続篇・続々篇があり、各々その都度指示する。これらは、図書館で利用すること。									
教材 教科書 参考書	池田敬正（1994）『日本における社会福祉のあゆみ』法律文化社 ISBN:4-589-01811-x 室田保夫編著（2006）『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 ISBN:4-623-0459-6									
留意点	私語・遅刻厳禁 欠席した場合には、次の日の正午までに配布物を受け取りにくること。 国語辞典・漢和辞典を持参すること。									

科目名	社会福祉発達史B		科目コード	W31010	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-07	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目 教職科目（高一種【公民】）	選択 必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 前近代からの日本における社会福祉のあゆみを概観する。そのうえで、慈善事業やその組織化から社会福祉の段階に至るまでの流れについて、高齢者・障害者・医療などの各領域に踏み込んで、詳細に講義する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	1. 社会福祉の歴史を学ぶことによって、現在日本の社会福祉の状況や到達点について、科学的に認識し、社会や時代の流れの中で、社会福祉実践について見通しをもてるようになること。 2. 日本の社会福祉の歴史を学ぶことによって、先人の努力を謙虚に学び、社会福祉の発展に寄与するためには、どのようにしたらよいかを考察すること。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	慈善事業の組織化と社会化			慈善事業がもつ社会的役割と中央慈善協会結成以降の組織化について				文献複写		
第2回	社会事業①			社会調査と社会問題論				文献複写		
第3回	社会事業②			社会連帯論				文献複写		
第4回	社会事業③			社会事業理論の展開				文献複写		
第5回	社会事業④			救済事業調査会				文献複写		
第6回	社会事業⑤			社会事業行政				文献複写		
第7回	社会事業⑥			方面委員・濟世顧問制度				文献複写		
第8回	社会事業⑦			経済保護事業				文献複写		
第9回	社会事業⑧			児童保護の進展、医療保護とセツルメント				文献複写		
第10回	社会事業⑨			救護法の成立				文献複写		
第11回	戦時厚生事業①			戦時厚生事業期について				文献複写		
第12回	戦時厚生事業②			戦時下の健民健兵政策、厚生事業理論				文献複写		
第13回	戦後日本の社会福祉①			戦後社会と福祉改革				文献複写		
第14回	戦後日本の社会福祉②			社会福祉諸法の成立				文献複写		
第15回	戦後日本の社会福祉③			社会福祉の本格的形成				文献複写		
評価 方法 及び 評価 基準	客観式・短答式試験のみ。合格点に達しない場合、毎回の小テストの点数を10点まで加算するが、加点の上限は10点まで。									
課題等	毎回指示を出す									
事前事 後学修	配布資料を講義前に、辞書を引いて読んでおくこと。本学図書館における文献検索の方法を習得しておくこと。 生江孝之（1931）『日本基督教社会事業史』教文館、五味百合子編著（1973）『社会事業に生きた女性たち』ドメス出版などを使用する。尚、五味編集のものは、正篇・続篇・続々篇があり、各々その都度指示する。これらは、図書館で利用すること。									
教材 教科書 参考書	池田敬正（1994）『日本における社会福祉のあゆみ』法律文化社 ISBN:4-589-01811-x 室田保夫編著（2006）『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 ISBN:4-623-0459-6									
留意点	私語・遅刻厳禁 欠席した場合には、次の日の正午までに配布物を受け取りにくること。 国語辞典・漢和辞典を持参すること。 天候・交通機関の問題によって、オンデマンド授業とする。									

科目名	社会保障論A		科目コード	W31011	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-PPSW1-08	30時間						
区分	社会福祉系系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。また、現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解すると共に、社会保障制度の体系と概要について基礎的に理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。									
到達 目標	社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解することができる。また、現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解すると共に、社会保障制度の体系と概要について基礎的な理解ができる。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	現代社会における社会保障制度の現状(1)		人口動態の変化、少子高齢化、人口減少社会、少子高齢化と社会保障制度の関係性について学ぶ。							
第2回	現代社会における社会保障制度の現状(2)		経済環境の変化、低成長社会と社会保障の持続可能性について学ぶ。							
第3回	現代社会における社会保障制度の現状(3)		労働環境の変化、正規雇用と非正規雇用、男女雇用機会均等法、障害者雇用促進法、ワークライフバランスについて学ぶ。							
第4回	社会保障の概念や対象及びその理念(1)		障害者雇用促進法と範囲について学ぶ。							
第5回	社会保障の概念や対象及びその理念(2)		社会保障の役割と意義、セーフティネットについて学ぶ。							
第6回	社会保障の概念や対象及びその理念(3)		社会保障の理念について学ぶ。							
第7回	社会保障の概念や対象及びその理念(4)		社会保障の対象について学ぶ。							
第8回	社会保障の概念や対象及びその理念(5)		社会保障制度の展開、これまでの社会保障制度の歴史的変遷について学ぶ。							
第9回	社会保障と財政(1)		社会保障の財源、一般会計、地方経費、社会保険料、利用者負担、財政調整について学ぶ。							
第10回	社会保障と財政(2)		社会保障給付費、給付の内訳、給付動向について学ぶ。							
第11回	社会保障と財政(3)		国民負担率について学ぶ。							
第12回	社会保障と財政(4)		社会保障と経済について学ぶ。							
第13回	社会保険と社会扶助の関係(1)		社会保険の概念と範囲について学ぶ。							
第14回	社会保険と社会扶助の関係(2)		社会扶助の概念と範囲について学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障 第21版』有斐閣アルマ ISBN:									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	社会保障論B		科目コード	W31012	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-09		30時間				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会保障制度の体系と概要について理解する。また、公的保険制度と民間保険制度の関係性について理解する。さらに、諸外国における社会保障制度の概要について理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。									
到達 目標	社会保障制度の体系と概要について理解することができる。また、公的保険制度と民間保険制度の関係性について理解することができる。さらに、諸外国における社会保障制度の概要について理解することができる。									
<b>授業計画</b>										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	公的保険制度と民間保険制度の関係(1)		公的保険と民間保険の現状、公的保険と民間保険の主な種類を学ぶ。							
第2回	公的保険制度と民間保険制度の関係(2)		公的保険と民間保険の違い、それぞれの特徴について学ぶ。							
第3回	社会保障制度の体系(1)		医療保険制度等の概要、制度の目的、対象、給付内容について学ぶ。							
第4回	社会保障制度の体系(2)		前回講義内容を踏まえ、医療保険制度等の財源構成と公費負担医療について学ぶ。							
第5回	社会保障制度の体系(3)		介護保険制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第6回	社会保障制度の体系(4)		年金制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第7回	社会保障制度の体系(5)		労災保険制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第8回	社会保障制度の体系(6)		雇用保険制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第9回	社会保障制度の体系(7)		生活保護制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第10回	社会保障制度の体系(8)		社会手当制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第11回	社会保障制度の体系(9)		社会福祉制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第12回	諸外国における社会保障制度(1)		先進諸国の社会保障制度の歴史と概要について学ぶ。							
第13回	諸外国における社会保障制度(2)		東アジア地域を含む諸外国における社会保障制度の概要を学ぶ。							
第14回	諸外国における社会保障制度(3)		社会保障制度の国際比較、とくに高齢化と社会保障の給付規模、社会保障給付費の内訳について比べながら学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障 第14版』有斐閣アルマ ISBN:									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	精神保健学A		科目コード	W31015	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-10	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>この授業は、ライフサイクルの各段階におけるこころの発達を学び、現代社会の精神的健康を阻害する要因を考える。それらを踏まえて精神保健活動の実際の事例から、精神保健にかかわる施策を学ぶことで人々の精神的健康について考えることを目的とする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。</p>									
到達目標	精神保健学Aでは、精神保健福祉士を目指す学生に限らず、一般の人々を含めたこころの健康の保持・増進について精神保健の基本的な視点を学び、知識、援助方法を修得することができる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方[1]			①精神保健の動向、②精神保健活動の三つの対象				講義		
第2回	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方[2]			①精神の健康に関する心的態度、②生活と悪習慣（アディクション）				講義		
第3回	家族に関する精神保健の課題と支援[1]			①家族関係における暴力と精神保健				講義		
第4回	家族に関する精神保健の課題と支援[2]			②出産・育児をめぐる精神保健				講義		
第5回	家族に関する精神保健の課題と支援[3]			③介護めぐる精神保健				講義		
第6回	家族に関する精神保健の課題と支援[4]			④社会的ひきこもりをめぐる精神保健				講義		
第7回	家族に関する精神保健の課題と支援[5]			⑤家族関係の課題				講義		
第8回	家族に関する精神保健の課題と支援[6]			⑥グリーフケア、⑦精神保健支援を担う機関				講義		
第9回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ[1]			①学校教育における精神保健的課題				講義		
第10回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ[2]			②教員の精神保健、③関与する専門職と関係法規				講義		
第11回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ[3]			④スクールソーシャルワーカーの役割				講義		
第12回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ[4]			⑤学校保健にかかわる社会資源				講義		
第13回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ[1]			①現代日本の労働環境、②産業精神保健とその対策				講義		
第14回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ[2]			③職場のメンタルヘルスのための相談				講義		
第15回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ[3]			④職場内の問題を解決するための機関及び関係法規				講義		
評価方法及び評価基準	<p>学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。</p> <p>小テスト80%、レポート20%の割合で評価する。</p> <p>・小テストは、7回、15回に実施し、その合計点で評価する。</p> <p>・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。</p>									
課題等	メンタルヘルスにかかわるDVDを視聴し、レポート作成後に次の講義でフィードバックし理解を深める。									
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、厚生労働省の患者調査、精神保健医療福祉白書などを調べ補足する。									
教材教科書参考書	<p>【教科書】最新 精神保健福祉士養成講座2 『現代の精神保健の課題と支援』 中央法規 ISBN978-4-8058-8253-3</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2024 [令和6年版]』</p>									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。									

科目名	精神保健学B		科目コード	W31016	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PPSW2-11	時間	30時間				
区分	社会福祉系系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大原 さやか				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（DAPT、自殺予防、貧困問題、その他）と、精神保健に関する発生予防と対策（アルコール問題、うつ病と自殺防止、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害時の精神保健など）そして地域精神保健に関する諸活動と専門職種、諸外国の精神保健活動の現状と対策について概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。</p>									
到達 目標	精神保健学Bでは、狭義の精神保健とし医療・福祉・司法などの課題とアプローチ方法について学び、また、アルコール問題、薬物依存、うつ病と自殺防止、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害などに対する現状と対策やそれらに対する精神保健福祉士の役割についてを学ぶ。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ①		こころのケアチーム 支援者のケア DPAT 犯罪被害者の支援						視聴覚（スライド）使用	
第2回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ②		自殺予防 ゲートキーパー その他						視聴覚（スライド）使用	
第3回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ③		貧困問題と精神保健 社会的孤立						視聴覚（スライド）使用	
第4回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ④		反復違法行為 司法領域との連携						視聴覚（スライド）使用	
第5回	精神保健に関する発生予防と対策①		アルコール問題に対する対策 薬物依存対策						視聴覚（スライド）使用 VTR一部使用	
第6回	精神保健に関する発生予防と対策②		うつ病と自殺防止対策						視聴覚（スライド）使用 VTR一部使用	
第7回	精神保健に関する発生予防と対策③		認知症高齢者に対する対策						視聴覚（スライド）使用 VTR一部使用	
第8回	精神保健に関する発生予防と対策④		社会的ひきこもりに対する対策						視聴覚（スライド）使用 VTR一部使用	
第9回	精神保健に関する発生予防と対策⑤		災害時の精神保健に対する対策						視聴覚（スライド）使用 VTR一部使用	
第10回	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題①		関係法規 人材育成						視聴覚（スライド）使用	
第11回	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題②		古典的偏見 制御可能型偏見						視聴覚（スライド）使用	
第12回	精神保健に関する専門職種①		精神保健福祉センター 保健所 市町村						視聴覚（スライド）使用	
第13回	精神保健に関する専門職種②		当事者会 家族会 市民団体						視聴覚（スライド）使用	
第14回	諸外国の精神保健活動の現状と対策①		世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動、他						視聴覚（スライド）使用	
第15回	諸外国の精神保健活動の現状と対策②		諸外国の精神保健医療の実情、他						視聴覚（スライド）使用	
評価 方法及び 評価 基準	学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。リアクションペーパー（30%）、レポート課題2本（各15%）、定期試験（40%）で評価する。レポート課題①は、講義を聞いた上で、深く調べたものを提出する。レポート課題②は、課題図書を読み、概略をまとめ考察したものを提出する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したか評価する。									
課題等	各講義終了後にリアクションペーパーにコメントを記載する。講義後の理解度を確かめるとともに、さらに理解を深めたいことや疑問に思ったことを述べてもらい常に能動的な姿勢で講義に望む習慣を身につけたい。									
事前事後 学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、厚生労働省の患者調査、精神保健医療福祉白書などを調べ補足する。									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新 精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援 中央法規</li> <li>スライド資料や新聞記事等の資料配布</li> </ul>									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神医学A		科目コード	W31013	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PPSW2-12	時間	30時間				
区分	社会福祉系系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	相馬 信 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 精神医学の歴史、疾患の原因、症状、治療を解説する。人権の面から、入院、移送、インフォームドコンセントを学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。									
到達 目標	社会福祉士、精神保健福祉士として必要な精神疾患を理解し、人権の在り方を学び、身につける。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	精神医学概論（1）			欧米の精神医療の歴史				講義		
第2回	精神医学概論（2）			日本の精神医療の歴史				講義		
第3回	神経の生理解剖（1）			神経の解剖				講義		
第4回	神経の生理解剖（2）			神経の生理				講義		
第5回	精神障害の理解（1）			精神障害の概念				講義		
第6回	精神障害の理解（2）			精神疾患の成因と分類				講義		
第7回	症状と診断（1）			精神症状と状態像				講義		
第8回	症状と診断（2）			診断の手順と方法				講義		
第9回	症状と診断（3）			心理検査等				講義		
第10回	症状と診断（4）			国際疾病分類 I C D、診断・統計マニュアル D S M				講義		
第11回	治療と人権（1）			精神科治療と入院形態				講義		
第12回	治療と人権（2）			インフォームドコンセント				講義		
第13回	治療と人権（3）			隔離、拘束				講義		
第14回	治療と人権（4）			救急医療システム				講義		
第15回	まとめ、試験			質疑応答						
評価 方法 及び 評価 基準	学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神疾患の症状、治療などについてどの程度理解したか評価する。									
課題等	精神障害者の疾病受容について難病患者の事例をVTRで視聴し、「疾病受容の困難性について」をテーマとしたレポート作成後、次の講義の中で提出されたレポートを紹介しながらまとめフィードバックする。									
事前事 後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神医学事典、精神医学ハンドブックなどを調べ補足する。									
教材 教科書 参考書	新・精神保健福祉士養成講座 第1巻 『精神疾患とその治療』 第2版 中央法規出版 ISBN:978-4805853122									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神医学B		科目コード	W31014	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-13						
区分	社会福祉系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	和田 一丸				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 主な精神疾患（統合失調症、うつ病、不安症、摂食障害、認知症など）に関して、その成因、症状、診断、治療を中心に講義を行う。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。									
到達 目標	統合失調症やうつ病などの精神医学領域における様々な疾患および障害について、その臨床的特徴、診断および治療法を中心に理解を深めることを目標とする。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	統合失調症 1			統合失調症の概念と原因						
第2回	統合失調症 2			統合失調症の症状						
第3回	統合失調症 3			統合失調症の診断と治療						
第4回	気分障害(うつ病と双極性障害) 1			気分障害(うつ病と双極性障害) の概念と原因						
第5回	気分障害(うつ病と双極性障害) 2			気分障害(うつ病と双極性障害) の症状と治療						
第6回	心因と関係した精神疾患 1			不安症などを含む神経症性障害の概念・症状						
第7回	心因と関係した精神疾患 2			神経症性障害の診断・治療						
第8回	摂食障害・睡眠障害			神経性やせ症・神経性過食症・ナルコレプシーなどについて						
第9回	性行動の障害・パーソナリティ障害			性同一性障害・境界性パーソナリティ障害などについて						
第10回	発達障害・児童期の精神疾患			知的障害・自閉スペクトラム症などについて						
第11回	精神作用物質による精神・行動の障害			アルコール依存症などについて						
第12回	認知症			アルツハイマー型認知症などについて						
第13回	器質性精神障害			様々な器質性・症状性精神障害について						
第14回	てんかん			てんかんの原因・症状・診断・治療						
第15回	精神医療と社会			精神医療と社会との関わりについて						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度30%、定期試験70% 精神疾患についての基本的理解を試す試験問題を出し、精神医学に関する一般的知識のみならず答案の論理性を評価するとともに、授業への参加度等を考慮して総合的に成績を評価する。									
課題等	臨床精神医学に関するレポートなど課題を課す場合がある。									
事前 事後 学修	臨床精神医学に関する参考図書等を紹介する場合がある。									
教材 教科書 参考書	「最新 精神保健福祉士養成講座 1 精神医学と精神医療」 中央法規出版 ISBN 978-4-8058-8252-8									
留意点										

科目名	児童福祉論		科目コード	W31030	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-14						
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	宮田 将希			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども・家庭福祉に関する基本的な内容について学習する。</li> <li>・子ども家庭福祉が今までどのように発展し、子どもとその家族を取り巻く環境がどのように広がっているかについて学習する。</li> <li>・子ども家庭福祉領域に関する事例をもとに議論や検討を行う。</li> </ul> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連する。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭福祉に関する基本的な内容についてを理解すること。</li> </ul>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション		授業の進め方についての説明。							
第2回	子ども家庭福祉とは		子ども家庭福祉の領域について導入を行う。							
第3回	子ども家庭福祉の歴史①		子ども家庭福祉に関する歴史的な変遷について学ぶ。							
第4回	子ども家庭福祉の歴史②		子ども家庭福祉に関する歴史的な変遷について学ぶ。							
第5回	子どもの権利擁護		子どもの権利に関する条約と近年の動向について学ぶ。							
第6回	事例検討①		子ども家庭福祉に関する事例をもとに、内容についての議論・検討を行う。						ディスカッション	
第7回	子ども家庭福祉を取り巻く現状①		現代社会において子ども家庭福祉が置かれている状況について学ぶ。							
第8回	子ども家庭福祉を取り巻く現状②		現代社会において子ども家庭福祉が置かれている状況について学ぶ。							
第9回	子ども家庭福祉の法体系①		児童福祉法等の法体系について学ぶ。							
第10回	子ども家庭福祉の法体系②		児童福祉法等の法体系について学ぶ。							
第11回	事例検討②		子ども家庭福祉に関する事例をもとに、内容についての議論・検討を行う。						ディスカッション	
第12回	子ども家庭福祉施策①		子ども家庭福祉に関する行政・自治体の取り組みについて学ぶ。							
第13回	子ども家庭福祉施策②		子ども家庭福祉に関する行政・自治体の取り組みについて学ぶ。							
第14回	子ども子育て・母子支援		子どもを育てていくことと、母子保健について学ぶ。							
第15回	まとめ		これまでのまとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への参加度30%（出席・リアクションペーパー・発言等）</p> <p>期末試験70%</p>									
課題等	適宜									
事前事後 学修	授業の進捗に合わせて、指定の教科書の該当部分を予習・復習すること。									
教材 教科書 参考書	日本ソーシャルワーク教育連盟編集（2021）『最新社会福祉養成講座3「児童・家庭福祉」』中央法規 978-4-8058-8246-7									
留意点										

科目名	障害者福祉論		科目コード	W31031	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-15	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	鳴海 春輝			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について理解することができる。障害者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的部分を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について理解することができる。障害者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的部分を理解することができる。障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切なあり方を理解することができる。多職種の専門職と連携して障害者の基本的な相談支援に対応できる。</p>									
授業計画										
回	主 題			授業内容					備考	
第1回	オリエンテーション			担当者の自己紹介、授業の進め方						
第2回	障害の概念と理念①			I C F（国際生活機能分類）の目的と特徴					ディスカッション	
第3回	障害の概念と理念②			障害者の人権保障と福祉の理念					ディスカッション	
第4回	障害者の生活実態①			障害者人口の変遷、身体障害者の生活実態とニーズ					ディスカッション	
第5回	障害者の生活実態②			知的障害者及び精神障害者の生活実態とニーズ					ディスカッション	
第6回	障害者の生活実態③			発達障害者及び難病者の生活実態とニーズ					ディスカッション	
第7回	障害者権利条約			国際的な権利保障の発達過程、障害者権利条約					ディスカッション	
第8回	障害者権利保障の歴史			日本における障害者福祉のあゆみ					ディスカッション	
第9回	障害者福祉の法①			障害者基本法、障害者福祉の法体系					ディスカッション	
第10回	障害者福祉の法②			対象別の法					ディスカッション	
第11回	障害者福祉の法③			障害者虐待防止法、障害者差別解消法					ディスカッション	
第12回	障害者総合支援法と障害者支援①			障害者総合支援法までの経緯					ディスカッション	
第13回	障害者総合支援法と障害者支援②			障害者総合支援法の概要					ディスカッション	
第14回	障害者総合支援法と障害者支援③			自立支援医療、補装具、相談支援、地域生活支援事業					ディスカッション	
第15回	障害者総合支援法と障害者支援④			苦情解決と審査請求、他法との適用関係					ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>レポート30%、定期試験70%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点からレポート提出も求める。</p>									
課題等	<p>レポートは、第8回目の授業の際、課題を複数題提示し、その中から1つ選択しレポートを作成する。第11回目の授業時間に提出する。</p>									
事前事後 学修	<p>「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>教科書：新・社会福祉士シリーズ『障害者福祉』弘文堂の第1章から第5章を講義。第6章以降は補足資料として活用する。 ISBN 978-4-335-61219-0</p> <p>参考書：NHKラジオ第2放送「社会福祉セミナー」放送及びテキスト ISBN978-4-14-911080-6</p>									
留意点	<p>定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。</p>									

科目名	老人福祉論		科目コード	W31032	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
	社会福祉系系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-16	時間	30時間				
区分	社会福祉系系列科目 社会福祉士指定科目	必修	担当者名	工藤 浩行・中村 直樹			授業形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。また、高齢者福祉の歴史と高齢者親の変遷、制度の発展過程について理解する。さらに、高齢者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的な知識を理解する。高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。また、高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達目標	高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。また、高齢者福祉の歴史と高齢者親の変遷、制度の発展過程について理解することができる。さらに、高齢者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的な知識を理解することができる。高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解することができる。また、高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解することができる。									
授業計画										
回	主 題			授業内容				備 考		
第1回	高齢者の定義と高齢者の特性・高齢者の生活実態			高齢者の定義と高齢者の特性(社会的理解、身体的理解、精神的理解) 高齢期の住居、所得、世帯、雇用と就労、介護需要、介護予防				担当：工藤		
第2回	高齢者を取り巻く社会環境・高齢者福祉の理念			高齢期の独居、老老介護、ダブルケア、8050問題、高齢者虐待、介護者の離職の実態、人権尊重、尊厳の保持、老人福祉法における理念、介護保険法における理念				担当：工藤		
第3回	高齢者親の変遷・高齢者福祉制度の発展過程			敬老思想、エイジズム、社会的弱者、アクティブエイジング 高齢者福祉制度の歴史とその発展過程				担当：中村		
第4回	老人福祉法・高齢者の医療の確保に関する法律と高齢者虐待防止法			老人福祉法の概要と老人福祉法に基づく措置制度 高齢者の医療の確保に関する法律の概要、高齢者虐待防止法による虐待の未然防止、通報義務、早期発見の仕組み				担当：中村		
第5回	バリアフリー新法と高齢者住まい法・高齢者雇用安定法と育児・介護休業法			バリアフリー新法と高齢者住まい法の概要 高齢者雇用安定法と育児・介護休業法の概要				担当：中村		
第6回	高齢者と家族等の支援における関係機関の役割・関連する専門職等の役割			国、都道府県、市町村、指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会、地域包括支援センター、ハローワーク、シルバー人材センター 介護福祉士、訪問介護員、介護支援専門員、福祉用具専門相談員、医師、看護師、理学療法士、作業療法士等の専門職の役割、認知症サポーターや住民、ボランティアの活動				担当：工藤		
第7回	介護保険法と介護保険制度の概要			介護保険法と介護保険制度の概要 保険者と被保険者、保険料、介護報酬の概要				担当：中村		
第8回	介護保険の保険財政・介護保険の要介護認定の仕組みとプロセス			介護保険の保険財政 介護保険の要介護認定の仕組みとプロセス				担当：中村		
第9回	介護保険の居宅サービスの種類・介護保険の施設サービスの種類			介護保険の居宅サービスの種類、サービスの特徴 介護保険の施設サービスの種類、サービスの特徴				担当：中村		
第10回	介護保険の地域密着型サービスの種類・近年の介護保険法改正と制度の変更点			介護保険の地域密着型サービスの種類、サービスの特徴 近年の介護保険法改正と制度の変更点、共生型サービス、地域支援事業の拡充				担当：中村		
第11回	地域支援事業・介護保険サービスの利用負担と利用者負担の軽減策			地域支援事業の内容、介護保険サービスの利用負担の仕組み、高額介護サービス費、高額介護合算療養費等の利用者負担の軽減策				担当：中村		
第12回	介護保険事業計画・地域包括支援センターの組織体系と役割			市町村による介護保険事業計画、地域包括支援センターの組織体系と役割				担当：中村		
第13回	総合事業、介護予防・生活支援サービス事業への住民参画・高齢者領域における社会福祉士の役割			総合事業、介護予防・生活支援サービス事業への住民参画の視点、高齢者領域における社会福祉士の役割				担当：工藤		
第14回	高齢者と家族に対する支援・多職種連携による高齢者と家族の支援の実例			高齢者とその家族に対する支援、介護をしながら就労する家族の支援、介護予防の支援、地域包括包括ケアシステムにおける認知症高齢者支援の実例				担当：工藤		
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめ				担当：中村		
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①期末試験(70%)、②授業内課題(30%)で、総合的に評価する。総合して60%以上の者に対し単位を認定する。</li> <li>期末試験は、到達目標をもとに、全体像を理解できているかについて評価する。</li> <li>授業内課題は、毎回の授業終了時にリアクションペーパーの記入・提出により評価する。また、適宜、グループ発表等の評価も加点する。</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス内容に関するグループ プレゼンテーション (調べ学習・発表)</li> <li>・リアクションペーパー</li> </ul>									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書：社会福祉士養成講座編(2021)『高齢者福祉』中央法規      参考書：『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、社会福祉士国家試験資格取得「指定科目」である。</li> <li>・保健・医療・福祉に関連する事件やニュースについて関心を払い、毎回、1件以上の事件やニュースについて具体的に発表・記述できるようにしておくこと。</li> <li>・期末試験は、学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するように心がけること。</li> </ul>									

科目名	公的扶助論		科目コード	W31035	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
	社会福祉系系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-17	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉系系列科目 社会福祉士指定科目	必修	担当者名	丸山 龍太			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	〔授業の主旨〕 公的扶助（生活保護）は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度である。公的扶助論Aでは、次の4つの項目の理解を促す。 ①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。 ③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④貧困による生活課題を踏まえ、謝意か福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達目標	到達目標として講義を通じて次の4つの項目の理解を促す。 ①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。 ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解することができる。 ③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解することができる。 ④貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解することができる。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	貧困の概念		①貧困の概念(絶対的貧困、相対的貧困、社会的排除、社会的孤立)、②公的扶助の意義と範囲(公的扶助の意義、生存権、セーフティネット、ナショナルミニマム)、③公的扶助の範囲(狭義、広義)について学ぶ。						講義・Think pair share	
第2回	貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境		貧困状態にある人の生活実態(健康、居住、就労、教育、社会資本関係)及び社会環境(経済構造の変化、家族や地域の変化、格差の拡大、社会的孤立)について学ぶ。						講義・Think pair share	
第3回	貧困の歴史(1)		①貧困状態にある人に対する福祉の理念(人権の尊重、尊厳の保持、貧困、格差、差別の解消)、②貧困観の変遷(スティグマ、貧困の測定、貧困の発見)について学ぶ。						講義・Think pair share	
第4回	貧困の歴史(2)		貧困に対する制度の発展過程、救貧制度(日本、諸外国)、生活保護法、ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法、子どもの貧困対策の推進に関する法律、生活困窮者自立支援法の概要を学ぶ。						講義・Think pair share	
第5回	貧困の歴史(3)		"						講義・Think pair share	
第6回	貧困に対する法制度(1) 生活保護法①		①生活保護法の原理と原則と概要、②生活保護制度の動向、③最低生活費と生活保護基準、④福祉事務所の機能と役割について学ぶ。						講義・Think pair share	
第7回	貧困に対する法制度(2) 生活保護法②		③最低生活費と生活保護基準、④福祉事務所の機能と役割について学ぶ。①生活保護に関する相談の流れ、②自立支援、就労支援の考え方と自立支援プログラム、③生活保護施設の役割について学ぶ。						講義・Think pair share	
第8回	貧困に対する法制度(3) 生活保護法③ 自立支援プログラム		①生活保護に関する相談の流れ、②自立支援、就労支援の考え方と自立支援プログラム、③生活保護施設の役割について学ぶ。						講義・Think pair share	
第9回	貧困に対する法制度(4) 生活困窮者自立支援法		①生活困窮者自立支援法の理念と概要、②生活困窮者自立支援制度の動向、③自立相談支援事業と任意事業、④生活困窮者自立支援制度における組織と実施体制、⑤相談支援の流れといった制度の概要を学ぶ。						講義・Think pair share	
第10回	貧困に対する法制度(5) 低所得者・ホームレス対策		①生活福祉資金貸付制度、②無料低額診療事業、③無料低額宿泊所、④求職者支援制度、⑤法律扶助、⑥低所得者への住宅政策と住居支援⑦ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法の概要⑧ホームレスの考え方と動向、⑨ホームレス支援施策について学ぶ。						講義・Think pair share	
第11回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割(1)		①貧困に対する支援における公私の役割関係(行政の責務、公私の役割)、②国、都道府県、市町村の役割(国の役割、都道府県の役割、市町村の役割)、③福祉事務所の役割(福祉事務所の組織と業務)について学ぶ。						講義・Think pair share	
第12回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割(2)		①自立相談支援機関の組織、役割、業務について、②その他の貧困に対する支援における関係機関の役割(社会福祉協議会、ハローワーク、地域若者サポートステーション、民間支援団体等)、関連する専門職等の役割、について学ぶ。						講義・Think pair share	
第13回	多職種連携を含む、貧困に対する支援実際 — 社会福祉士の役割—①		①ソーシャルワークを展開する上で害悪であるスティグマの基礎的理解を図る。②スティグマの理解及び克服の必要性を「ソーシャルワーカーの倫理綱領」を通じて理解する。③スティグマ撲滅に向けた課題を確認する。						講義・Think pair share	
第14回	多職種連携を含む、貧困に対する支援実際 — 社会福祉士の役割—②		①生活保護制度及び生活保護施設における自立支援、就労支援、居住支援の実際、②生活困窮者自立支援法における自立支援、就労支援、居住支援の実際、③生活福祉資金貸付を通じた自立支援の実際、④多機関及び多職種、住民、企業等との連携による地域づくりや参加の場づくりの実際について事例を通じて学ぶ。						講義・Think pair share	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。						講義	
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。課題20%、試験60%、授業への参加度20%で評価する。レポート課題は、能動的な学習によって知識の活用が図られているかを問う。試験は、到達目標に即した問題を出題し、基本的理解を得られているかを問う。参加度は、毎回協同学習の1つである「Think-Pair-Share」をWI-FIを用いて実施する中で、その活動への関わり方等を踏まえ評価を行う。									
課題等	第8回目を別途レポート課題をTEAMSで提示するので、TEAMSにより提出する。レポート課題を通じて授業への理解度を図ると同時に復習の時間とする。復習は1回の授業につき90分程度の時間を要する内容とする。									
事前事後学修	毎回、次週の授業に必要な事柄を予習するよう具体的に指示する。予習は1回の授業につき90分程度の内容とする。この予習は授業内のThink-Pair-Shareを行う為に必須となる。									
教材教科書参考書	伊藤秀一編著『貧困に対する支援』弘文堂、2022年 (ISBN 978-4-335-61221-3)									
留意点	「慈悲的救済から権利的保障へ」と発展した公的扶助は近年大きく揺らいでいる。貧困に対抗する為に何をどうすべきか。講義を通じ共に考えることとしたい。									

科目名	地域福祉論A		科目コード	W33009	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-18	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉系系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋 和幸			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。また、地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の理念を理解する。さらに、地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。加えて、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開の基礎的部分を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解することができる。また、地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の理念を理解することができる。さらに、地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解することができる。加えて、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開の基礎的部分を理解することができる。									
授業計画										
回	主題		授業内容						備考	
第1回	地域福祉の概念と理論		地域福祉の概念、地域福祉の構造と機能、福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス論、ボランティア、市民活動論、共生社会について学ぶ。							
第2回	地域福祉の発展過程(歴史)		セツルメント、COS、社会事業、社会福祉協議会、民生委員、児童委員、共同募金、在宅福祉、施設の社会化、地方分権、社会福祉基礎構造改革、地域自立生活、地域包括ケア。地域共生社会の概要について学ぶ。							
第3回	地域福祉の動向		コミュニティソーシャルワーク、コミュニティサービス、地域再生、ケアリングコミュニティについて学ぶ。							
第4回	地域福祉の推進主体		地方自治体、NPO、市民活動組織、中間支援組織、町内会、自治会等地縁組織、民生児童委員、保護司、社会福祉協議会等について学ぶ。						地域福祉の多様な推進主体に関する小テスト	
第5回	地域福祉の主体と形成		当事者、代弁者、ボランティア、市民活動、住民活動、住民主体、参加と協働、エンパワメント、アドボカシー、福祉教育について学ぶ。							
第6回	福祉行政システム(1)		国の役割、都道府県の役割、市町村の役割、法定受託事務と自治事務、福祉行政の広域調整、事業者の指導監督、サービスの運営主体、条例、社会福祉審議会について学ぶ。							
第7回	福祉行政システム(2)		福祉行政の組織及び専門職の役割、とくに福祉事務所と児童相談所、それらの機関で働く専門職、福祉における財源について学ぶ。							
第8回	福祉計画の意義・目的と展開		福祉行財政と福祉計画の関係、福祉計画の関係、福祉計画の歴史、福祉計画の種類について学ぶ。							
第9回	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容		地域福祉と計画行政の関係、市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画の定義、機能、地域福祉活動計画との関係について学ぶ。						Wi-Fiに接続し地元の地域福祉計画等を調べる	
第10回	福祉計画の策定過程と方法		計画策定に向けた課題把握、分析、協議と合意形成について学ぶ。						福祉計画の策定過程と方法に関する小テスト	
第11回	福祉計画の実施と評価		サービス評価、プログラム評価について学ぶ。							
第12回	地域社会の変化と多様化		地域社会の理念と理論、地域社会の変化(過疎化・都市化・地域間格差外国人住民の増加等)について学ぶ。							
第13回	多様化複雑化した地域生活課題の現状とニーズ		ひきこもり、ニート、8050問題、ダブルケア、依存症、多文化共生、自殺、災害と被災者支援について学ぶ。						オンデマンド授業	
第14回	地域福祉と社会的孤立の問題について		社会的孤立、社会的排除、セルフネグレクト等、社会的な孤立の問題について学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。						興味のある市町村社協事業を調べ報告(PBL)	
評価方法及び評価基準	講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。また、レポート様式をオンライン授業ファイルにアップし活用してもらう。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『地域福祉と包括的支援体制』中央法規 ISBN 978-4-8058-8865-0、参考書として、いとう総研資格取得支援センター編(2023)『社会福祉士国試ナビ2024』中央法規 ISBN-978-4-8058-848-5(但し毎年7月に最新版が出るので、参考書購入は任意である)									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。</li> <li>・第13回目はオンデマンド授業とする。受講者は指定された期間に、ネット上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題を提出してください。詳細は授業内にて説明する。</li> </ul>									

科目名	地域福祉論B		科目コード	W33010	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
	科目ナンバリング		W-PPSW2-19	時間	30時間	学年				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋 和幸			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。また、包括的支援体制の考え方や、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。さらに、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解することができる。また、包括的支援体制の考え方や、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解することができる。さらに、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解することができる。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	包括的支援体制について		包括的支援体制の考え方や、包括的支援体制の展開について学ぶ。							
第2回	地域包括ケアシステムについて		地域包括ケアの考え方や展開方法、精神障害にも対応した地域包括ケアの展開、子育て世代包括支援センターについて学ぶ。							
第3回	生活困窮者自立支援の考え方(1)		生活困窮者自立支援制度と理念、自立相談機関による支援過程と方法及び実際について学ぶ。							
第4回	生活困窮者自立支援の考え方(2)		件奏型の支援と対象者横断的な包括的相談支援、個人および世帯の支援、居住支援、就労支援、家計支援、子どもの学習・生活支援について学ぶ。						生活困窮者支援に関する小テスト	
第5回	地域共生社会の実現に向けた各種施策について		多機関協働による包括的支援体制、住民に身近な圏域における相談支援体制について学ぶ。							
第6回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働を促進する仕組み(1)		総合相談、各種相談機関の連携、協議体、地域ケア会議について学ぶ。							
第7回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働を促進する仕組み(2)		地域包括支援センター運営協議会、要保護児童対策地域協議会、障害者自立支援協議会について学ぶ。						多機関連携に関する小テスト	
第8回	地域共生社会の実現に向けた多職種連携		保健・医療・福祉に関わる他職種連携、生活支援全般に関わるネットワーク、多職種連携等における個人情報保護について学ぶ。						多職種連携に関する小テスト	
第9回	地域共生社会の実現に向けた福祉以外の分野との機関協働の実際		社会的企業、農福連携、観光や商工労働等との連携、地方創生について学ぶ。						Wi-Fiに接続し農福連携、商工労働分野等と連携した取組実践事例を調べる	
第10回	非常時や災害時における法制度		災害対策基本法、災害救助法、各自治体等の避難計画について学ぶ。							
第11回	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援		災害時要援護者支援、BCP、福祉避難所運営、災害ボランティアについて学ぶ。							
第12回	地域福祉ガバナンス(1)		地域福祉と包括支援体制を推進するためのガバナンスの考え方や、多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性について学ぶ。							
第13回	地域福祉ガバナンス(2)		社会福祉法における包括的な支援体制づくり、住民参加と協働、住民自治、プラットフォームの形成と運営について学ぶ。							
第14回	地域共生社会の構築		地域共生社会、地域力の強化、包括的支援体制について学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。						地元の地域包括ケアに向けた取り組み状況と課題を調べ報告(PBL)	
評価方法及び評価基準	講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。また、レポート様式をオンライン授業ファイルにアップし活用してもらう。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『地域福祉と包括的支援体制』中央法規 ISBN 978-4-8058-8236-8、参考書としてという総研資格取得支援センター編(2023)『社会福祉士国試ナビ2024』中央法規 ISBN-978-4-8058-8865-0(毎年7月に最新版が出るので参考書購入は任意だが最新版入手のこと)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	保健医療論		科目コード	W33013	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
	社会福祉系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-20	時間	30時間				
区分	社会福祉士指定科目	必修	担当者名	葛西 孝幸			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 保健医療の課題を持つ人を支援するのは医療ソーシャルワーカーと思われがちですが、医療の提供システムとして地域完結型へと変化する中で、保健医療領域以外で実践を行うあらゆる領域の社会福祉士にも大きく関連します。本科目では、保健医療の動向、社会保険制度や診療報酬制度など保健医療の政策・制度・サービス、保健医療領域における社会福祉士の役割と連携・支援のあり方を理解することを目的とします。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の現状や福祉的課題について説明できる。 2) 保健医療に係る政策、制度、サービスについて説明できる。 3) 保健医療領域における社会福祉士の役割と、院内および関係機関との連携や協働について説明できる。 4) 保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援の実践について説明できる。</p>									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	オリエンテーション／保健医療領域におけるソーシャルワークの対象者の理解①		授業の概要を説明する。／健康の定義と病者、ならびに病をもつことによって生じる諸問題を学ぶ。					講義、PBL テキスト第1章		
第2回	保健医療領域におけるソーシャルワークの対象者の理解②		疾病・障害が家族に与える生活上の影響と家族支援の必要性、ならびに保健医療領域における患者の権利を学ぶ。					講義 テキスト第1章		
第3回	医療倫理と倫理的課題		医療倫理の基礎、ならびに生殖医療・移植医療・終末期医療における倫理的課題を学ぶ。					講義 テキスト第2章		
第4回	意思決定支援をめぐる諸課題		意思決定支援およびアドバンスケアプランニングにおける諸問題を学ぶ。					講義 テキスト第2章		
第5回	保健医療の動向①		疾病構造とその経年的な動向について学ぶ。					講義 テキスト第3章		
第6回	保健医療の動向②		地域完結型医療／在宅医療推進の背景と課題、ならびに地域包括ケアシステムにおける医療機関の役割について学ぶ。					講義 テキスト第3章		
第7回	保健医療の動向③		保健医療における福祉的課題の概要について学ぶ。					講義、PBL テキスト第3章		
第8回	保健医療に係る政策・制度		保健医療の政策・制度について、全体像を外観し、その課題と方向性を学ぶ。					講義 テキスト第4章		
第9回	保健医療サービスの理解		保健医療サービスの提供体制を体系的に捉え、各サービスの整備に関する基礎を学ぶ。					講義 テキスト第4章		
第10回	医療費の保障		医療費保障制度を体系的に捉え、医療費に関する社会資源と介護等に関する社会資源を学ぶ。					講義 テキスト第4章		
第11回	保健医療領域における専門職の役割と連携①		連携する医療の専門職とチーム医療、ならびにチームのタイプによる特徴と機能、連携におけるコンフリクトを学ぶ。					講義、PBL テキスト第5章		
第12回	保健医療領域における専門職の役割と連携②		医療を取り巻く社会環境と、地域の関係機関との連携の必要性を学ぶ。					講義 テキスト第5章		
第13回	保健医療領域における専門職の役割と連携③		医療ソーシャルワーカーが所属する所属する部門、ならびにケース発見と情報共有の仕組みを学ぶ。					講義 テキスト第5章		
第14回	医療ソーシャルワーカーの歴史		イギリス、アメリカ、日本における医療ソーシャルワーカーの歴史、ならびに業務指針から支援の実践を学ぶ。					講義 テキスト第6章		
第15回	保健医療領域における支援の実践		医療ソーシャルワーカーが行う判断、活用している知識や技術を事例から学ぶ。					講義、PBL テキスト第6章		
評価方法及び評価基準	定期試験70%、提出課題20%、PBL等授業への参加度10%で評価します。									
課題等										
事前事後学修	講義を理解するためには予習復習が欠かせません。一読で良いので、教科書の該当部分に目を通してください。									
教材教科書参考書	<p>【教科書】日本ソーシャルワーク教育学校連盟『保健医療と福祉』中央法規出版（2021） 978-4-8058-8248-1 【参考書】NP0法人日本医療ソーシャルワーク研究会編集『医療福祉総合ガイドブック』医学書院（2024）2024年4月発売</p>									
留意点	この科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目です。									

科目名	更生保護論		科目コード	W33014	単位数	2単位	対象	4年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-21	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉系系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	平野 潔			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>更生保護制度を中心に刑事司法制度の枠組みを理解した上で、あるべき犯罪者・非行少年の自立支援のあり方について考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3, 5-4に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>刑事司法制度が身近な問題であり、国民一人一人が考えたり取り組んだりしなければならない問題であることを実感できる。</li> <li>刑事司法制度の仕組みや手続きを、そのような仕組みや手続きが準備されている理由を含めて理解する。</li> <li>犯罪や非行からの立ち直りに関して、現在どのような問題が起きており、それに対してどのような対策が採られているかを把握する。</li> <li>更生保護が抱える問題点を理解した上で、更生保護のあるべき姿について自分なりの考えを持つことが出来る。</li> </ul>									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	刑事司法制度の全体像		刑事司法と福祉がどのような接点を持つのかを示した上で、架空事例を用いながら刑事司法制度について概説する。						講義	
第2回	犯罪と刑罰		刑法の基本原則や犯罪の成立要件を概説する。また、刑罰の正当化根拠も含めて、刑罰制度について解説する。						講義	
第3回	刑事事件の手続きと施設内処遇		刑事訴訟手続きの基本原則を示した上で、刑事事件の手続を概説する。また、刑事施設内での処遇について解説する。						講義	
第4回	少年法と少年事件の手続き		少年法の理念を示したうえで、少年事件の手続を概説する。また、少年に対する処遇についても解説する。						講義	
第5回	更生保護の基本原則		更生保護の目的、内容などを概説した上で、更生保護の基本原則について説明する。						講義	
第6回	仮釈放①		仮釈放制度の意義や手続きを説明した上で、とくに成人に対する仮釈放について、その趣旨などを解説する。						講義	
第7回	仮釈放②・生活環境の調整		仮釈放のうち、少年に対する仮釈放について解説する。また、生活環境の調整の意義や内容について説明する。						講義	
第8回	保護観察制度の概要①		保護観察の基本的な内容を解説した上で、主として少年の保護観察について、その種類や手続き等を説明する。						講義	
第9回	保護観察制度の概要②・更生緊急保護		成人を対象とする保護観察の種類・手続き等について解説をする。また、更生緊急保護の位置づけ・手続き等の説明をする。						講義	
第10回	更生保護の担い手①		保護観察の中核を担う保護観察官と保護司について、その職務内容を説明する。また、更生保護施設の役割も解説する。						講義	
第11回	更生保護の担い手②		民間の協力者である更生保護女性会、BBS会、協力雇用主の活動内容を中心に、それぞれが担う役割を説明する。						講義	
第12回	医療観察制度①		医療観察法が成立する前にどのような問題が生じていたのかを分析した上で、医療観察法成立の背景を説明する。						講義	
第13回	医療観察制度②		医療観察法の手続きやしきを紹介した上で、それがどのような意図のもとに作られたのかを解説する。						講義	
第14回	犯罪被害者の支援		犯罪被害者支援の歴史を概観した上で、とくに更生保護における被害者支援の制度について解説する。						講義	
第15回	更生保護の近時の動向と今後の課題		これまでの講義内容から現在の更生保護の問題点を抽出し、その解決策として近時提示されている新たな取り組み・課題を紹介する。						講義	
評価方法及び評価基準	<p>平常評価 30%</p> <p>(授業の感想記入、質問等への回答、授業中の受講態度、授業の要約(「授業のまとめ」)等を総合して平常評価とする。ただ授業に出ているだけでは、点数はつかないので注意すること。)</p> <p>定期試験 70%</p> <p>(授業内容から「論述問題」を中心に出題する。試験の際には、授業中に配布した資料と自筆ノートのみ持ち込みを認める。採点のポイントは、授業で扱った用語、制度の趣旨、手続きなどを理解した上で、それを相手に伝えるような形で表現できているか、自分なりの考えを表現できているかという点になります。)</p>									
課題等	<p>授業終了時に感想や質問を記入してもらおう。それについては、次の授業時にコメントを行う。また、「授業のまとめ」に関しては、次の授業時に回収してチェックをし、理解が不十分と思われる点については、次々回の授業時に解説を行う。</p>									
事前事後学修	<p>毎回授業終了時に次の学習範囲とポイントを、事前に目を通しておいて欲しい資料を示すので、事前に資料を読むなどして調べておくこと。事前学修としては1時間程度が必要である。</p> <p>事後学修として、授業内容を復習した上で「授業のまとめ」をやってきてもらう。事後学修としては2時間程度が必要である。</p>									
教材教科書参考書	<p>とくに指定しない。授業時に資料を配布し、それに従って授業を進める。</p> <p>参考書等は開講時に紹介する。</p>									
留意点	<p>毎回の授業終了時にはコメント記入を求められるし、次回までにやってくる課題(「授業のまとめ」)が出される。コメントや課題の内容によっては点数がつかないこともある。授業そのものに関しても、ただ授業に来ているだけで居眠りをしたり内職をしたりしている場合には平常評価にはカウントされない。</p> <p>本講義に関しては、授業中ただ座って話を聞いているだけでは意味が無い。つねに何が問題となっているのか、それを解決するためにはどのようにすればいいのか、ということを考えながら授業を受けること。また、授業中は受講生の皆さんに条文を読んでもらったりするので、そのつもりで緊張感をもって授業に臨んで欲しい。</p>									

科目名	社会福祉経営論		科目コード	W33015	単位数	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-22	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	保田 宗良			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉法人の経営を多角的に学習します。人材の育成、効果的なマネジメントの方策に力点を置きます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3, 5-4に関連している。									
到達 目標	福祉サービスの経営を理解するために基礎知識を修得します。社会福祉法人の施設長、正規職員が修得すべき専門知識を学習しますが、福祉職以外の専門職と連携して、組織を設計する際の専門知識にも言及します。人づくり、地域コミュニティづくりに力点を置き、福祉人材の育成、人材マネジメントの意義、その進め方を理解できることを到達目標とします。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	福祉サービスの全体像		福祉サービスの概念を明確に示唆し、本講義で学習する範囲を定めます。他のサービス業との比較考察を行い、その独自性を抽出します。							
第2回	福祉サービスを提供する組織		福祉サービスを提供する組織を類型化します。社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人、その他に分類してそれぞれの特徴を学習します。							
第3回	福祉サービスの沿革と概況		福祉サービスの歴史、社会福祉法人制度改革についての流れを把握します。							
第4回	組織間連携と促進		昨今の福祉サービスは、組織間連携、多職種連携の形式が多く見られます。チームで連携する方策を学習します。							
第5回	組織運営の基礎理論		組織論について学習を進め、福祉サービスの組織構築を考えます。課題を提示し、班ごとに対応策を議論します。					グループワーク		
第6回	集団力学の基礎理論		集団の意思決定、コンフリクト（葛藤）について複数の事例を用いて検討します。							
第7回	リーダーシップの基礎理論		福祉サービスに求められるリーダー像、リーダーシップを具体的に検討します。							
第8回	経営体制		社会福祉法人で望ましい経営体制を学習します。					中間レポート提出		
第9回	コンプライアンスとガバナンス		社会福祉法人に求められるコンプライアンスとガバナンスの特徴を理解します。							
第10回	福祉サービスの経営管理		マーケティングとリスクマネジメントの戦略を、事例を考慮して班ごとに議論します。					グループワーク		
第11回	情報管理		福祉サービスの情報、その管理と運用方法について問題点を意識して学習します。							
第12回	会計管理と財務管理		社会福祉法人の財務管理、会計管理を学習し、財務諸表の見方を丁寧に学習します。							
第13回	福祉人材マネジメント		福祉人材の確保と採用、評価システムについて考察を進めます。							
第14回	福祉人材の育成		キャリアパスを考慮した、非正規職員を含む福祉人材の育成方法を検討します。							
第15回	半期のまとめ		半期の学習を整理し、論点を班ごとに議論し内容をまとめてもらいます。					グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	中間レポート（50点満点）＋学期末試験（50点満点）で評価します。教科書を精読し、講義で習得した専門知識を展開し、明快に記述していることを重要視します。レポートは点数とコメントを付けて早めに返却します。									
課題等	中間レポートのテーマに対する理解度を確認し、必要があれば課題を出題します。									
事前事後 学修	毎回、教科書の復習範囲、予習範囲を指示します。学修の要点を端的に指摘します。予習＋復習の準備学修は週3時間です。									
教材 教科書 参考書	教科書 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）「福祉サービスの組織と経営」中央法規 ISBN 978-4-8058-8244-3									
留意点	出席を重ね、専門知識を蓄積することが大切です。欠席者には後日配布資料を渡しますが自習をして頂きます。									

科目名	精神保健福祉の原理A		科目コード	W31033	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-23						
区分	社会福祉系系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大原 さやか				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉の原論Aでは、「障害者福祉の理念と歴史的展開」、「精神障害と精神障害者の概念」を学び、精神保健福祉士の主な対象となる人と社会の捉え方を理解する。また「精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造」では、歴史的事実のみでなく、そこから人権や社会正義に照らして教訓とすべき考え方を習得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について学ぶ。②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的とともに、生活実態について学ぶ。③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション		精神保健福祉の原理を学ぶ意義と目的の理解						視聴覚（スライド） 使用	
第2回	障害者福祉の思想と原理		優生思想と社会防衛思想/基本的人権の保障/社会正義の実現/法の下での平等						視聴覚（スライド） 使用	
第3回	障害者福祉の理念・リハビリテーション		ノーマライゼーション/エンパワメント/自立生活/機会均等/ソーシャル・インクルージョン						視聴覚（スライド） 使用	
第4回	障害の者福祉の歴史的展開		基本的人権の保障（自由権と社会権）/自立支援・社会参加支援/消費者としての権利保障						視聴覚（スライド） 使用	
第5回	障害のとらえ方		国際生活機能分類に基づく障害のとらえ方（ICF/ICIDH） 制度における「精神障害者」の定義						視聴覚（スライド） 使用	
第6回	精神障害の障害特性		蜂矢モデル/ICFモデル/上田敏モデル						視聴覚（スライド） 使用	
第7回	障害者に対する処遇の歴史①		諸外国の動向（ビーズ/魔女裁判/精神障害者の保護及び精神保健ケア改善のための諸原則）						視聴覚（スライド） 使用	
第8回	障害者に対する処遇の歴史②		日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事						視聴覚（スライド） 使用	
第9回	障害者に対する処遇の歴史③		日本社会におけるさまざまな局面で発生する障害者排除や障壁						視聴覚（スライド） 使用	
第10回	障害者に対する処遇の歴史④		現代の日本における精神障害者の活動						ゲスト講演	
第11回	精神障害者の生活実態①		精神科医療の特異性との関連（強制入院・治療/精神科特例/病床数と在院日数/隔離と身体的拘束など）						視聴覚（スライド） 使用	
第12回	精神障害者の生活実態②		精神障害者の家族（強制入院における保護者制度の歴史/家族とその生活実態/家族の多様性）						視聴覚（スライド） 使用	
第13回	精神障害者の生活実態③		社会生活（居住形態、家族の同居率/生活保障（生活保護・年金・手帳）/就労など）						視聴覚（スライド） 使用	
第14回	メンタルヘルスの動向		学校や職場におけるメンタルヘルス						視聴覚（スライド） 使用	
第15回	メンタルヘルスの動向とソーシャルワークの課題		メンタルヘルスをめぐる新たな課題を理解する						視聴覚（スライド） 使用	
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。リアクションペーパー（60%）、レポート課題（20%）定期試験（20%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したかを評価する。									
課題等	講義を通して自分自身で調べたい内容を決め、調べた内容とその考察をレポートにまとめる									
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉関連の書籍等を読む。お勧め図書は講義内で適宜紹介する。									
教材教科書参考書	最新・精神保健福祉士養成講座 第5巻「精神保健福祉の原理」中央法規出版（2021）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健福祉の原理B		科目コード	W31034	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-24						
区分	社会福祉系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大原 さやか			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉の原理Bでは、「精神障害者の生活特性」において精神障害のある人々が置かれている状況や生活実態の理解を深める。「精神保健福祉の原理と理念」における人々や環境・状況に対するソーシャルワークの展開を支える精神保健福祉士の存在意義を理解する。また「精神保健福祉士の役割と機能」では、実践上の着眼点や場面・状況に応じた具体的行為の特性を学ぶ。過去の歴史を学ぶ側面に加え、近年の動向を踏まえたメンタルヘルスソーシャルワークを学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	精神障害者へのかかわりについて、①精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く②現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について③精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割について④近年の精神保健福祉士の職域と業務特性などを学ぶ									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	精神障害者の生活実態①			精神科医療の特異性				視聴覚（スライド）使用		
第2回	精神障害者の生活実態②			家族、社会生活				視聴覚（スライド）使用		
第3回	「精神保健福祉士」の資格化の経緯と精神保健福祉の原理と理念①			「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯、原理・価値				視聴覚（スライド）使用		
第4回	「精神保健福祉士」の資格化の経緯と精神保健福祉の原理と理念②			観点・視点、関係性				視聴覚（スライド）使用		
第5回	「精神保健福祉士」の機能と役割⑤			精神保健福祉士法【1】				視聴覚（スライド）使用		
第6回	「精神保健福祉士」の機能と役割⑥			精神保健福祉士法【2】				視聴覚（スライド）使用		
第7回	精神保健福祉士の職業倫理①			①倫理綱領 ②倫理的ジレンマ ③専門職団体の意義と役割				視聴覚（スライド）使用		
第8回	精神保健福祉士の職業倫理②			①倫理綱領 ②倫理的ジレンマ ③専門職団体の意義と役割				視聴覚（スライド）使用		
第9回	精神保健福祉士の業務①			精神保健福祉士の業務特性【1】				視聴覚（スライド）使用		
第10回	精神保健福祉士の業務②			精神保健福祉士の業務特性【2】				視聴覚（スライド）使用		
第11回	精神保健福祉士の業務③			精神保健福祉士の業務特性【3】				視聴覚（スライド）使用		
第12回	精神保健福祉士の職業①			精神保健福祉士の職場・職域【1】				視聴覚（スライド）使用		
第13回	精神保健福祉士の職業②			精神保健福祉士の職場・職域【2】				視聴覚（スライド）使用		
第14回	精神保健福祉士の業務指針①			精神保健福祉士の業務内容と業務指針【1】				視聴覚（スライド）使用		
第15回	精神保健福祉士の業務指針②			精神保健福祉士の業務内容と業務指針【2】				視聴覚（スライド）使用		
評価 方法 及び 評価 基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。リアクションペーパー（30%）、レポート課題2本（各20%ずつ）、定期試験（30%）で評価する。レポート①は指定課題、レポート②は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したか評価する。									
課題等	講義を通して自分自身で調べたい内容を決め、調べた内容とその考察をレポートにまとめる									
事前事後 学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉関連の書籍等を読む。お勧め図書は講義内で適宜紹介する。									
教材 教科書 参考書	最新・精神保健福祉士養成講座 第5巻「精神保健福祉の原理」中央法規出版（2021）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健福祉制度論		科目コード	W31036	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
	社会福祉系科目		科目ナンバリング	W-PPSW2-25	時間	30時間	学年		学期	
区分	精神保健福祉士指定科目	選択必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>近年、私たちを取り巻く環境は著しく変化し、メンタルヘルスに課題のある人々が増えている。この授業では、精神保健に関連する法体系や精神疾患、精神障害に関連する法制度や法体系を学ぶため、予習と復習を繰り返しながら精神保健福祉士としての知識および応用を学修する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法制度（精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度や、生活支援に関する制度、生活保護制度、生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題等、障害者総合支援法等）を理解することができる。</li> <li>・法制度の理解を深める方法としてwhy, what, who, where, when, How was, How many, How machiに関連づけて考えることができる。</li> </ul>									
授業計画										
回	主題		授業内容					備考		
第1回	精神障害者に関する制度・施策の理解①		オリエンテーション、精神障害者に関する制度・施策の体系を知る					講義		
第2回	精神障害者に関する制度・施策の理解②		精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴；精神障害者に関する制度活用の流れとその事例を学ぶ					講義		
第3回	精神障害者の医療に関する制度①		精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割を学ぶ					講義、予習課題①		
第4回	精神障害者の医療に関する制度②		精神科医療がかかわりも持つ施策を学ぶ					講義		
第5回	精神障害者の医療に関する制度③		医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割を学ぶ					講義、予習課題②		
第6回	精神障害者の医療に関する制度④		精神障害者の医療と関連する施策を学ぶ					講義		
第7回	精神障害者の生活支援に関する制度①		生活支援の基本的な考え方：障害者総合支援法を学ぶ					講義、予習課題③		
第8回	精神障害者の生活支援に関する制度②		相談支援制度の概要と内容、精神保健福祉士の役割を学ぶ					講義		
第9回	精神障害者の生活支援に関する制度③		居住支援制度の概要と内容、精神保健福祉士の役割を学ぶ					講義、予習課題④		
第10回	精神障害者の経済的支援①		精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の意義と役割を学ぶ					講義		
第11回	精神障害者の経済的支援②		所得保障にかかわる経済的支援を学ぶ					講義		
第12回	精神障害者の経済的支援③		経済的負担軽減を学ぶ					講義		
第13回	精神障害者と生活困窮①		生活困窮と生活保護制度を学ぶ					講義、予習課題⑤		
第14回	精神障害者と生活困窮②		生活困窮者自立支援制度を学ぶ					講義、予習課題⑥		
第15回	精神障害者と生活困窮③（まとめ）		低所得者対策の概要と経済・居住・生活支援などを学ぶ					講義		
評価方法及び評価基準	<p>小テスト60%、毎週の課題提出40%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストは、7回、15回に実施し、その合計点で評価する。</li> <li>・毎週の課題提出は、福祉小六法の条文とテキストを参考にしてまとめる（誤字脱字、論理的な記述、理解の程度等で評価する）。</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業予習として指定された法律を読んで授業に臨むこと</li> <li>・予習復習を通して内容の理解に努め、テストに備えること</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、保健に関係する図書や新聞を読むこと。</li> <li>・予習復習を通して内容の理解に努め、テストに備えること。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<p>【教科書】一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『精神保健福祉制度論』、2021、978-4-8058-8255-9</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2024 [令和6年版]』</p>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業、福祉小六法を持参すること。</li> <li>・この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</li> <li>・15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。</li> </ul>									

科目名	精神障害リハビリテーション学		科目コード	W31037	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	社会福祉系列科目 精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PPSW2-26	時間	30時間				
区分	選択 必修	担当者名	小山内 隆生				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 精神障害者のリハビリテーションの具体的なイメージを形成する。当事者に対するリハビリテーションの実際や課題を学ぶ。医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションプログラムを紹介し、当事者や他職種と協働して進めるリハビリテーションプロセスを理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション			1. 授業の進め方について 2. 障害の定義				講義		
第2回	精神障害リハとソーシャルワーク			精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係 精神保健福祉士				講義		
第3回	精神障害リハビリテーションの理念			精神障害リハビリテーションの概念、歴史				講義		
第4回	リハビリテーションの分類			医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、				講義		
第5回	精神障害リハビリテーションの基本原則			日本における歴史				講義		
第6回	地域およびリカバリー			リカバリーの概念と地域生活				講義		
第7回	精神障害リハビリテーションの対象			ICFと精神障害の特性				講義		
第8回	チームアプローチ			チームアプローチの理念と実際				講義		
第9回	医学的リハビリテーションプログラム			作業療法・行動療法他				講義		
第10回	職業的リハビリテーションプログラム			職業リハビリテーションの実際				講義		
第11回	社会的リハビリテーションプログラム			SST・心理教育・他				講義		
第12回	家族支援リハビリテーションプログラム			家族支援の理念と実際				講義		
第13回	事例			精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション				講義		
第14回	事例			依存症のリハビリテーション				講義		
第15回	まとめ									
評価 方法 及び 評価 基準	授業の参加態度50点、試験50点 出席について：遅刻2回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。									
課題等	リハビリテーションについて理解を深めておくこと									
事前事後 学修	教科書をよく読んでおくように									
教材 教科書 参考書	・最新精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規 2021									
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように									

科目名	ソーシャルワーク論 I A		科目コード	W32001	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-01	時間	30時間				
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	工藤 久			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。          ②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。          ③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。 ②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて説明できる。 ③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について説明できる。									
授業計画										
回	主題		授業内容					備考		
第1回	人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(1)		・一般システム理論、サイバネティクス、自己組織性①					講義		
第2回	人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(2)		・一般システム理論、サイバネティクス、自己組織性②					講義 グループワーク		
第3回	人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(3)		・マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①					講義		
第4回	人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(4)		・マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②					講義 レポート課題		
第5回	ソーシャルワークの過程(1)		・ケース発見					講義		
第6回	ソーシャルワークの過程(2)		・エンゲージメント					講義 グループワーク		
第7回	ソーシャルワークの過程(3)		・アセスメントの意義と目的					講義		
第8回	ソーシャルワークの過程(4)		・アセスメントの方法 ・アセスメントの留意点					講義 レポート課題		
第9回	ソーシャルワークの過程(5)		・プランニングの意義と目的					講義		
第10回	ソーシャルワークの過程(6)		・プランニングのプロセスと方法、留意点					講義		
第11回	ソーシャルワークの過程(7)		・支援の実施					講義		
第12回	ソーシャルワークの過程(8)		・モニタリング ・効果測定					講義		
第13回	ソーシャルワークの過程(6)		・支援の終結と評価 ・アフターケア					講義		
第14回	ソーシャルワークの実践モデル		・治療モデル ・生活モデル ・ストレスモデル					講義		
第15回	まとめ		・人と環境の交互作用に関する理論 ・ソーシャルワークの過程 ・ソーシャルワークの実践モデル					講義 グループワーク		
評価方法及び評価基準	1. 定期試験70%、レポート30% 2. 定期試験：持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、ソーシャルワークの構造、展開過程、モデルについて択一式問題などで確認する。 3. レポート：ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートなどを課し、評価対象とする。 ※ レポートは、ルーブリックを用いて評価する。									
課題等	フィードバックとしてレポートについてコメントを返す									
事前事後学修	講義時にて次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)『ソーシャルワークの理論と方法』中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8242-9									
留意点	1. 教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2. 社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。									

科目名	ソーシャルワーク論ⅠB		科目コード	W32002	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-02						
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	工藤 久			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ①ソーシャルワークのアプローチについて理解する。 ②ソーシャルワークの記録、ケアマネジメントについて理解する。 ③集団やコミュニティを活用した支援の展開について理解する。 ④ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションについて理解する。 ⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	①ソーシャルワークのアプローチについて説明できる。 ②ソーシャルワークの記録、ケアマネジメントについて説明できる。 ③集団やコミュニティを活用した支援について説明できる。 ④ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションについて説明できる。 ⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて説明できる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（1）			・心理社会的アプローチ ・機能的アプローチ ・問題解決アプローチ				講義		
第2回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（2）			・課題中心アプローチ ・危機介入アプローチ ・行動変容アプローチ				講義 グループワーク		
第3回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（3）			・エンパワメントアプローチ				講義		
第4回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（4）			・ナラティブアプローチ ・解決志向アプローチ				講義 レポート課題		
第5回	ソーシャルワークの記録			記録の意義、目的、方法				講義		
第6回	ケアマネジメント			ケアマネジメントの原則、意義、方法				講義		
第7回	集団を活用した支援（1）			グループワークの意義と目的、原則				講義		
第8回	集団を活用した支援（2）			グループワークの展開過程				講義 小テスト		
第9回	コミュニティワーク			コミュニティワークの意義と目的				講義		
第10回	コミュニティワーク			コミュニティワークの展開				講義		
第11回	ソーシャルアドミニストレーション			ソーシャルアドミニストレーションの目的、方法				講義 レポート課題		
第12回	ソーシャルアクション			ソーシャルアクションの目的、方法				講義		
第13回	スーパービジョンとコンサルテーション（1）			スーパービジョンの意義、目的				講義		
第14回	スーパービジョンとコンサルテーション（2）			スーパービジョンの方法				講義		
第15回	まとめ			1) ソーシャルワークのアプローチ 2) 記録、ケアマネジメント 3) グループワークとコミュニティワーク 4) ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョン				講義 グループワーク		
評価 方法及び 評価 基準	1) 定期試験70%、レポート30% 2) 定期試験：持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、ソーシャルワークのアプローチ、記録、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンについて択一式問題などで確認する。 3) 小テスト：2回予定しており、授業で使用した基本的用語の理解について穴埋め式等で確認する。 4) レポート：視覚教材についての所感レポートなどを課し、評価対象とする。 ※ レポートは、ルーブリックを用いて評価する。									
課題等	フィードバックとしてレポートについてコメントを返す									
事前事後 学修	講義時にて次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材 教科書 参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）『ソーシャルワークの理論と方法』中央法規出版 ISBN: 978-4-8058-8242-9									
留意点	1) 教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2) 社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。									

科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ A		科目コード	W32003	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF3-03.		30時間				
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 この授業では、多様化、複雑化する社会構造の仕組みを踏まえて、生活課題を解決するための援助関係の構築方法や社会資源の開発、包括的支援、家族支援、災害等におけるソーシャルワークの実践方法を理論的に学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの機能を理解することができる。</li> <li>2. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解することができる。</li> <li>3. ソーシャルワークの面接の意義や構造等について実践的な理論と方法の理解を深めることができる。</li> <li>4. 実際に事例を通してソーシャルワークの展開（インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリング、など）を作成することができる。</li> <li>5. ソーシャルワークのネットワーキングをカンファレンス等を通じて理解を深めることができる。</li> </ol>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割①オリエンテーション		シラバス説明 求められるソーシャルワークの機能と役割を学ぶ。					講義		
第2回	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割②		ソーシャルワークの機能と役割：支援が必要な個人と家族地域のニーズ発見、アセスメント、社会資源の調整、包括的な支援体制、体制構築、人材育成を学ぶ。					講義		
第3回	ソーシャルワークにおける面接①		面接の意義・目的を学び、面接の場面と構造を学ぶ。					講義		
第4回	ソーシャルワークにおける面接②		面接技法、面接の展開過程を事例を通して学ぶ。					講義		
第5回	ソーシャルワークの援助関係①		ソーシャルワークにおける援助関係の形成と活用を学び、実際に事例を通じて方法を習得する。					講義		
第6回	ソーシャルワークの援助関係②		ソーシャルワークにおける形成と活用を学び、実際に事例を通じて方法を習得する。					講義		
第7回	社会資源の開発とソーシャルアクション①		ソーシャルワークにおける社会資源の位置づけを実践事例を通して学ぶ。（中間まとめ）					講義		
第8回	社会資源の開発とソーシャルアクション②		社会資源の開発とソーシャルアクションを学ぶ。地域支援計画書の作成方法を学ぶ①					講義		
第9回	社会資源の開発とソーシャルアクション③		あなたのまち（地域）の課題①					講義 プレゼンテーション		
第10回	社会資源の開発とソーシャルアクション③		あなたのまち（地域）の課題②					講義 プレゼンテーション		
第11回	社会資源の開発とソーシャルアクション④		ソーシャルアクションの定義と変遷、その実際を学び、事例を通して学びを習得する。地域支援計画作成の方法を学ぶ②					講義		
第12回	社会資源の開発とソーシャルアクション⑤		ソーシャルアクションの定義と変遷、その実際を学び、事例を通して学びを習得する。地域支援計画の発表③					講義 プレゼンテーション		
第13回	ソーシャルワークの関連技術・方法①		ネットワーキングとコーディネーションの意義と目的、方法を知る。					講義		
第14回	ソーシャルワークの関連技術・方法②		ネゴシエーション準備の4つの原則、方策や計画を立てる。					講義		
第15回	ソーシャルワークの関連技術・方法③		ファシリテーションとプレゼンテーションを学び実際の事例を通して理解を深める。（まとめ）					講義		
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。</li> <li>・小テスト80%、レポート20%の割合で評価する。小テストは、7回、15回に実施し、その合計点で評価する。</li> <li>・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。</li> </ul>									
課題等	小テストは次時間に返却するので間違いを修正して復習しておくこと。									
事前事後 学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次週の授業ページを伝えるので予習して準備するとともに、授業で習得した知識の復習をすること。</li> <li>・復習を通して章ごとの理解に努め、小テストに備えること。</li> </ul>									
教材 教科書 参考書	【教科書】 空閑浩人ほか編著『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』、2022、9784623090969 ほか、適宜指示します。									
留意点	この科目は、社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。 15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。									

科目名	ソーシャルワーク論ⅡB		科目コード	W32004	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF3-04.		30時間				
区分	実践系科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 この授業では、多様化、複雑化する社会構造の仕組みを踏まえて、生活課題を解決するための援助関係の構築方法や社会資源の開発、包括的支援、家族支援、災害等におけるソーシャルワークの実践方法を理論的に学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
到達 目標	1. ソーシャルワークとICTについて理解することができる。 2. 家族支援の概念とその展開について理解することができる。 3. 災害ソーシャルワークについて理解を深めることができる。 4. スピリチュアルとソーシャルワークについて学ぶ。 5. 多文化とソーシャルワークについて学ぶ。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション			シラバス説明、アプローチ方法の体系（変遷）				講義		
第2回	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報①			ICTとソーシャルワークの関係性、ICT活用の課題と個人情報保護制度を学ぶ。				講義		
第3回	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報②			ICTとソーシャルワークの関係性、ICT活用の課題と個人情報保護制度を学ぶ。				講義		
第4回	カンファレンスと事例分析①			多様なカンファレンスを知る。				講義		
第5回	カンファレンスと事例分析②			力動的・循環的プロセスとしてのカンファレンスを学ぶ。				講義		
第6回	カンファレンスと事例分析③			事例分析の方法、ミクロ・メゾ・マクロをつなぐカンファレンス				講義		
第7回	家族支援のソーシャルワーク①			家族支援が求められる意義、ソーシャルワークにおける基本的な視点を学ぶ。（中間まとめ）				講義		
第8回	家族支援のソーシャルワーク②			家族支援の展開の実際と課題を考える。				講義 PBL		
第9回	災害とソーシャルワーク①			災害の定義を学び、災害ソーシャルワークの定義や被災者の状況を学ぶ。				講義		
第10回	災害とソーシャルワーク②			大規模自然災害の歴史と災害福祉、災害ソーシャルワークを学ぶ。				講義		
第11回	スピリチュアルとソーシャルワーク			スピリチュアリティの形成と内容、展開の実際と課題を知る。				講義 PBL		
第12回	多文化主義とソーシャルワーク①			多文化主義と多文化ソーシャルワークとは何か、グローバルとソーシャルワークを学ぶ。				講義		
第13回	多文化主義とソーシャルワーク②			多文化主義とソーシャルワークの展開の実際と課題を知る。				講義		
第14回	ソーシャルワークにおける総合的・包括的支援の実際			総合的包括的支援の考え方を学び、支援の実際を知る。ソーシャルワークの動向と課題				講義		
第15回	ソーシャルワークの動向と課題			ソーシャルワーカーへの社会からの期待、ジェネラリスト・ソーシャルワークの確立等の近況を知る。（まとめ）				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。</li> <li>・ 小テスト80%、レポート20%の割合で評価する。小テストは、7回、15回に実施し、その合計点で評価する。</li> <li>・ レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テストは次時間に返却するので間違いを修正し復習しておくこと。</li> <li>・ 不登校・ひきこもり支援に関するDVDを視聴し、ソーシャルワークの実践的知識・技術を活用したレポートを作成する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（次の講義でフィードバックし理解を深める）</p>									
事前事後 学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次週の授業ページを伝えるので予習して準備するとともに、授業で習得した知識の復習をすること。</li> <li>・ 復習を通して章ごとの理解に努め、小テストに備えること。</li> </ul>									
教材 教科書 参考書	【教科書】 空閑浩人ほか編著『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』、2022ほか適宜指示します。									
留意点	この科目は、社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。 15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。									

科目名	社会福祉調査法		科目コード	W32005	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	実践系科目	選択	科目ナンバリング	W-PPPF2-03	時間	30時間				
区分	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会の実態を知るためには、それを調べる必要があります。その調べ方についての知識体系が社会調査法です。この授業では、社会調査に関する基礎的な概念・方法について学び、量的調査および質的調査の企画の仕方、実施の仕方について学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1、5-2、5-3に関連している</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査の意義を理解する</li> <li>・社会調査における倫理を理解する</li> <li>・量的調査の方法を理解する</li> <li>・質的調査の方法を理解する</li> </ul>									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	社会調査の意義と目的		社会調査の歴史、社会調査における倫理							
第2回	社会調査のデザイン（1）		理論と調査の関係							
第3回	社会調査のデザイン（2）		調査目的と仮説の関係							
第4回	社会調査のデザイン（3）		社会調査の対象							
第5回	量的調査の方法（1）		量的調査とは何か 量的調査の種類と方法							
第6回	量的調査の方法（2）		質問紙の作成方法 質問紙の配布と回収						グループワーク	
第7回	量的調査の方法（3）		データの整理、基本統計量、クロス集計、相関分析							
第8回	量的調査の方法（4）		統計的推論、t検定、分散分析							
第9回	量的調査の方法（5）		回帰分析							
第10回	量的調査の方法（6）		主成分分析、因子分析							
第11回	質的調査の方法（1）		質的調査とは何か							
第12回	質的調査の方法（2）		質的調査とサンプリング							
第13回	質的調査の方法（3）		観察法、面接法						グループワーク	
第14回	質的調査の方法（4）		記録の取り方							
第15回	質的調査の方法（5）		質的データの分析方法 (ライフストーリー、エスノグラフィー等)							
評価 方法 及び 評価 基準	学期末に課すレポート（60点）と、課題（40点）によって評価を行います。									
課題等	課題の提出、フィードバックは、Teamsを使用して行います									
事前事後 学修	使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第5巻 社会福祉調査の基礎』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8235-1)									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15回の授業のうちの1回はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、Teamsにアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。</li> <li>・Teams、Formsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受けつけます</li> </ul>									

科目名	ソーシャルワーク 演習 I		科目コード	W32011	単位数	2単位	対象	1年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF1-04	時間	30時間	学年		学期	
区分	実践系科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋和幸・駒ヶ嶺裕子			授業 形態	演習	クラス分け	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本科目は、ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、ソーシャルワークの知識と技術の習得及びソーシャルワークの価値規範や倫理の基本的事項の理解を図るために、具体的な援助場面を想定したグループディスカッションやロールプレイング等の活動を中心とする演習形式で行う。 ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ(専門)の前段に位置付けられる科目である。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-1, 5-3, 5-4に関連している</p>									
到達目標	<p>①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的能力を、身につけるための心構えを持つことができている。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解できている。 ③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ④ソーシャルワークの展開過程において用いられている知識と技術を実践的に理解できている。</p>									
授業計画										
回	主 題		授業内容					備考		
第1回	自己覚知と他者理解		自己理解と他者理解について学ぶ。本演習で用いる振り返りシートの記入方法の指導を行う。					振り返りシートの様式説明		
第2回	基本的なコミュニケーション技術(1)		言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約など)を学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第3回	基本的なコミュニケーション技術(2)		非言語技術(表情、態度、身振り、位置取りなど)を学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第4回	基本的な面接技術(1)		面接の構造化、場の設定(面接室・生活場面・自宅など)について学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第5回	基本的な面接技術(2)		ツールの活用、電話面接、ウェブ会議システムやe-mailによる情報交換について学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第6回	ソーシャルワークの展開過程(1)		事例を用いてケースの発見、インテークまでの過程を学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第7回	ソーシャルワークの展開過程(2)		事例を用いてアセスメントの過程を学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第8回	ソーシャルワークの展開過程(3)		事例を用いてプランニングの過程を学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第9回	ソーシャルワークの展開過程(4)		事例を用いて支援の実施とモニタリングまでの過程を学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第10回	ソーシャルワークの展開過程(5)		事例を用いて支援の終結と事後評価、アフターケアまでの過程を学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第11回	ソーシャルワークの記録		支援経過の把握と記録について学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第12回	グループダイナミクスの活用		グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)について学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第13回	グループワークの展開過程		事例を用いて準備期・開始期・作業機・終結期までの流れを学ぶ。					振り返りシートの記入を課す。班別ディスカッションも行う。		
第14回	プレゼンテーションの技術(1)		個人プレゼンテーションを体験する。					2週にわたってプレゼンテーションを行う。		
第15回	プレゼンテーションの技術(2)		グループプレゼンテーションを体験する。					定期試験に替えるレポートの課題を発表。		
評価方法及び評価基準	<p>○平常点評価65%とレポート試験35%による総合評価とする。 ・「演習授業における達成度をみるために毎回振り返りシートの作成4点満点×12回(第1回と第14/15回を除く)=48点満点」+「第14回15回のプレゼンテーション資料の作成と発表17点満点」+「定期試験に替えるレポート35点満点」で評価をする。ルーブリック評価による評価を実施するので第1回オリエンテーション時に説明を行う。なお、3分の1以上(5回)欠席した学生は評価の対象としない。</p>									
課題等	授業終わりに振り返りシートを課し、次回授業で返却する。第14回、15回のプレゼンテーションではICTを活用する。期末レポート試験の課題はオンライン授業ファイルを通じて配布する。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。 復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書 社会福祉士養成講座編(2021年)『13巻 ソーシャルワーク演習(共通)』中央法規 ISBN 978-4-8058-8865-0 参考書 いたう総研(2024年)『見て覚える国試ナビ2025』(中央法規) ※毎年7月発行のため最新版を入手してください。									
留意点	演習では積極的発言と共同作業が求められる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ 【2021年度以降入学生】		科目コード	W32040	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング			W-PPPF2-05						
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋和幸・丸山龍太			授業 形態	演習	クラス分け	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。また、社会福祉士に求められるソーシャルワーカーの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。さらに、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について基礎的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>									
到達 目標	<p>ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得することができる。また、社会福祉士に求められるソーシャルワーカーの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養うことができる。さらに、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について基礎的に理解することができる。</p>									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容				備 考			
第1回	ソーシャルワーカーの価値と倫理		事例を通じてソーシャルワーカーの価値と倫理について学ぶ。また、本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。				予習シートと振り返りシートの様式説明			
第2回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(1)		複雑な家庭環境にあり特に児童虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第3回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(2)		複雑な家庭環境にあり特に障害者虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第4回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(3)		複雑な家庭環境にあり特に高齢者虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第5回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(4)		複雑な家庭環境にあり特に配偶者虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第6回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(5)		複雑な家庭環境にあり特にひきこもりの人が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第7回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(6)		複雑な家庭環境にあり特に貧困問題が発生しているケースの事例検討を行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第8回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(7)		複雑な家庭環境にあり特に終末期ケアの状態の人が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第9回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(8)		被災に伴い複雑な家庭環境となり、失業、貧困、アルコール依存症の人が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第10回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(9)		複雑な家庭環境にあり特に8050問題のようなケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第11回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(10)		要介護高齢者の発生に加え、障害を有する子ども2人のトリプルケアのようなケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第12回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(11)		夫の不就業と妻へのDV、それに伴う子どもの深夜徘徊、飲酒などの非行が絶えず、不登校時のいる家庭のケースで事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第13回	その他の危機状態にある事例に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは		精神疾患を患い孤立し、ごみ屋敷状態で、社会的な支援を拒み続けるケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第14回	ソーシャルワーカーが関わる権利擁護活動を通じたソーシャルアクション		外国人労働者家庭を地域で支えていくために生じた様々な問題とその支援過程から学ぶ。事例を踏まえて意見交換を行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第15回	演習全体のまとめ		演習全体のまとめをおこなう。				総合的振り返り。グループワーク			
評価 方法及び 評価 基準	<p>第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらい、予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらい、なお、出席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。</p>									
課題等	<p>毎回、次回授業のワークシートに関する予習(予習シート)を課す。これにより事前学習とする。また、当日提供するワークシートにある、それぞれのピネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習となる。</p>									
事前事後 学修	<p>「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>教科書は①社会福祉士養成講座編(2021)『第7巻 ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8250-4、②社会福祉士養成講座編(2021)『第13巻 ソーシャルワーク演習(共通科目)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8242-6、2冊を使用する。</p>									
留意点	<p>演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。</p>									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ 【2021年度以降入学生】		科目コード	W32041	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期	
	区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目	科目ナンバリング	W-PPPF2-06	担当者名	高橋和幸・丸山龍太			授業 形態	演習	クラス分け
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕            ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。また、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について基礎的に理解する。さらに、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕            ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>										
到達目標	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得することができる。また、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について理解することができる。さらに、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解することができる。										
授業計画											
回	主 題			授 業 内 容				備 考			
第1回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程			ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程について学ぶ。本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。				予習シートと振り返りシートの様式説明			
第2回	実践モデルとアプローチ(1)			実践モデルとアプローチについて再確認する。1つの事例を使って、各アプローチ方法でアセスメント結果が少しずつ異なっていくことを体験的に学ぶ。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第3回	実践モデルとアプローチ(2)			前回に続き、1つの事例を使って、各アプローチ方法でアセスメント結果が少しずつ異なっていくことを体験的に学ぶ。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第4回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(1)			事例を通じて、ケースの発見場面を体験する、ロールプレイを行う				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第5回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(2)			事例を通じて、インテーク場面を体験する、ロールプレイを行う				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第6回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(3)			事例を通じて、アセスメント場面を体験する、クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第7回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(4)			プランニング① アセスメント結果を踏まえプランニングの下書きをする。その下書きについて意見交換する。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第8回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(5)			プランニング② 前回の授業成果を踏まえて支援計画を立て、説明場面をロールプレイで再現する				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第9回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(6)			事例を通じて、支援の実施場面について学ぶ。適宜ロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第10回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(7)			事例を通じてモニタリングの場面について学ぶ。クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第11回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(8)			事例を通じて支援の終結と事後評価の場面を学ぶ。クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第12回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(9)			事例を通じてアフターケアの場面を学ぶ。クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第13回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(10)			特にアウトリーチが有効な事例を複数用意し、事例検討する。家庭訪問での面接場面をロールプレイで再現する。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第14回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(11)			チームアプローチが有効な事例を複数用意し、事例検討する。多職種チームによるカンファレンス時の司会者であるソーシャルワーカーの立場となって会議の進行をロールプレイで学ぶ。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。			
第15回	演習全体のまとめ			演習全体のまとめをおこなう。				最終回に授業評価アンケートがある。グループワーク			
評価方法及び評価基準	第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらい、予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらい、なお、出席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。										
課題等	毎回、次回授業のワークシートに関する予習(予習シート)を課す。これにより事前学習とする。また、当日提供するワークシートにある、それぞれの内容に関する情報を授業後に読み返すことが事後学習となる。										
事前事後学習	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。										
教材教科書参考書	教科書は①社会福祉士養成講座編(2021)『第7巻 ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8250-4、②社会福祉士養成講座編(2021)『第13巻 ソーシャルワーク演習(共通科目)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8242-6、2冊を使用する。										
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。										

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ		科目コード	W32042	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-07						
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川幸裕・丸山龍太			授業 形態	演習	クラス分け	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。また、地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践線的に理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している									
到達 目標	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解することができる。また、地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践線的に理解することができる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	プレゼンテーションについて		プレゼンテーションについて学ぶ。本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。					予習シートと振り返りシートの様式説明		
第2回	ネットワーキングについて		事例をつかってネットワーキングについて学ぶ。ネットワーキングの重要性について意見交換する。					予習シートと振り返りシートによる評価		
第3回	コーディネーションについて		事例を使ってコーディネーションについて学ぶ。コーディネーションの重要性について意見交換する。					"		
第4回	ネゴシエーションについて		事例を使ってネゴシエーションについて学ぶ。ネゴシエーションの重要性について意見交換する。					"		
第5回	ソーシャルアクションについて		事例を使ってソーシャルアクションについて学ぶ。ソーシャルアクションの重要性について意見交換する。					"		
第6回	地域住民に対するアウトリーチ		事例を使って地域住民に対するアウトリーチの手法を学ぶ。ロールプレイする。					"		
第7回	地域住民のニーズ把握		事例を使って地域住民のニーズ把握の手法を把握し、その場面を再現する。					"		
第8回	地域アセスメント		事例を使って地域アセスメントを行い、その場面を再現する。					"		
第9回	地域福祉の計画		事例を使って地域の計画の作成手法を学び、必要性を討論する。					"		
第10回	地域における組織化		事例を使って地域における組織化について学び、その場面を再現する。					"		
第11回	社会資源の活用		事例を使って社会資源の活用について学び、その場面を再現する。					"		
第12回	社会資源の調整		事例を使って社会資源の調整について学び、その場面を再現する。					"		
第13回	社会資源の開発		事例を使って社会資源の開発について学び、その場面を再現する。					"		
第14回	サービスの評価		事例を使ってサービスの評価について学び、その場面を再現する。					"		
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。					最終回到授業評価アンケートがある		
評価 方法 及び 評価 基準	第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらう。予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらう。なお、主席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。									
課題等	毎回、次回授業のワークシートに関する予習(予習シート)を課す。これにより事前学習とする。また、当日提供するワークシートにある、それぞれのピネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習となる。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『第13巻 ソーシャルワーク演習』(ISBN 9784805882436)中央法規、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ		科目コード	W32043	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期	
			科目ナンバリング	W-PPPF2-08	時間	30時間	学年		学期		
区分	実践系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川幸裕・丸山龍太				授業 形態	演習	クラス分け	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解する。また、実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している</p>										
到達 目標	実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解することかできる。また、実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解することができる。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題			授 業 内 容				備 考			
第1回	事例研究の準備(1)			実習体験を一般化するためにはソーシャルワークの専門知識が必要である。そのため文献調査の手法について学ぶ。また、本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。				予習シートと振り返りシートの様式説明			
第2回	事例研究の準備(2)			実習体験から深く考察し、学術的な知識として比較検討したい素材を洗い出す。まずは質よりも量でより多くのトピックを出す。				予習シートと振り返りシートによる評価			
第3回	事例研究をするためのテーマの絞り込み(1)			前回授業で出したトピックの中から、3つ程度に絞り込み、発表する。				"			
第4回	事例研究をするためのテーマの絞り込み(2)			前回授業で絞り込んだ3つのテーマについて、どのような実習経験をし、文献調査結果と比較考察していく。				"			
第5回	事例研究発表に向けた論理展開の確認			前回授業での作業の結果を発表し、出席者からコメントをもらう。				"			
第6回	再分析と結果の吟味、発表の予行			とくに事例研究したい事柄を1つに絞り、より多くの文献を集め、考察していく。				"			
第7回	事例研究発表(1)			教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。				"			
第8回	スーパービジョン(1)			前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。				"			
第9回	事例研究発表(2)			教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。				"			
第10回	スーパービジョン(2)			前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。				"			
第11回	事例研究発表(3)			教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。				"			
第12回	スーパービジョン(3)			前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。				"			
第13回	事例研究発表(4)			教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。				"			
第14回	スーパービジョン(4)			前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。				"			
第15回	演習全体のまとめ			演習全体のまとめをおこなう。				最終回に授業評価アンケートを実施			
評価 方法 及び 評価 基準	第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらう。予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらう。なお、出席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。										
課題等	毎回、次回授業のワークシートに関する予習(予習シート)を課す。これにより事前学習とする。また、当日提供するワークシートにあるビネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習となる。										
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。										
教材 教科書 参考書	演習時に必要な資料や文献を指示する。										
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。										

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（専門）A		科目ナンバリング	W32044	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
			科目コード	W-PPPF2-09	時間	30時間				
区分	実践系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択必修	担当者名	大原 さやか				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          ソーシャルワークの基本となるソーシャルワークの概要から展開技法（インテーク、アセスメント、面接技術、グループワーク、アウトリーチ、ケアマネジメント）について学ぶ。また、精神保健福祉分野における家族支援（意識調査、感情表出と再発など）についても学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの、5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1、5-2、5-3に関連している</p>									
到達目標	①精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程を理解すること。②精神障害および精神保健福祉の課題をもつ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解すること。③精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義や精神保健福祉の向上について理解すること。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ソーシャルワークの概要①		ソーシャルワークの構成要素、展開過程、基本視点						視聴覚（スライド）使用	
第2回	ソーシャルワークの概要②		マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開						視聴覚（スライド）使用	
第3回	ソーシャルワークの概要③		精神科ソーシャルワークについての理念（リカバリーなど）						視聴覚（スライド）使用	
第4回	ソーシャルワークの展開技法①		インテーク、アセスメント、面接技法						視聴覚（スライド）使用	
第5回	ソーシャルワークの展開技法②		グループワーク、アウトリーチ、事例分析						視聴覚（スライド）使用	
第6回	ソーシャルワークの展開技法③		ケアマネジメント①（ケアマネ誕生、定義、基本理念、基本原則、構成要素）						視聴覚（スライド）使用	
第7回	ソーシャルワークの展開技法④		ケアマネジメント②（プロセスと機能 相談窓口）						グループワーク	
第8回	ソーシャルワークの展開技法⑤		ケアマネジメント③（プロセスと機能 アセスメント）						グループワーク	
第9回	ソーシャルワークの展開技法⑥		ケアマネジメント④（プロセスと機能 アセスメント）						グループワーク	
第10回	ソーシャルワークの展開技法⑦		ケアマネジメント⑤（プロセスと機能 ケア計画の立て方）						グループワーク	
第11回	ソーシャルワークの展開技法⑧		ケアマネジメント⑥（プロセスと機能 ケア会議の進め方）						グループワーク	
第12回	ソーシャルワークの展開技法⑨		ケアマネジメント⑦（プロセスと機能 サービス実施、モニタリング、エバリュエーション）						グループワーク	
第13回	精神保健福祉分野における家族支援		家族の意識調査、家族の感情表出による再発率、支援方法						視聴覚（スライド）使用	
第14回	コミュニティワーク①		コミュニティワークの意義、展開過程						視聴覚（スライド）使用	
第15回	コミュニティワーク②		コミュニティワークの原則、予防的アプローチ						視聴覚（スライド）使用	
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。リアクションペーパー（30%）、宿題（30%）定期試験（40%）で評価する。宿題はその時の講義内容を踏まえたうえで、自分の事例として作成する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したか評価する。									
課題等	精神保健福祉士とは、どのような専門職なのかを知るために、精神保健福祉関連の文献等を読む。参考文献は適宜紹介する。 ソーシャルワーク支援過程を 自分自身の事例を通して作成して その都度提出する。									
事前事後学修	講義終了後に、ソーシャルワーク支援過程を、自分自身の事例を通して作成する。									
教材教科書参考書	最新・精神保健福祉士養成講座 第6巻「ソーシャルワークの理論と方法」（精神専門）中央法規出版（2021）									
留意点										

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（専門）B		科目ナンバリング	W32045	単位数	2単位	対象学年	4年	開講学期	前期
			科目コード	W-PPPF2-10	時間	30時間				
区分	実践系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択必修	担当者名	丸山 龍太				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>ソーシャルワークの基本となるソーシャルワークの展開技法（コミュニティソーシャルワーク）について学ぶ。また、精神保健福祉分野における多職種連携・多機関連携、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からアクションへの展開、関連分野における精神保健福祉士の実践展開を学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>到達目標は以下の点である。</p> <p>①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する</p> <p>②精神医療、精神障害者福祉における多職種連携、多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する</p> <p>③精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入、組織活動に展開する概念と方法について理解する</p> <p>④精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する</p>									
<b>授業計画</b>										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	コミュニティワーク③		地域生活支援、ソーシャルインクルージョン、地域包括ケアシステム						講義・Think pair share	
第2回	コミュニティワーク④		普及啓発、地域住民の精神保健福祉活動への参画、予防的アプローチ						講義・Think pair share	
第3回	多職種連携、多機関連携①		多職種連携、多機関連携（チームアプローチ）の連携の意義と目的、多職種連携、多機関連携の留意点						講義・Think pair share	
第4回	多職種連携、多機関連携②		チームビルディング、チームの形態と特徴						講義・Think pair share	
第5回	多職種連携、多機関連携③		連携における精神保健福祉士の役割、多職種連携、多機関連携の実際						講義・Think pair share	
第6回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法①		ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義、組織と精神保健福祉士の関係性						講義・Think pair share	
第7回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法②		組織介入、組織改善の実践モデル						講義・Think pair share	
第8回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法③		組織運営管理の実際						講義・Think pair share	
第9回	個別支援からソーシャルアクションへの展開①		基本的視点、個別支援から地域における体制整備						講義・Think pair share	
第10回	個別支援からソーシャルアクションへの展開②		政策提言、政策展開						講義・Think pair share	
第11回	個別支援からソーシャルアクションへの展開③		精神障害者の地域移行、地域定着に関わる展開						講義・Think pair share	
第12回	個別支援からソーシャルアクションへの展開④		事例から学ぶソーシャルアクションへの展開過程						事例検討・Think pair share	
第13回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開①		学校、教育分野、産業分野						講義・Think pair share	
第14回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開②		司法分野、その他						講義・Think pair share	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめを実施						講義・Think pair share	
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。課題20%、試験60%、授業への参加度20%で評価する。レポート課題は、能動的な学習によって知識の活用が図られているかを問う。試験は、到達目標に即した問題を出题し、基本的理解を得られているかを問う。参加度は、毎回協同学習の1つである「Think-Pair-Share」をWI-FIを用いて実施する中で、その活動への関わり方等を踏まえ評価を行う。</p>									
課題等	第8回目を目途にレポート課題を提示するので、TEAMSにより提出する。レポート課題を通じて授業への理解度を図ると同時に復習の時間とする。復習は1回の授業につき90分程度の時間を要する内容とする。									
事前事後学修	毎回、次週の授業に必要な事柄を予習するよう具体的に指示する。予習は1回の授業につき90分程度の内容とする。この予習は授業内のThink-Pair-Shareを行う為に必須となる。									
教材教科書参考書	坂野憲司・福富律編著『ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）』弘文堂、2023年（ISBN 978-4-335-61128-5）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健福祉演習 I		科目コード	W32029	単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
	科目ナンバリング		W-PPP2-11	時間	30時間	学年	3年	開講		
区分	実践系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神疾患や精神障害の課題がある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に習得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 5関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-3, 5-4に関連している。</p>									
到達目標	<p>専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。また、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。さらには、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「こく当たり前の生活」を実践的に考察することができるようになる。</p>									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	精神保健福祉演習とは		精神保健福祉演習の位置づけ、意義、視点など						グループワーク ディスカッション	
第2回	ソーシャルワークの過程を通じた援助		ソーシャルワークのケアマネジメント技法の理解						グループワーク ディスカッション	
第3回	基本的なコミュニケーション技術の習得		コミュニケーション技術の伝達、認知障害の理解						グループワーク ディスカッション	
第4回	個別面接（基本的な面接技術の習得）		基本的な面接技術の習得						グループワーク ディスカッション	
第5回	グループワークの展開		グループダイナミクス活用技術の習得						グループワーク ディスカッション	
第6回	ケア会議や関係者会議のコーディネーターとマネジメント		ケアマネジメント技法の理解						グループワーク ディスカッション	
第7回	リハビリテーションプログラムの実際		行動療法、作業療法、回復支援プログラム						グループワーク ディスカッション	
第8回	ソーシャルワークの展開		アウトリーチ、コミュニティ						グループワーク ディスカッション	
第9回	ソーシャルワークリサーチ		社会福祉調査の実施、計画策定、評価、資源創出、政策提言						グループワーク ディスカッション	
第10回	普及啓発活動、人材育成		住民への啓発、ボランティア養成、実習生指導						グループワーク ディスカッション	
第11回	記録の種類と記録の方法		個別支援記録、公文書作成、業務（日誌・月報等）の記録、スーパービジョンのためのレポート作成等						グループワーク ディスカッション	
第12回	自己覚知		自己理解、他者理解、行動・言動の背景						グループワーク ディスカッション	
第13回	地域福祉の計画		ソーシャルプランニングの意義と展開方法						グループワーク ディスカッション	
第14回	ネットワーキング		ネットワーキングと専門職種とのかかわり						グループワーク ディスカッション	
第15回	社会資源の活用・調整・開発		社会資源の開発とソーシャルアクションを学ぶ。						グループワーク ディスカッション	
評価方法及び評価基準	授業の参加状況、学生の主体的な発言、レポート提出により総合的に評価する。									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	日ごろから精神障害者に関する新聞記事や図書を読む習慣を身につけること。									
教材教科書参考書	テキスト：福祉臨床シリーズ編集委員会 編「ソーシャルワーク実習・実習指導（精神専門）」新・精神保健福祉士シリーズ 8 弘文堂（ISBN：978-4-335-61132-2）参考図書は授業中に指示する。									
留意点	この科目は、精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目である。15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行う場合がある。詳細は授業内に説明する。									

科目名	精神保健福祉演習Ⅱ		科目コード	W32030	単位数	4単位	対象学年	4年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-12	時間	60時間				
区分	実践系科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山 龍太			授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 精神保健福祉演習Ⅰを基礎とし、更なる技術向上を図る。精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2.3.5関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-3, 5-4に関連している。									
到達目標	①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための施4興心保健福祉士の専門性の基礎を獲得する。 ② " " のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 ③ " " のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。 ④ " " を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 ⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。									
<b>授業計画</b>										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	事例演習：当事者の人生とリカバリー①	事例を通して当事者の生活のしづらさを学び、クライアントの理解に繋げる	グループワーク・ディスカッション	第16回	課題に対応した支援体制⑥	事例を通して司法ソーシャルワークの実際を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第2回	事例演習：当事者の人生とリカバリー②	事例を通して当事者の体験談から、クライアントの理解に繋げる	グループワーク・ディスカッション	第17回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題①	事例を通して児童虐待の支援方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第3回	事例演習：当事者の人生とリカバリー③	事例を通して当事者の語りから、リカバリーの理解を図る	グループワーク・ディスカッション	第18回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題②	事例を通して不登校とスクールソーシャルワークの支援方法理解する	グループワーク・ディスカッション			
第4回	医療機関から地域生活へ①	事例を通して利用期間における退院支援の方法を理解する	グループワーク・ディスカッション	第19回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題③	事例を通して発達障害のある方への支援方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第5回	医療機関から地域生活へ②	事例を通して地域移行支援とケアマネジメントを体系的に学ぶ	グループワーク・ディスカッション	第20回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題④	事例を通してひきこもり支援の実際を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第6回	医療機関から地域生活へ③	事例を通して地域生活継続支援の流れを理解する	グループワーク・ディスカッション	第21回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題⑤	事例を通して産業メンタルヘルスの実際を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第7回	医療機関が担う家族支援と地域生活支援①	事例を通して家族教室・心理教育を学ぶ	グループワーク・ディスカッション	第22回	子どもから高齢者までのメンタルヘルス課題⑥	事例を通して地域包括支援センターの実際を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第8回	医療機関が担う家族支援と地域生活支援②	事例を通して家族療法的視点からのアプローチを理解する	グループワーク・ディスカッション	第23回	地域への働きかけとインフォーマルケア①	事例を通して市町村行政を通じた地域包括ケアの方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第9回	医療機関が担う家族支援と地域生活支援③	事例を通してアウトリーチの方法を理解する	グループワーク・ディスカッション	第24回	地域への働きかけとインフォーマルケア②	事例を通してピアサポートを通じた地域包括ケアの方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第10回	医療機関が担う家族支援と地域生活支援④	事例を通してデイケアを基盤とした包括的な支援を理解する	グループワーク・ディスカッション	第25回	地域への働きかけとインフォーマルケア③	事例を通して地域の基盤整備を通じた地域包括ケアの方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第11回	課題に対応した支援体制①	事例を通して危機的状況への介入を理解する	グループワーク・ディスカッション	第26回	地域への働きかけとインフォーマルケア④	事例を通してボランティアの立場からの地域援助を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第12回	課題に対応した支援体制②	事例を通して就労支援と特例子会社を理解する	グループワーク・ディスカッション	第27回	スーパービジョン体験①	実習におけるスーパービジョン体験を通じてスーパービジョンを実践する	グループワーク・ディスカッション			
第13回	課題に対応した支援体制③	事例を通してアルコール依存・薬物依存の支援方法を学ぶ	グループワーク・ディスカッション	第28回	スーパービジョン体験②	スーパービジョンと専門職としての成長を自己覚知を通じて理解する	グループワーク・ディスカッション			
第14回	課題に対応した支援体制④	事例を通して貧困、低所得、ホームレス支援の実際を学ぶ	グループワーク・ディスカッション	第29回	スーパービジョン体験③	精神保健福祉現場のジレンマとスーパービジョンを通じて専門家として心構えを理解する	グループワーク・ディスカッション			
第15回	課題に対応した支援体制⑤	事例を通して自殺問題への対策を理解する	グループワーク・ディスカッション	第30回	1年のまとめ	これまでの演習を基に1年間の総まとめを行う	グループワーク・ディスカッション			
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。授業への参加度（100%）で評価する。グループワークを通して、事例演習に応じた支援案等を立案、支援案に対する検討、それらを踏まえた上でのロールプレイ、振り返り及び再検討を繰り返すので、積極的な発言、考察が必要である。									
課題等	演習担当者は、演習作成、演習実施の準備を進める。TEAMS上で作成された演習内容を確認し、各自事前学習を行う。それぞれ、1回の演習につき予習・復習の合計は180分程度必要となる。									
事前事後学修	演習担当者は、演習問題の作成、当日の演習実施、振り返り等をすべて取り仕切る。担当者には、予め演習問題を期日までにTEAMSにアップロードすることを課す。アップロードがなければ、受講生が作業で演習が成立しないので、注意すること。演習が成立しない場合、授業への参加度に関して検討を行うこととなる。									
教材教科書参考書	坂野憲司・福富律編『ソーシャルワーク演習（精神専門）～臨床ソーシャルワーク事例集』弘文堂、2022年（ISBN978-4-335-61131-5）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク関係の知識・技術は、関連科目で習得済であることを前提として授業展開を行うので、不足する部分は予め補っておくこと。積極的な発言、考察を求めるが、他者への配慮を忘れずに、節度ある取り組みに注意すること。									

科目名	社会福祉実習基礎論		科目コード	W34110	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PPP2-13	時間	30時間	学年			
区分	実践系列科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺裕子・宮田将希			授業	形態	演習	クラス分け
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	大きく二つの内容を学ぶ。一つは、ソーシャルワーク実習の意義と目的及び実習で学ぶべき内容及び実習を行う上で留意すべき事項等を確認し、実習に備えた学びを深める。他の一つは、「実習先施設・機関の業務内容とソーシャルワーカーの役割と業務」をテーマに、ゲストティーチャー（現場勤務の社会福祉士）による講義を通して、実習先施設・機関の特徴や主要な業務内容、ソーシャルワーカーの役割と業務、及び社会福祉実習に向かう心構えなどについて学ぶ。									
到達目標	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕									
	ディプロマポリシーの5関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。									
授業計画	①ソーシャルワーク実習の意義や目的を自身の言葉で説明することができる。 ②実習に向けての意識と意欲を高め、積極的な実習前学習に取り組むことができる。 ③外部講師の講義を通して、実習先施設・機関の特徴や主な業務、ソーシャルワーカーの担う役割等について理解を深める。									
	回	主 題	授 業 計 画						授 業 内 容	
第1回	オリエンテーション	予習レポートや振り返りシートの作成	授業内容の説明。 記載すべき内容、記述上の留意点と評価規準等を確認する。						講義	
第2回	社会福祉実習のねらいと学ぶべき内容		「ソーシャルワーク実習のガイドライン」等を通して、実習の意義と目的及び実習で学ぶべき内容の概略を知る。（序章&第1章第1節 巻末資料）						講義	
第3回	実習におけるスーパービジョン		実習スーパービジョンの意義及び実習期間中に行われるスーパービジョンの内容と方法等について理解する。（第1章第2節&第4章第1節）						講義	
第4回	実習におけるリスクマネジメント		実習に関連したリスクとその対応の仕方を理解する（第1章第5節）						講義	
第5回	ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解		ソーシャルワーク実習を学ぶ施設・機関について理解する（第2章第3節） 実習機関・施設におけるソーシャルワーク実習の内容を知る						講義	
第6回	外部講師による講義1（弘前市社会福祉協議会 岩木支部長 小林雅也氏） 実習施設・機関で求められるソーシャルワークの価値・知識・技術		「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」や「ソーシャルワーカーの倫理綱領」等で示されているソーシャルワークの価値・知識・技術などについて、実習を通して学ぶ意義を理解する。（第3章第1節の4 第6章11節）						講義	
第7回	振り返り（1）		外部講師の講義についての「振り返りレポート」と「疑問点」の自習（A4用紙1枚）をもとに発表・協議を行い、ソーシャルワークの価値・知識・技術の重要性を確認する。						グループワーク	
第8回	外部講師による講義2（特別養護老人ホーム 緑青園 葛西武佳子氏）		高齢者施設におけるソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際						講義	
第9回	外部講師による講義3（ほほえみ 就労支援課主任 佐々木啓太氏）		障害者の就労支援を担うソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際						講義	
第10回	振り返り（2）		外部講師ごとの「振り返りレポート」と「疑問点」の自習（A4用紙各1枚）をもとに発表・協議						グループワーク	
第11回	外部講師による講義4（児童養護施設 弘前愛成園園長 佐藤優輝氏）		児童養護施設におけるソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際						講義	
第12回	外部講師による講義5（平川市社会福祉協議会 木村圭佑氏）		社会福祉協議会におけるソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際						講義	
第13回	振り返り（3）		外部講師ごとの「振り返りレポート」と「疑問点」の自習（A4用紙各1枚）をもとに発表・協議						グループワーク	
第14回	外部講師による講義6（国立病院機構青森病院 医療社会事業専門職 大平香織氏）		医療ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際						講義	
第15回	振り返り（4）		外部講師ごとの「振り返りレポート」と「疑問点」の自習（A4用紙1枚）をもとに発表・協議						グループワーク	
評価方法及び評価基準	○外部講師の講義に対するレポート50%、グループ授業の予習・振り返りのレポート50%で評価する。 ・外部講師の講義・レポートについては、評価基準を印刷・配布し、教員の合意で評価する。 ・グループ授業における予習・振り返り等についても、上記基準を準用し、各教員が評価する。									
課題等	予習・振り返りシートは点検後に返却するので指摘された箇所の訂正を行い、以降の学習に生かすこと。									
事前事後学習	予習・振り返りレポートを作成することを通して事前事後学習を行うこと。									
教材教科書参考書	教科書：日本社会福祉士養成講座編(2021) 『第8巻 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習 [社会専門]』中央法規 ISBN9784805882511 参考書：『社会福祉小六法』 ミネルヴァ書房 ISBN9784623083107（最新版を用いること）									
留意点	「社会福祉実習指導Ⅰ」、「社会福祉実習Ⅰ」との関連を見ながら、自主的・積極的に学習に取り組んでほしい。									

科目名	社会福祉実習指導 I		科目コード	W34111	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	集中
	実践系科目	選択	科目ナンバリング	W-PPP2-14		15時間				
区分	実践系科目 社会福祉士指定科目	必修	担当者名	大原さやか・駒ヶ嶺裕子・松本郁代・ 小川幸裕・高橋和幸			授業 形態	講義	クラス分け	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ソーシャルワーク基礎実習の意義を理解し、社会福祉士として求められる役割や、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。さらに、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。加えて、実習で得た具体的な体験や援助活動を振り返り、実習の課題と成果を整理する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 5関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワーク基礎実習の意義及び、社会福祉士として求められる役割や、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養うことができる。</li> <li>・ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得することができる。</li> <li>・実習で得た具体的な体験や援助活動について振り返り、実習の成果と課題を実習報告書としてまとめ、発表することができる。</li> </ul>									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション、社会福祉基礎実習指導の演習の目的、授業方法について		冒頭30分間全体授業で、本演習のテーマや到達目標、授業方法、全体スケジュール、担当教員別履修生名簿を発表する。全体説明後に各教室に移り、実習の意義についてグループ討論を行う。					実習前授業 全体、グループ		
第2回	実習先となる施設や機関の理解		実習先となる施設や機関について予習し本授業で発表する。出席者はコメントし、実習に出るまでに不足している知識を明確化する。					実習前授業 グループ		
第3回	事前計画指導(1)		実習テーマや達成課題として興味があることを明確化し、課題の達成に向けてどのような方法にて学ぶべきか、一人ひとり発表する。					実習前授業 グループ		
第4回	事前計画指導(2)		実習施設・機関のサービス内容、ソーシャルワーカーの役割などについての予習結果と、前週までの学習成果を踏まえ、実習計画書の下書きを作る。					実習前授業 グループ		
第5回	事前計画指導(3)		実習計画書の下書きを完成させ、発表し、出席者はコメントする。コメントを参考に適宜、計画書の修正を行い、担当教員に提出する。					実習前授業 グループ		
第6回	価値と倫理、個人情報保護、利用者のプライバシーの尊重		ソーシャルワーカーの価値と倫理について再確認すると共に、実習中に迷いが生じた場合の対応法について学ぶ。					実習前授業 グループ		
第7回	実習日誌の書き方及びスーパービジョン		実習日誌の書き方について学ぶ。これ以降、適宜行われるスーパービジョンの目的及び役割を理解し、活用できるよう準備する。					実習前授業 グループ		
第8回	実習施設・機関への事前訪問に向けた指導		実習計画、テーマや課題の設定理由を実習先の指導者に説明できるように心の準備や説明場面のロールプレイを行う。また、実習施設・機関のパンフレットをもらい提供するサービス内容や職員配置等の情報収集、施設見学による情報集を同時に行うことを確認する。					実習前授業 グループ		
第9回	実習施設・機関への事前訪問後の指導(1)		事前訪問にて実習先の施設・機関のどのような情報が新たに得られたか振り返る。					実習前授業 グループ		
第10回	実習施設・機関への事前訪問後の指導(2)		事前訪問を受けての実習計画書の修正を行う。					実習前授業 グループ		
第11回	実習先で必要されるソーシャルワークの知識と技術		履修者各自の実習先で求められるソーシャルワークの知識と技術について、考えていることを報告し合う。					実習前授業 グループ		
第12回	実習前面接指導		実習向けての不安や悩みがないか、実習へのモチベーションの確認を行う。あわせて病欠時の連絡、けがや事故発生時の対応などの確認も行う。					実習前授業 グループ		
第13回	実習中の巡回指導と帰校指導		実習内容と実習状況の確認、実習計画書に掲げた課題の達成状況を評価する。実習中の巡回指導は実習時間にカウントし、帰校指導は授業1回分としてカウントする。					実習中		
第14回	実習総括指導(1)		実習で学んできたことの確認、実習計画書に掲げた課題の達成状況を評価し、実習報告書の作成に入る。					実習後授業 グループ		
第15回	実習総括指導(2)		実習報告書をクラス内で発表し、適宜修正した後、完成原稿を提出する。					実習後授業 グループ		
評価方法及び評価基準	<p>実習に向けての準備50%と実習後における振り返り50%で評価する。実習に向けての準備には実習計画書の作成が含まれる。実習後における振り返りには報告会の準備と報告、個人総括書作成が含まれる。</p> <p>なお、第1回ガイダンスで各種提出書類(個人調査・誓約書・科目等履修状況・実習計画書・報告会レジュメ・個人総括書)の締切日時を提示するので厳守のこと。これらの提出書類について締切を1回でも守らない場合は、単位認定できないので注意すること。</p>									
課題等	上記の通り、実習計画書・報告会レジュメ・実習総括書の作成の他、必要に応じて適宜指示する。									
事前事後学修	事前学習では指定のテキストや社会福祉実習の手引きを読んでくる。事後学習では更に知識を深めるために社会福祉小六法を活用して関係法令を調べ補足する。また、演習中に疑問に感じたことや知識不足を感じた箇所についてはその解消に向けて文献などを調べ補足する。									
教材教科書参考書	最新 社会福祉士養成講座 8 『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習【社会専門】』 中央法規 ISBN978-4-8058-8251-1C3036 ミネルヴァ書房編集部編(2024) 『社会福祉小六法』 ミネルヴァ書房 ISBN 9784623095124 (毎年4月公刊のため最新刊を購入のこと)									
留意点	実習指導は演習形式であるため、積極的発言(発表・コメント)や共同作業が求められる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	社会福祉実習指導Ⅱ		科目コード	W34201	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	通年	
	実践系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPPF2-15	時間	30時間					
区分	社会福祉士指定科目	必修	担当者名	松本郁代・小川幸裕・高橋和幸・丸山龍太・駒ヶ嶺裕子			授業形態	講義	クラス分		
授業の概要	<p>[授業の主旨] 多様な場・形態で存在するソーシャルワークの実践を理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。さらに、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための能力を習得する。加えて、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。実習前には実習計画書の指導を学内にて行い、実習中は巡回指導、帰校指導を行う。また、実習後は実習成果を学内で振り返り実習総括の報告会や報告書の作成指導を行う。</p> <p>[ディプロマポリシー（以下DP）及びカリキュラムポリシー（CP）との関連] ディプロマポリシーの2, 3, 5関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3, 5-4に関連している。</p>										
到達目標	多様な場・形態で存在するソーシャルワークの実践を理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養うことができる。さらに、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための能力を習得することができる。加えて、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養することができる。										
授業計画											
回	主題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修		備考		
第1回	オリエンテーション	実習の意義目的、実習指導の意義の理解、受講上の諸注意等を配布書類をもとに確認する		前半合同、後半グループ	第16回	オリエンテーション	①後期スケジュールと実習報告会についての確認 ②実習総括書の様式説明、説明後は各教室に移動		前半合同、後半グループ		
第2回	事前学習1	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（施設・機関の特性、法的根拠、利用者特性、サービスの内容等）		グループディスカッション	第17回	実習振り返り1	実習体験と実習日誌を踏まえた課題の整理を行う		グループディスカッション		
第3回	事前学習2	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（施設・機関の特性、職員配置、他の職種との連携）		グループディスカッション	第18回	実習振り返り2	前回の課題整理作業を踏まえ、①グループで振り返り、②実習報告会の報告内容の検討		グループディスカッション		
第4回	事前学習3	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（実習先施設と関連のある機関・事業所との多機関連携について）		グループディスカッション	第19回	実習振り返り3	①個別スーパービジョン、②グループで振り返り、③実習報告会のレジュメ下書き作業		グループディスカッション		
第5回	事前学習4	①事前学習を行う（求められるSWの価値・理念）		グループディスカッション	第20回	実習報告準備1	実習報告会に備え準備を行う、報告会レジュメを用いて発表模擬練習を行う		グループディスカッション		
第6回	事前学習5	①事前学習を行う（求められるSWの価値・理念、プライバシー保護と守秘義務）		グループディスカッション	第21回	実習報告準備2	実習報告会レジュメを用いて発表模擬練習を行う。発表レジュメの校正と発表内容の吟味		グループディスカッション		
第7回	事前学習6	①実習計画書の仮案の発表と質疑応答、課題の明確化を行う		グループディスカッション	第22回	実習報告準備3	実習報告会に備え準備を行う、当日の役割分担に話し合う（司会・タイムキーパー・書記）		グループディスカッション		
第8回	事前学習7	①実習時のスーパービジョンについて理解を深める		グループディスカッション	第23回	実習報告（総括）会1	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う		グループディスカッション		
第9回	実習準備1	①実習先事前訪問の意義、目的等を確認する。②事前訪問日時の予約		グループディスカッション	第24回	実習報告（総括）会2	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う		グループディスカッション		
第10回	実習準備2	①実習計画書の作成指導 ②実習日誌の記載法の留意点等を確認する		グループディスカッション	第25回	実習報告（総括）会3	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う		グループディスカッション		
第11回	実習準備3	①実習計画書の作成指導 ②事前訪問時の見学で得た施設・機関の対象者、サービス内容、職員配置、他の職種の専門性、地域連携等の情報整理		グループディスカッション	第26回	実習報告（総括）会4	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う		グループディスカッション		
第12回	実習準備4	①事前訪問の結果を踏まえ計画書の修正を行う		グループディスカッション	第27回	実習報告（総括）会5	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う		グループディスカッション		
第13回	実習準備5	①実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成過程を振り返る		グループディスカッション	第28回	実習総括書作成	実習総括書の下書きを発表し合い、助言を得て修正ポイントを把握する		グループディスカッション		
第14回	実習準備6	①最終確定版の実習計画について発表を行い、出席学生からコメントをもらう。		グループディスカッション	第29回	実習総括書最終校正	実習総括書の修正、完成を図る		グループディスカッション		
第15回	実習準備7	①病欠、事故やケガの発生時の対応等、実習上の諸注意。②利用者や地域の状況を理解するためのアセスメントツール、支援計画作成及び評価を経験できるような様式の確認、記載方法について学ぶ。		グループディスカッション	第30回	振り返り	提出した実習総括書を出席者全員で輪読し、1年間のまとめを行う		グループディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>実習に向けての準備50%と実習後における振り返り50%で評価する。実習に向けての準備には実習計画書の作成が含まれる。実習後における振り返りには報告会の準備と報告、個人総括書作成が含まれる。 なお、第1回ガイダンスで各種提出書類（個人調査書・誓約書・科目等履修状況・実習計画書・報告会レジュメ・個人総括書）の締切日時を提示するので厳守のこと。これらの提出書類について締切を1回でも守らない場合は、単位認定できないので注意すること。</p>										
課題等	上記の通り、実習計画書・報告会レジュメ・実習総括書の作成の他、必要に応じて適宜指示する。										
事前事後学修	事前学習では指定のテキストや社会福祉実習の手引きを読んでくる。事後学習では更に知識を深めるために社会福祉小六法を活用して関係法令を調べ補足する。また、演習中に疑問に感じたことや知識不足を感じた箇所についてはその解消に向けて文献などを調べ補足する。										
教材教科書参考書	最新 社会福祉士養成講座8 『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習〔社会専門〕』中央法規 ISBN978-4-8058-8251-1C3036 ミネルヴァ書房編集部編（2024）『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 ISBN 9784623095124（毎年4月公刊のため最新刊を購入のこと）										
留意点	実際に実習へ出て行くことを前提に、全ての行動を律するように。										

科目名	精神保健福祉実習指導Ⅰ		科目コード	W35004	単位数	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-16	時間	15時間				
区分	実践系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大原 さやか				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉実習の意義・目的について理解しながら、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。ここでは、精神保健福祉実習の事前学習として精神障害者の様々な問題に取り組む。そして、精神保健福祉の援助・支援に係る基礎的知識、技術と価値について具体的かつ実際に理解できるよう事例を通してグループワークにて学ぶ。グループワークを通して、自分の意見を伝え相手の意見を聴き、考察して深める。精神保健福祉実習の準備を行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2.3.5関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>本科目は、精神保健福祉実習の事前学習として、精神保健福祉の援助に係る基礎的知識、技術と価値について具体的かつ実際に理解できるよう学生自ら本講義に参加しながら学習する。また配属実習先施設・機関等を体系的に理解しながら実習に臨む基礎的実力を身につける。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	精神保健福祉援助実習と実習指導の意義①			自己紹介、精神保健福祉援助実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の意義						
第2回	精神保健福祉援助実習と実習指導の意義②			実習指導（スーパービジョン）の目的および意義						
第3回	精神保健医療福祉の現状に関する基本的理解			日本の精神保健福祉の現状のおかれている利用者理解						
第4回	実習施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的理解			社会資源を調べて報告する				事前学習		
第5回	実習に必要な専門的知識と技術に関する理解①			基本的な対人援助を事例を通して学習する				グループワーク		
第6回	実習に必要な専門的知識と技術に関する理解②			集団援助技術を事例を通して学習する				グループワーク		
第7回	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解			職業倫理と法的責務を事例を通して学習する				グループワーク		
第8回	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解			実習において発生されうる事態を事例を通して学習する				グループワーク		
第9回	「実習記録ノート」への記録内容及び方法に関する理解			実習ノートの取り方、スーパービジョンの受け方を学習する				個別ワーク		
第10回	現場体験学習及び見学実習の目的および事前学習			機関見学の事前準備を行う				グループワーク		
第11回	現場体験学習及び見学実習			機関見学を行う						
第12回	現場体験学習及び見学実習の事後学習			機関見学後の振り返りを行う						
第13回	実習課題及び実習計画の作成①			実習前に実習計画を作成し共有する				グループワーク		
第14回	実習課題及び実習計画の作成②			実習前に実習計画を作成し共有する				グループワーク		
第15回	実習の評価全体総括会（精神保健福祉実習報告会への参加）			実習した先輩方の精神保健福祉実習報告会に参加						
評価 方法及び 評価 基準	<p>出席が5分の4に満たない者は評価の対象としない。講義の様子とリアクションペーパー（60%）、機関見学とレポート課題（各20%計40%）で評価する。また、レポート課題は指定本を読み、どの程度理解したか評価する。</p>									
課題等	<p>精神保健福祉士の実践知に学ぶソーシャルワークシリーズ「ソーシャルワークプロセスにおける思考過程」田村綾子編著（中央法規出版）2017の概略と1事例をまとめて考察し、レポートとして提出する。</p>									
事前事後 学修	<p>機関調べや機関見学の事前学習を行う。毎回講義を受講した後に記録ノートにまとめる。実習計画書について指摘を受けた後、反映させて次週の講義に臨む。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習〔精神専門〕』（中央法規出版）2021</p>									
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</p>									

科目名	精神保健福祉実習指導Ⅱ		科目コード	W35005	単位数	2単位	対象学年	4年	開講学期	通年
	精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PPPF2-17	時間	30時間				
区分	実践系列科目	選択	担当者名	大原 さやか			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 精神保健福祉実習は精神障害者の理解に始まり、制度理解、社会福祉全般の知識や精神保健福祉の援助技術など講義、演習で学んだことを活用する。実習後は、実習計画にあげた課題の成果を振り返りながら総括し報告書を作成する。また、在学生、教員、実習指導者も招いて公開報告会も実施する。									
	〔ディプロマポリシー（以下DP）及びカリキュラムポリシー（CP）との関連〕 ディプロマポリシーの2, 3, 5関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 5-2, 5-3, 5-4に関連している。									
到達目標	精神保健福祉の臨床現場における実習を通して、各実習機関（精神科病院、障害福祉サービス事業所など）の役割、機能を把握する。また、最も大切なことは精神障害者への支援・援助を通して、自己理解を深め、気づきのある実習にすることと精神保健福祉士の役割とは何かを学ぶことである。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	精神保健福祉実習 オリエンテーション	実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解①		第16回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)				
第2回	精神保健福祉実習	実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解②		第17回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)				
第3回	精神保健福祉実習	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解①		第18回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)				
第4回	精神保健福祉実習	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解②		第19回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)				
第5回	精神保健福祉実習	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）①		第20回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)				
第6回	精神保健福祉実習	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）②		第21回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)				
第7回	精神保健福祉実習	「実習記録ノート（日誌）」の記録内容及び記録方法に関する理解①		第22回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)				
第8回	精神保健福祉実習	「実習記録ノート（日誌）」の記録内容及び記録方法に関する理解②		第23回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)				
第9回	精神保健福祉実習	事前訪問と確認事項①		第24回	精神保健福祉実習	実習振り返り (グループスーパービジョン)				
第10回	精神保健福祉実習	事前訪問と確認事項②		第25回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成				
第11回	精神保健福祉実習	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の確認		第26回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成				
第12回	精神保健福祉実習	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の確認		第27回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成				
第13回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について		第28回	精神保健福祉実習	実習報告会等準備作業・プレゼン方法の理解				
第14回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について		第29回	精神保健福祉実習	実習報告会				
第15回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について		第30回	精神保健福祉実習	実習報告書の仕上げ				
評価方法及び評価基準	実習に関する取り組み状況（実習計画書、他）と総括報告書（50%）や、実習機関からの実習評価（50%）で総合評価する。精神保健福祉実習Ⅰ・Ⅱと事前学習、事後学習から精神保健福祉士の専門性をどのように理解したか、自己覚知を経たうえで、何のために「かかわる」のか、ソーシャルワーカーとしての支援プロセス（課題をどう見立て計画しモニタリングしていく）を理解したかを評価する。									
課題等	実習計画書を自分の言葉で作成し、実習を通して計画を履行したうえで考察し、精神保健福祉士としての矜持を養う。実習修了後は、スーパービジョンを行い、その後は実習総括書を作成し、報告会を実施する。									
事前事後学修	毎週、実習計画書を作成し、コメントを反映させてくる。事前学習では、「精神保健福祉実習の手引き」を読む。実習に向けた資料を理解し実習Ⅰ期に臨む。実習Ⅰ期終了後は、振り返りを行い実習Ⅱ期に向けて準備する。実習Ⅱ期終了後は、振り返りを経つつ自己覚知やソーシャルワークについてグループワークを通して検討する。その際の資料を毎回準備する。									
教材教科書参考書	本学の「精神保健福祉実習の手引き」と資料を配布する予定である。									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。新型コロナウイルス感染症の感染者が多く、自粛制限が出た時には、実習先と相談する。場合によっては、学内実習に切り替えることもある。									

科目名	社会調査実習 A		科目コード	W35010	単位数	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-18	時間	30時間				
区分	実践系科目	選択	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	実習	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 インタビュー調査等の質的調査またはアンケートを用いた量的調査のいずれかを企画し、実際に調査を行い、集計、分析を行います（後期の社会調査実習Bと連続しています）。調査テーマはメンバーの話し合いによって決めます。これまで、地域に関する調査、家族に関する調査、生活全般に関する調査などを企画してきました。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4、5に関連し、カリキュラムポリシーの4-1、5-3、5-4に関連している									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査の方法を理解する</li> <li>・社会調査によって明らかにできることを理解する</li> <li>・仮説を立てられるようになる</li> <li>・社会調査全体の流れを理解する</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	社会福祉調査とは何か（1）		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						PBL	
第2回	社会福祉調査とは何か（2）		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						PBL	
第3回	社会福祉調査とは何か（3）		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						PBL	
第4回	社会福祉調査とは何か（4）		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						PBL	
第5回	調査テーマの検討（1）		話し合いをしながら調査テーマを考える						PBL ディスカッション	
第6回	調査テーマの検討（2）		話し合いをしながら調査テーマを考える						PBL ディスカッション	
第7回	調査テーマの検討（3）		話し合いをしながら調査テーマを考える						PBL ディスカッション	
第8回	調査テーマの検討（4）		話し合いをしながら調査テーマを考える						PBL ディスカッション	
第9回	調査テーマの検討（5）		話し合いをしながら調査テーマを考える						PBL ディスカッション	
第10回	先行研究の検討（1）		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる						PBL ディスカッション	
第11回	先行研究の検討（2）		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる						PBL ディスカッション	
第12回	先行研究の検討（3）		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる						PBL ディスカッション	
第13回	先行研究の検討（4）		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる						PBL ディスカッション	
第14回	実査の企画（1）		実際に行う調査の方法、時期等を検討する						PBL ディスカッション	
第15回	実査の企画（2）		実際に行う調査の方法、時期等を検討する						PBL ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、課題への取り組みを総合的に評価します									
課題等	調査テーマ案、調査仮説案の作成についての課題を出します。これらについては、授業中に検討します									
事前事後 学修	調査テーマ案、調査仮説案等について、自分なりに考えてみてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	参考書は、授業中に適宜指示します。									
留意点	社会調査は、実際に経験することで理解が深まります。積極的な参加を歓迎します。									

科目名	社会調査実習B		科目コード	W35011	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-19						
区分	実践系科目	選択	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	実習	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 インタビュー調査等の質的調査またはアンケートを用いた量的調査のいずれかを企画し、実際に調査を行い、集計、分析を行います（前期の社会調査実習Aと連続しています）。調査テーマはメンバーの話し合いによって決めます。これまで、地域に関する調査、家族に関する調査、生活全般に関する調査などを企画してきました。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4、5に関連し、カリキュラムポリシーの4-1、5-3、5-4に関連している									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査の方法を理解する</li> <li>・社会調査によって明らかにできることを理解する</li> <li>・仮説を立てられるようになる</li> <li>・社会調査全体の流れを理解する</li> </ul>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	質問票の作成（1）		仮説に合わせた質問項目を作成する						PBL ディスカッション	
第2回	質問票の作成（2）		仮説に合わせた質問項目を作成する						PBL ディスカッション	
第3回	質問票の作成（3）		仮説に合わせた質問項目を作成する						PBL ディスカッション	
第4回	質問票の作成（4）		仮説に合わせた質問項目を作成する						PBL ディスカッション	
第5回	質問票の作成（5）		仮説に合わせた質問項目を作成する						PBL ディスカッション	
第6回	調査の実施（1）		実際に調査を行う						PBL	
第7回	調査の実施（2）		実際に調査を行う						PBL	
第8回	調査の実施（3）		実際に調査を行う						PBL	
第9回	調査の実施（4）		実際に調査を行う						PBL	
第10回	調査結果の集計（1）		調査によって得られたデータを集計する						PBL	
第11回	調査結果の集計（2）		調査によって得られたデータを集計する						PBL	
第12回	調査結果の集計（3）		調査によって得られたデータを集計する						PBL	
第13回	調査結果の分析（1）		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する						PBL ディスカッション	
第14回	調査結果の分析（2）		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する						PBL ディスカッション	
第15回	調査結果の分析（3）		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する						PBL ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、課題への取り組みを総合的に評価します									
課題等	質問項目案の作成、分析結果のまとめについての課題を出します。これらについては、授業中に検討します									
事前事後 学修	質問項目案、分析結果等について、自分なりに考えてみてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	参考書は、授業中に適宜指示します。									
留意点	社会調査は、実際に経験することで理解が深まります。積極的な参加を歓迎します。									

科目名	専門演習 I		科目コード	W44105	単位数	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20.H	時間	60時間					
区分	実践系科目	選択	担当者名	石田 和男			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 本テーマである「動物性」(アニマリティ)は、欧米では動物倫理、ダイバーシティ、環境論、動物行動論と、多様な領域で研究されている。そして、いまや農福連携において重要なテーマとなっている。共感性や感情移入という新たな人類の能力であるEQの開発が求められている。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達 目標	テーマそれ自体に関する理解にとどまらず、それをいかに掘り下げ、再構成し、伝えられるかといった方法論をめぐっても、より精通することを目指す。 毎回、テーマごとに感想を文章または絵で表現してもらう。その作業を通じて、動物性、感情、移入(Empathy)への理解を高める。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備考
第1回	訪問	動物学の世界観、環世界				第16回	ノゾジカの出現	動物世界の何かに接触			
第2回	昼食の食卓にて	モザイクの問題:全体と部分				第17回	接近	人間と獣の間の限界			
第3回	あずまやにて	形式と意味、知覚標識				第18回	獣たちの場所	神々はそこにいる			
第4回	川原にて	パラ生物学的局面、環世界間交流				第19回	失われた内奥性	旧石器時代の絵			
第5回	ドラマとしての生	生存競争、向目的変異				第20回	寓話からの解放	動物の思考			
第6回	役割、生の場面	ダーウインの進化論、生のドラマ				第21回	開かれた世界	闘の経験、脱人間中心主義			
第7回	館の池の畔にて	役割のための衣装、器官の身体				第22回	目を瞪る能力	アウラのシステム			
第8回	構成のトーン	生命のメロディー、構造化か総譜				第23回	形成をめぐって	リルケとハイデガー			
第9回	種の起源	存在形式全体の変容				第24回	考える人	テンブルムと鳥たち			
第10回	遠乗り	知覚と認識、シェーマー意味信号				第25回	思考不可能なもの	「アントン・ライザー」の彷徨			
第11回	夕食の食卓にて	パブロフの反射、空間の勾配				第26回	動物たちの視覚	アホートルとの出会い			
第12回	海辺のテラスにて	感覚能力、想像能力、論理能力				第27回	植物の形態	種子と果実という生			
第13回	二人の論戦	動物学者の象徴、生物学者の象徴				第28回	動物の形態	従属栄養生物の形態的展開			
第14回	第3日	シュペーマンの形成体				第29回	ロバのまなざし	カラヴァッジョの思考性の次元			
第15回	洞窟の比喩	人間の環世界				第30回	犬のまなざし	ビエロ・ディ・コジモのまなざし			
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者をつくる、その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているか評価する。										
課題等	各回の主題についてテキストを読み、イメージを作る。後にノートを提出(週に1回)										
事前 事後 学修	授業では理解できないことを発信し、クリアにする。それを復習で文章化すること。										
教材 教科書 参考書	『思考する動物たち』J・C・バイイ、出版館ブッククラブ ISBN:978-4915884696。										
留意点	ジャンルにとらわれない思考を獲得するのに格好の機会となるでしょう。 毎回、テーマに関する印象を絵や詩で表現する。そのための白紙のノート持参のこと。										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44101	単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPF3-20.H						
区分	実践系列科目	必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 各自が年間を通じて取り組みたいテーマを見つけ、発表し、討論を通じて一定の結論に到達できるようにする。担当者の専門は法学（憲法学）であるから、社会福祉の専門的な知見を期待されても応えることは難しいかもしれないが、社会福祉の実践と密接に関わる人権論や、そもそもの学問としての論理性といった部分では、多少なりとも有益な関わりができるかもしれない。履修者の人数次第だが、基本的には、毎回のレジュメ作成と発表を義務づけたい。また、単に、他人の発表の聞き役におさまることなく、積極的に質疑応答を重ねていくことも期待したい。司会等が履修者によって行われることも期待したい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>									
	到達 目標	<p>テーマに関する表面的な理解で満足せずに、そこからどういった問題に派生していくか、どういう問題が解明できるかなどを根気よく追求する力を身につけることを目指す。喩えていえば、ゴールではなくスタートラインとなることを目指す。</p>								
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ガイダンス	何を研究したいか？		第16回	課題の再検討	テーマの再検討				
第2回	ガイダンス	何を研究したいか？		第17回	課題の再検討	テーマの再検討				
第3回	課題の設定	テーマの設定		第18回	発表と討論	発表と討論				
第4回	課題の設定	テーマの設定		第19回	発表と討論	発表と討論				
第5回	課題の追求	論理の組み立て		第20回	発表と討論	発表と討論				
第6回	課題の追求	論理の組み立て		第21回	発表と討論	発表と討論				
第7回	発表と討論	発表と討論		第22回	発表と討論	発表と討論				
第8回	発表と討論	発表と討論		第23回	発表と討論	発表と討論				
第9回	発表と討論	発表と討論		第24回	発表と討論	発表と討論				
第10回	発表と討論	発表と討論		第25回	発表と討論	発表と討論				
第11回	発表と討論	発表と討論		第26回	発表と討論	発表と討論				
第12回	発表と討論	発表と討論		第27回	発表と討論	発表と討論				
第13回	発表と討論	発表と討論		第28回	発表と討論	発表と討論				
第14回	発表と討論	発表と討論		第29回	発表と討論	発表と討論				
第15回	総括	前期の振り返り		第30回	総括	年間の振り返り				
評価 方法 及び 評価 基準	特に試験等は実施しないが、主に各自の発表や討論への取り組みを評価の対象とする。毎回、ディスカッションを行う。									
課題等	特になし									
事前事後 学修	事前については、特に発表の準備を綿密に行うこと。事後については、他者の発表で得られた知見をしっかりと理解し、自分のものにすること。									
教材 教科書 参考書	特に指定しない。									
留意点	特定の事柄について強い関心や豊富な知識を持っていることは要求しないが、何事についても問題意識が希薄な学生は履修を遠慮するのが得策かもしれない。									

科目名	専門演習 I		科目コード	W44205	単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
	科目ナンバリング		W-PPPF3-20.H	時間	60時間					
区分	実践系科目	必修	担当者名	棟方 達也			授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 このゼミでは、社会福祉に関する直接的、専門的な内容を主題としていない。専門に扱うのはアウトドアスポーツである。情報収集や文献研究は勿論だが（情報リテラシー、ICT活用）、実技（実践）を重視し、アウトドアにおける様々な活動の計画、準備、実践、記録、報告等を通して課題の設定からその解決方法を模索し結論に到達する過程を学ぶ。「グルーワーク」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」及び「反転学習」等のアクティブラーニング要素を含む。 【対象となりうる主な種目】スノースポーツ、シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング 等									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の実習全てに参加する。</li> <li>・1つの活動を計画から実践を経て報告書にまとめあげ発表（プレゼンテーション）して完結させる。</li> <li>・引き続き専門演習Ⅱを受講する予定の者は、卒業研究に向けてアウトドアスポーツに関するテーマの絞り込みをスタートする。</li> </ul>									
授業計画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	年間計画	季節に応じた種目選択と実施計画	受講者数を考慮	第16回	夏実習総括	報告書作成と発表（行動記録、データ等の整理、ppt.準備）	プレゼンテーション			
第2回	アウトドアスポーツ実践の基礎	情報収集と情報の活用		第17回	秋実習のための基礎知識と情報収集1	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他				
第3回	アウトドアスポーツ実践の基礎	アウトドア系専門用語（報告に向けた下調べ）		第18回	秋実習のための基礎知識と情報収集2	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他				
第4回	アウトドアスポーツ実践の基礎	装備の活用と管理（報告に向けた下調べ）		第19回	秋実習の計画と準備	日程、装備、食事、交通手段 その他				
第5回	アウトドアスポーツ実践の基礎	食材・食品の知識と活用（報告に向けた下調べ）		第20回	秋実習	〔例〕山岳活動、サイクリング等から1種目	フィールドワーク			
第6回	アウトドアスポーツ実践の基礎	現地情報とその分析		第21回						
第7回	アウトドアスポーツ実践の基礎	ロープワーク、安全対策 その他（報告に向けた下調べ）		第22回	秋実習総括	報告書作成と発表（行動記録、データ等の整理、ppt.準備）	プレゼンテーション			
第8回	アウトドアスポーツ実践の基礎	読図&コンパスワーク その他（報告に向けた下調べ）	フィールドワーク	第23回	共通演習4	映像、画像の扱い方（データの収集）				
第9回	アウトドアスポーツ実践の基礎	各種計画法：食料、装備、行動 その他		第24回	冬実習のための基礎知識と情報収集1	装備、安全対策 その他（必要に応じて事前実践学習）				
第10回	アウトドアスポーツ実践の基礎	傷害と救急処置（反復練習）		第25回	冬実習のための基礎知識と情報収集2	用具と技術（必要に応じて事前実践学習）				
第11回	夏実習のための基礎知識と情報収集1	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他（種目選択）		第26回	冬実習の計画と準備	種目、日程、装備、食事、交通手段 等について				
第12回	夏実習のための基礎知識と情報収集2	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他		第27回	冬実習	スノースポーツ				
第13回	夏実習の計画と準備	日程、装備、食事、交通手段、個別活動等について		第28回						
第14回	夏実習	〔例〕シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング 等から1種目以上	フィールドワーク	第29回	冬実習総括	報告書作成と発表（行動記録、データ等の整理、ppt.準備）	プレゼンテーション			
第15回				第30回	年間総括	全体の振り返り、補足及び専門演習Ⅱへ向けて				
評価方法及び評価基準	出席状況及び実習実施状況：50点（3回の実習を全てクリアすること。夏休み中、社会福祉実習等で参加できない場合は、他の日程や内容で代替実施する場合もある。） 報告及び発表：50点（求められる内容を正しく理解し、指定された形式でまとめられているかを評価する。） 活動への積極性を重視する。									
課題等	アウトドアにおける様々な活動の計画、準備、実践、記録、報告等を通して課題の設定からその解決方法を模索し結論に到達する過程									
事前事後学修	全ての事前学修は、実践（実習）を前提としている。また、実践（実習）後の総括（報告）は、次の実習の土台となる。実技の実践（フィールドワーク）を伴うため、授業時間内で完結できない場合がほとんどであり、土日祝日や平日の空き時間を積極的に活用することになる。									
教材教科書参考書	種目により、必要に応じてその都度、指定または提供する。									
留意点	原則、人間科学コース所属の学生を前提としている。内容が特殊であるので、登録前に必ず面談し適性や内容の確認をすること。（Teamsのチャットによるアポイント可）土日や長期休業期間を利用した学外活動が多く、交通費や装備費等の実費負担も相応に発生する。アウトドアと運動が好きであれば、性別、経験、運動能力は問わない。但し、喫煙者お断り。※1～2年次において、スポーツ科学実技（アウトドアスポーツ：陸、シーカヤック、スクーバダイビング及びスノースポーツ）から1つ以上を履修していることが望ましい。									

科目名	専門演習 I		科目コード	W44201		単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20.H		時間	60時間				
区分	実践系科目	必修	担当者名	小川 幸裕				授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 ソーシャルワーク、独立型社会福祉士、社会福祉士、権利擁護に関する文献を講読する。毎回、担当者を決め担当箇所のレジメを作成する。作成したレジメをもとに報告を行い、それについて全体で討論する。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達目標	(1) ソーシャルワークに関する文献を読むことができる。 (2) 社会福祉士の活動について説明できる。 (3) 社会課題の背景と構造についてソーシャルワークの視点から説明できる。 (4) 社会課題への対応についてソーシャルワークの視点から説明できる。										
授業計画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）		備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）		備考		
第1回	オリエンテーション	1) 演習授業の進め方の説明 2) グループワークの心構え			第16回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第2回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第17回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第3回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第18回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第4回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第19回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第5回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第20回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第6回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第21回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第7回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第22回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第8回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第23回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第9回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第24回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第10回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第25回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第11回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第26回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第12回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第27回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第13回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第28回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第14回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第29回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
第15回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第30回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディスカッション		
評価方法及び評価基準	レジメ作成50%、報告50% レジメの作成は、ソーシャルワークに関する先行研究の収集および整理、構成と文章力、その内容の論理性などをルーブリックを用いて評価する。 報告は、発言頻度やその内容を評価する。										
課題等	フィードバックとして報告内容やレジメについてコメントを返します。										
事前事後学修	演習時にて次回の予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。										
教材教科書参考書	テーマの設定後に決定する。										
留意点	卒業論文の執筆に向けて、自分自身のテーマを見つけ、それを文章および文字で表現するという作業に丁寧に取り組むことを期待する。ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある（参加が困難な場合は、参加にかかわるレポート提出を求める）。										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44102	単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20. H							
区分	実践系科目	必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 1・2年で4小論文の基礎的文章作成能力は学生自らが身につけたと思います。それゆえ、これからは、卒業論文の準備を始めて行きます。まずは、学生が自らこれから2年間で少しずつ発表していくテーマを決めてもらいます。まずは、テーマを決める前に学生同士で情報交換会を行います。テーマは自分で決めるものですが、互いの情報交換で、予想すらしないヒントが生まれるかもしれません。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達 目標	テーマをしっかりと決めて、文章を書き、考えることを習慣にしてください。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考
第1回	卒業論文とは何か	卒業論文の理解				第16回	夏休みをどのように過ごしたか	質問や意見交換			
第2回	学生それぞれがどのような卒論を書きたいかのべる	それぞれの情報に関する学生同士の意見交換				第17回	西東の卒論の骨格づくりについて	質問や意見交換			
第3回	同上	同上とテーマの決定				第18回	学生の発表	質問や意見交換			
第4回	学生の発表	質問や意見交換				第19回	学生の発表	質問や意見交換			
第5回	学生の発表	質問や意見交換				第20回	学生の発表	質問や意見交換			
第6回	学生の発表	質問や意見交換				第21回	先輩の卒論を読む	先輩の卒論への質問や意見交換			
第7回	発表3回分の西東による助言と指導	西東の助言と指導に対する質問				第22回	学生の発表	質問や意見交換			
第8回	先輩の卒論を読む	先輩の卒論への質問や意見				第23回	学生の発表	質問や意見交換			
第9回	学生の発表	質問や意見交換				第24回	学生の発表	質問や意見交換			
第10回	学生の発表	質問や意見交換				第25回	先輩の卒論を読む	先輩の卒論への質問や意見交換			
第11回	学生の発表	質問や意見交換				第26回	学生の発表	質問や意見交換			
第12回	先輩の卒論を読む	先輩の卒論への質問や意見交換				第27回	学生の発表	質問や意見交換			
第13回	学生の発表	質問や意見交換				第28回	学生の発表	質問や意見交換			
第14回	学生の発表	質問や意見交換				第29回	これまでまとめてきた文章の発表	質問や意見交換			
第15回	学生の発表	質問や意見交換				第30回	学生の発表に対する西東の講評	講評への質問や意見交換			
評価 方法 及び 評価 基準	最後にまとめた文章を読んで評価（100%）										
課題等	文章の作り方など、気になることは何でも質問して下さい。										
事前事後学 修	文章の作成途中でも、質問に来て下さい。										
教材 教科書 参考書	文章の作り方などの参考書は自分で選んで下さい。										
留意点	上記授業内容は、基礎演習の中で、時間があいたときに教員が学生に説明を心がけるものです。学生の要望がなければなりません。										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44303	単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20. H	時間	60時間					
区分	実践系科目	必修	担当者名	藤岡 真之				授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 この授業では、文献の読解、社会調査の実施、小論文の執筆という作業を通して、社会をみる眼、および論理的思考力を養います。前期は、社会学系の文献（社会意識、コミュニケーション、ネットワーク、社会問題等の分野）を講読し、それに関連するフィールドワークを行います。後期は、自らの関心に基づいて設定したテーマについて、小論文を作成します										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2-2、3-2、4-2、5-3、5-4に関連している										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読む力をつける</li> <li>自分の関心を掘り下げ、問いを設定できるようになる</li> <li>論理的な文章を書けるようになる</li> </ul>										
授業計画											
回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	ガイダンス	演習の進め方について				第16回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第2回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第17回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第3回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第18回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第4回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第19回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第5回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第20回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第6回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第21回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第7回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第22回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第8回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第23回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション
第9回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第24回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第10回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第25回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第11回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第26回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第12回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディスカッション	第27回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第13回	地域調査の検討	地域調査をどのように行うかということを検討する			ディスカッション	第28回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第14回	地域調査の実施	実際に地域調査を実施する			フィールドワーク	第29回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第15回	地域調査の振り返り	地域調査の振り返りを行い、明らかにしたことについての意味を議論する			ディスカッション	第30回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
評価方法及び評価基準	授業への参加度、報告、小論文を総合的に評価します										
課題等	課題、報告レジュメのやり取りにはTeamsも使用します										
事前事後学修	使用するテキストを読んで、理解を深めてください。また、小論文の執筆に必要な作業を行ってください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。										
教材教科書参考書	講読する文献は、事前の合同ゼミ説明会の際に提示します。										
留意点											

科目名	専門演習 I		科目コード	W44305		単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20.H		時間	60時間				
区分	実践系科目	必修	担当者名	丸山 龍太				授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 〔キーワード： 貧困、スティグマ、生活保護〕 専門演習 I では、履修者自ら卒業論文執筆に向けてのテーマの設定を行い、研究活動を行う中で、考察を深めることを目的とする。私は、キーワードに記した分野を研究領域としている為、これらに関心のある方を特に歓迎したい。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している。										
到達目標	自らが興味関心のある社会福祉学に関する事柄から研究テーマを設定し、その発表と討論、その後、再テーマ設定と再発表、再討論を繰り返す。この繰り返しから、お互いに社会福祉学の現状と課題に関し理解と考察を深めることができる。これらを通じて、4年次の卒業論文等の作成に向けた準備を完了することを目標とする。										
授業計画											
回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	専門演習を始めるにあたってのオリエンテーションを行う				第16回	テーマ設定	前期を踏まえ、研究テーマの再設定等を行う			グループワーク
第2回	研究方法	研究を進める上での方法を理解し、実際に活用する			グループワーク	第17回	テーマ設定	前期を踏まえ、研究テーマの再設定等を行う			グループワーク
第3回	研究方法	研究を進める上での方法を理解し、実際に活用する			グループワーク	第18回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション
第4回	テーマ設定	自ら学びを深めたい事柄を考え、研究テーマを設定する			グループワーク	第19回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション
第5回	テーマ設定	自ら学びを深めたい事柄を考え、研究テーマを設定する			グループワーク	第20回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション
第6回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション	第21回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション
第7回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション	第22回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション
第8回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション	第23回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション
第9回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション	第24回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション
第10回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション	第25回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション
第11回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション	第26回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション
第12回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション	第27回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション
第13回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション	第28回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する			プレゼンテーション
第14回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する			ディスカッション	第29回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する			プレゼンテーション
第15回	前期の振り返り	これまでの研究成果を踏まえ、後期に向けた課題を整理する				第30回	専門演習 II に向けた準備	次年度専門演習 II に向け、準備を行う			
評価方法及び評価基準	試験は実施しない。各自の発表、討論の取り組み状況等、授業への参加度（100%）で評価する。自ら課題を設定し研究を進めることとなるので、主体的な行動が求められる。主体的な行動が難しい場合、再履修となる可能性が高まる。										
課題等	各自、テーマに応じてに応じて適宜指示する。提出はTEAMSにより行う。										
事前事後学修	各自、テーマに応じてに応じて適宜指示する。用意した資料は、予めTEAMS上にアップロードする。										
教材教科書参考書	各自、必要に応じて適宜指示する。										
留意点	私の専門演習 I は、卒業論文等を作成することを前提に演習を行います。その為、私の専門演習 I を希望する人は、履修に関する相談を新年度授業開始までに十分に私と行うようお願いします。履修相談なく履修登録した場合、履修を認めませんので注意して下さい。										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44204		単位数 4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年					
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20.H											
区分	実践系科目	必修	担当者名	川村 泰弘			授業 形態	演習	単独						
授業の 概要	〔授業の主旨〕														
	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期は特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編を読み、大綱的な基準である学習指導要領等の記述の意味や解釈などの理解を深め、創意工夫を生かした教育課程の編成について考える。併せて、主に知的障害のある生徒の学習指導について、学習指導案の作成と模擬授業を通して考える。</li> <li>後期は、学生自身が設定した特別支援教育に関するテーマを追求し、その成果をレポートにまとめる。</li> </ul>														
到達 目標	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕														
	ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している														
到達 目標	1 特別支援学校学習指導要領解説を読み、学習指導要領に記載された記述の意味や解釈などを理解する。														
	2 知的障害のある生徒の実態を踏まえた学習指導案の作成と模擬授業を実施し、特別支援学校における学習指導について理解を深める。														
3 特別支援教育に関する研究主題の設定から研究報告までの一連の活動を進めるための基本事項を修得する。															
<b>授 業 計 画</b>															
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考				
第1回	オリエンテーション					第16回	学生個々の研究テーマと研究計画の設定	夏季休業中に各自のテーマと研究計画を構想し、意見交換を通して個人テーマと研究計画を確定する。							
第2回	(1) 特別支援学校学習指導要領の理解  (2) 学習指導案の作成と模擬授業	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編の通読とメンバー同士の話し合い活動を通して、特別支援学校学習指導要領の理解を深める。  学習指導案作成の意義、役割等を確認したうえで、知的障害児を対象とした学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。 学習指導案の事前検討。模擬授業後の検討会を行い、知的障害教育の授業のあり方を考える。			ディスカッション	第17回	研究テーマの追求	研究計画に基づき、学生一人一人の研究テーマを追求する。  研究テーマ追求の進捗状況の報告と意見交換を行う。							
第3回					ディスカッション	第18回					ディスカッション				
第4回					ディスカッション	第19回					ディスカッション				
第5回					ディスカッション	第20回					ディスカッション				
第6回					ディスカッション	第21回					ディスカッション				
第7回					ディスカッション	第22回					ディスカッション				
第8回					ディスカッション	第23回					ディスカッション				
第9回					ディスカッション	第24回					レポートの作成	研究成果をまとめ、レポートを作成する。			
第10回					ディスカッション	第25回						レポート概要の報告と協議を行う。			ディスカッション
第11回					ディスカッション	第26回						レポートを修正する。			
第12回					ディスカッション	第27回					レポート概要の報告と協議を行う。			ディスカッション	
第13回					ディスカッション	第28回					レポートの最終稿を作成する。				
第14回					ディスカッション	第29回					発表会準備	プレゼンテーション資料の作成と発表リハーサルを行う。			
第15回					ディスカッション	第30回					発表会	研究成果の発表と質疑応答を行う。			ディスカッション
評価 方法 及び 評価 基準					<ul style="list-style-type: none"> <li>演習への参加状況30%、学習指導案の作成と模擬授業20%、レポートの作成と発表50%で評価する。</li> <li>演習への参加状況は主体的な授業参加の姿勢に加えて、企画力、課題発見力、情報活用能力などを中心に評価する。</li> <li>レポートは、課題設定の着眼点、全体構成と文章力、論理性について評価する。</li> </ul>										
課題等	・レポート集を作成するので、できるだけパソコン等を用いて作成し、電子データの提出に協力してほしい。														
事前事後学 修	予習：課題図書指定箇所を読み、自身の考えを持って授業に臨むこと。また、発表者は事前にレジメを作成し、当日の授業のはじめに配布すること。 復習：授業で出された課題や疑問点について、自身の考えをまとめること。														
教材 教科書 参考書	教科書：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部） ISBN：978-4304042294 ・関連する内容や研究方法、レポートの執筆方法等については、随時資料を配布する。														
留意点	・授業時間外におけるメンバー間の協議や情報共有、教員への相談によって、積極的に課題追求を行うようにしてほしい。														

科目名	専門演習 I		科目コード	W44104	単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-20.H	時間	60時間				
区分	実践系科目	必修	担当者名	宮田 将暉				授業形態	演習	単独
授業の概要	<p>[授業の主旨]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども家庭福祉、特に社会的養護に関連する、文献や資料を読み、内容についての議論を行う。</li> <li>実際の実践現場において、どのような支援が必要とされるか、事例を交え学習していく。</li> <li>その他実践現場において必要な専門的な知識や技術を学習していく。</li> </ul> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>									
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども家庭福祉に関する理解を深める。</li> <li>実践現場に必要な知識や技術を身につける。</li> </ul>								
授業計画										
回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について		第16回	オリエンテーション	授業の進め方について				
第2回	文献検討 事例検討 グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献や資料について、それぞれが意見をだし合って議論を行う。</li> <li>実践現場を想定した事例をもとに、それぞれがその立場になった時にワーカーとしてどのような立ち振る舞いをしていくかを考え、ワーカーとして必要な知識や技術を身につける。</li> <li>授業の進捗に応じて、実際の現場を見学する機会を設ける。</li> </ul>	グループワーク	第17回	文献検討 事例検討 グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献や資料について、それぞれが意見をだし合って議論を行う。</li> <li>実践現場を想定した事例をもとに、それぞれがその立場になった時にワーカーとしてどのような立ち振る舞いをしていくかを考え、ワーカーとして必要な知識や技術を身につける。</li> <li>授業の進捗に応じて、実際の現場を見学する機会を設ける。</li> </ul>	グループワーク			
第3回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第18回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第4回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第19回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第5回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第20回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第6回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第21回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第7回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第22回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第8回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第23回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第9回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第24回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第10回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第25回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第11回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第26回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第12回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第27回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第13回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第28回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第14回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク	第29回	文献検討 事例検討 グループワーク		グループワーク			
第15回	まとめ		これまでのまとめ		第30回		まとめ	これまでのまとめ		
評価方法及び評価基準	授業への参加度(出席・発言)に応じて評価									
課題等	適宜									
事前事後学修	子ども家庭福祉に関連する文献やニュース等を読んでおく。									
教材教科書参考書	授業ごとに必要な教材については指定する。									
留意点										

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44701	単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S	時間	90時間				
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	石田 和男				授業 形態	演習	単独
授業の 概要	〔授業の主旨〕 〔キーワード：人間の尊厳、スピリチュアリティ、ウェルフェア、公助と共助〕 19世紀、20世紀、21世紀と、福祉が発展した経過の中で、キーワードに上っているテーマを一つでも用いて論文を書くこと。そのためにもキーワードを調べておくこと。それを学び、自分のテーマとすることで21世紀の福祉のテーマをマクロに捉えることができる。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している									
到達 目標	自分の主体的な判断で論文のテーマを決めること。それを表現するスキルを上げる。それが他者にどう伝わるのかを工夫する。単純かつ判明に表現すること。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	論文の書き方 (1)	題目の設定		第16回	論文作成 (1)	構想と展開 1				
第2回	論文の書き方 (2)	研究の意義について		第17回	論文作成 (2)	構想と展開 2				
第3回	論文の書き方 (3)	方法の検討		第18回	論文作成 (3)	構想と展開 3				
第4回	論文の書き方 (4)	スケジュール		第19回	論文作成 (4)	レイアウト				
第5回	論文の書き方 (5)	文献蒐集		第20回	論文作成 (5)	節の検討 1				
第6回	論文の書き方 (6)	文献の検討 1		第21回	論文作成 (6)	節の検討 2				
第7回	論文の書き方 (7)	文献の検討 2		第22回	論文作成 (7)	節の検討 3				
第8回	論文の書き方 (8)	文献の検討 3		第23回	論文作成 (8)	中間発表				
第9回	論文の書き方 (9)	文献の検討 4		第24回	論文作成 (9)	記述内容の検討 1				
第10回	論文の書き方 (10)	文献の検討 5		第25回	論文作成 (10)	記述内容の検討 2				
第11回	論文の書き方 (11)	文献の検討 6		第26回	論文作成 (11)	記述内容の検討 3				
第12回	論文の書き方 (12)	文献の検討 7		第27回	論文作成 (12)	記述内容の検討 4				
第13回	論文の書き方 (13)	文献の検討 8		第28回	論文作成 (13)	引用、参考文献の整備				
第14回	論文の読み (1)	文献の講読と検討 (1)		第29回	論文作成 (14)	レジュメの作成				
第15回	論文の読み (2)	文献の講読と検討 (2)		第30回	論文作成 (15)	発表				
評価 方法 及び 評価 基準	出席、予習、発表、復習（ノートを1ヶ月事に点検）を総合的に評価する。									
課題等	主題ごとの調査をしっかりと行うこと。記録をノートにとり、後日内容を点検する。									
事前事 後学修	各テーマにわたってしっかりと調査+学習を要する。その上で論文作成作業へ入っていく。									
教材 教科書 参考書	『当事者研究』熊谷晋一郎、岩波書店。ISBN:978-4-4-00-006337-1									
留意点	毎回前進する必要があるため、予習をしておくこと。									

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44702	単位数 時間	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		90時間					
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 日本における社会福祉の歴史について、テーマを設定し、論文もしくはレポートを執筆する。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達 目標	卒業論文またはレポートを執筆すること。安易に「論文」・「研究」という言葉を使わず、内実の伴ったものを執筆できるようにすること。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考
第1回	論文を書く前に①	論文とレポートの違い				第16回	論文のきまり	論文執筆のイロハ			
第2回	論文を書く前に②	何のために、何を書くのか				第17回	引用の示し方	参考は学会誌			
第3回	年間計画の立て方	限定された時間を論文執筆に充てる方法				第18回	参考文献・引用文献の書き方	怪しい文献リストは、論文の命取り			
第4回	テーマ設定の仕方①	それを勉強しないと生きていけないテーマとは？				第19回	専門用語の定義	論文で使用する用語は定義が必要			
第5回	テーマ設定の仕方②	先行研究を越えて				第20回	事実と意見の分け方	事実と意見を分けよう			
第6回	先行研究の探し方	研究レビューのない論文は、論文ではない				第21回	論理的に書くには	「逆茂木」の文章とは			
第7回	先行研究の読み方	先行研究に敬意をはらう				第22回	註と見出し	註のない論文は、論文か？			
第8回	研究方法の選び方	歴史的研究は、文献研究のみ？				第23回	論文構成の実際	論文のアウトラインを作ろう			
第9回	調査的面接の実際①	インタビューをする前に				第24回	卒論の展開の仕方	卒論の限界			
第10回	調査的面接の実際②	インタビューをしてみよう			インタビュー	第25回	論文の点検と推敲	別の環境で推敲せよ			
第11回	研究の倫理①	研究の節度				第26回	卒論の報告・議論①	書きたいことを口頭で説明する			報告
第12回	研究の倫理②	「コピペ」を越えて				第27回	卒論の報告・議論②	書きたいことについて、批判をもらおう			報告
第13回	文献検索の方法①	図書館利用方法			文献検索	第28回	卒論発表の実際	書いた卒論を披露する			報告
第14回	文献検索の方法②	他大学などの図書館利用方法			文献検索	第29回	発表論文への道	本当に「論文」になっているなら			
第15回	文献検索の方法③	公文書館利用方法				第30回	まとめ	一年間を振り返って			
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点と卒論・レポートを半々で評価する。										
課題等	その都度、指示をする。										
事前事後学修	その都度、指示をする。										
教材 教科書 参考書	白井利明・高橋一郎著（2013）『やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房 ISBN: 978-4-623-06572-1 鈴木淳子（2002）『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版 ISBN: 4-88848-693-x										
留意点	「社会福祉発達史A・B」を修得していること。 勝手に他の教員の指導を受けないこと。これは、アカデミックな機関におけるイロハにあたることを認識しておくこと。										

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44703	単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S	時間	90時間					
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	棟方 達也			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 卒業研究はスポーツに関連するテーマを対象とする。尚、研究の成果は必ずしも論文形式とは限らない。各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式(論文の他、視察・体験報告、企画、創作等)を選択して良い。従って、当然ながら、授業時間以外の活動、調査、作業等も相応に求められることになる。「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」、「反転学習」の他、テーマによっては「グループワーク」のアクティブラーニング要素を含む。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している										
到達 目標	卒業研究の完成										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備考
第1回	ガイダンス	本ゼミの受講にあたっての諸注意と確認				第16回	夏期休業中実績報告会	夏期休業前の計画をふまえた実績報告			プレゼン テーショ ン
第2回	年間計画	卒業研究の他、専門演習Ⅰの実習との関わり方を含む(オブザーバー)				第17回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第3回	卒業研究指導	テーマの確認(テーマの絞り込み)				第18回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第4回	卒業研究指導	研究形式の決定と研究計画(研究構想の提示)				第19回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第5回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				第20回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第6回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				第21回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第7回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				第22回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)※状況によっては中間発表会			プレゼン テーショ ン
第8回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				第23回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第9回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				第24回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第10回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				第25回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第11回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				第26回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第12回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				第27回	研究成果の提出	内容確認、補足、修正 等			
第13回	卒業研究指導	中間発表準備(レジュメ準備)				第28回	研究成果確定	確認及び発表形式について			
第14回	中間発表会	ppt.その他の形式による発表(レジュメ準備)			プレゼン テーショ ン	第29回	最終発表準備	発表準備(レジュメ準備)と最終確認			
第15回	夏期休業中の計画	テーマ・研究形式に応じたスケジュールの確認				第30回	最終発表会	研究形式に応じた発表と評価			プレゼン テーショ ン
評価 方法 及び 評価 基準	報告と中間発表:20点 卒業研究成果:80点 研究形式に即した内容と成果のまとめ方を評価する。 ※オブザーバーとして演習Ⅰの実習をサポートした場合は、その状況も考慮する。										
課題等	各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式(論文の他、視察・体験報告、企画、創作等)を選択する。										
事前事後学 修	テーマによっては、学外での活動に多くの時間(宿泊、遠征を伴う場合もあり=フィールドワーク)を要する場合もある。										
教材 教科書 参考書	研究テーマ次第										
留意点	3年次の専門演習Ⅰは棟方ゼミを履修していることが望ましい。										

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44704	単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S	時間	90時間				
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	小川 幸裕			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 社会福祉に関する諸問題について、自らが興味関心を持ったテーマを選び、これまで修得してきた知識や技能を統合して研究を行い、卒業論文またはレポートをまとめることを目指す。卒業論文やレポートの作成に伴う、「研究テーマの設定」「先行研究のレビュー」「研究の背景・目的」「研究方法」「考察」などに関するレジュメの作成および報告を行う。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している									
到達 目標	1) 研究テーマを設定することができる。 2) 先行研究のレビューを行うことができる。 3) 研究の背景および目的を記載することができる。 4) 研究方法を記載できる。 5) 考察を記載できる。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備 考	
第1回	オリエンテーション	1) 演習の進め方 2) 評価方法および基準			第16回	考察の検討(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第2回	研究テーマの設定(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第17回	考察の検討(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第3回	研究テーマの設定(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第18回	考察の検討(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第4回	研究テーマの設定(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第19回	考察の検討(4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第5回	先行研究のレビュー(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第20回	報告・議論(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第6回	先行研究のレビュー(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第21回	報告・議論(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第7回	先行研究のレビュー(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第22回	報告・議論(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第8回	先行研究のレビュー(4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第23回	報告・議論(4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第9回	研究の背景・目的の検討(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第24回	報告・議論(5)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第10回	研究の背景・目的の検討(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第25回	報告・議論(6)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第11回	研究の背景・目的の検討(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第26回	報告・議論(7)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第12回	研究方法の検討(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第27回	報告・議論(8)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第13回	研究方法の検討(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第28回	報告・議論(9)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第14回	研究方法の検討(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第29回	報告・議論(10)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	
第15回	研究方法の検討(4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディスカッション	第30回	まとめ	1) 卒論発表 2) 総括		ディスカッション	
評価 方法及び 評価 基準	1) 卒業論文・レポート70%、レジュメ作成および報告30% 2) 卒業論文・レポートの執筆にあたって、先行研究のレビュー、研究の背景・目的、研究方法、考察などの執筆過程についても評価する。 3) 卒業論文・レポートは、着眼点、構成と文章力、その内容の論理性、妥当性、客観性、オリジナリティ、先行研究などの収集とまとめ、その到達レベルについてルーブリックを用いて評価する。									
課題等	フィードバックとして報告内容やレジュメについてコメントを返します									
事前事後学修	演習時にて次回の予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。 準備学習時間の目安：90分以上。									
教材 教科書 参考書	学生の研究内容に応じ、必要な資料や文献を指示する。									
留意点	卒業論文およびレポートの作成に意欲的に取り組むことを期待します。ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある。									

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44705	単位数	6単位	対象	4年	開講	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S	時間	90時間	学年		学期		
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	高橋 和幸			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	[授業の主旨] 専門演習Ⅰで調べた内容について更に深く掘り下げて調査を行う。たとえば、海外ではどのように対策が取り組まれているか、国内での先進事例はどうなっているか探し、あるいは地元での地道な取り組みに密着取材する等が考えられる。原則として、卒業論文を完成させることをねらいとする。但し、それに拠り難い場合は、学外において継続的に取り組んだ活動を事例に検討し報告書として提出する卒業研究レポートを完成させる。										
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達 目標	自分の力で研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させること。但し、それに拠り難い場合は、学外において継続的に取り組んだ活動を事例に検討し報告書として提出する卒業研究レポートを完成させること。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考
第1回	オリエンテーション	演習の進め方を説明。(次回までに研究テーマを準備のこと)				第16回	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成(次回の発表に備える)			
第2回	テーマの検討	持参した研究テーマについてのレジュメを報告しあう。(次回までに研究計画下書きを準備)			プレゼンテーション・ディスカッション	第17回	経過報告① ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度			プレゼンテーション・ディスカッション
第3回	テーマの大枠を設定	研究計画下書きを報告。(次回までに先行研究の文献リストを準備)			プレゼンテーション・ディスカッション	第18回	経過報告② ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度			プレゼンテーション・ディスカッション
第4回	先行研究などの資料収集にあたって、どんな方法で、どんな視点でみるべきか討論	先行研究文献リストを発表しあう。Wi-Fiに接続しCiniiでもう一度確かめる。(先行研究探しを継続のこと)			プレゼンテーション・ディスカッション	第19回	追跡調査、追加で行うべき調査について討論	追跡調査、追加で行うべき調査について討論			プレゼンテーション・ディスカッション
第5回	先行研究の資料収集に関する情報交換	先行研究の資料収集に関する情報交換を行う			プレゼンテーション・ディスカッション	第20回	章立て構成の検討	章立て構成の検討を行う(次回まで追跡調査結果を発表できるようにレジュメを準備)			グループワーク
第6回	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合って図書館にて文献収集を行う①	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合って図書館にて文献収集を行う。また、Web接続しながら資料検索を行う。			Webを活用した他館蔵書検索含む	第21回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告			プレゼンテーション・ディスカッション
第7回	共同での調査②	前回の続きを行う(調査結果を次回までにレジュメにまとめて持参)。不足部分はWebに接続しながら追跡調査する。			Webを活用した他館蔵書検索含む	第22回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告(次回までに論文執筆状況報告レジュメを用意)			
第8回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。			プレゼンテーション・ディスカッション	第23回	論文等執筆状況報告、意見交換	論文等執筆状況報告、意見交換			プレゼンテーション・ディスカッション
第9回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。			プレゼンテーション・ディスカッション	第24回	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論			プレゼンテーション・ディスカッション
第10回	仮説の設定と調査方法の検討①	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。			プレゼンテーション・ディスカッション	第25回	論文等執筆状況報告、意見交換	論文等執筆状況報告、意見交換(次回までに卒論の調査結果についてパワーポイント発表できるように下書きを作成して持参)			
第11回	仮説の設定と調査方法の検討②	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。			プレゼンテーション・ディスカッション	第26回	パワーポイントによる最終発表の準備	発表スライドの下書きで予行練習。修正の指摘をもらう			プレゼンテーション・ディスカッション
第12回	論文の書き方について復習	論文の書き方について復習する(次回までに研究計画書を作成し持参)			プレゼンテーション・ディスカッション	第27回	最終発表会①(質疑応答含む)	最終発表会①(質疑応答含む)			プレゼンテーション・ディスカッション
第13回	研究計画書を作成	研究計画書を発表、質疑応答。(次回までに助言を踏まえた計画書の修正版作成のこと)			プレゼンテーション・ディスカッション	第28回	最終発表会②(質疑応答含む)	最終発表会②(質疑応答含む)			プレゼンテーション・ディスカッション
第14回	意見交換を踏まえ研究計画書を作成	最終的な研究計画書の提出、発表。質疑応答。			プレゼンテーション・ディスカッション	第29回	発表会での指摘を受けて加筆・修正	発表会での指摘を受けて加筆・修正(卒論等を次回提出できるよう用意のこと)			
第15回	前半の振り返り	前半の振り返りと、夏休み中の調査実施に関わる諸注意。				第30回	一年間の振り返り(成果の分かち合い)	一年間の振り返り(成果の分かち合い)、卒論等提出。慰労会。			
評価 方法及び 評価 基準	参加態度30%と卒業研究の成果物(論文・研究レポート・実践報告等)70%の総合評価。(参加態度):研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうことで評価する。(研究成果物):主に論文・研究レポート・実践報告については関心・意欲・問題解決の思考・判断・技能・表現方法の観点から評価を行う。										
課題等	卒業研究の成果物(論文・研究レポート・実践報告等)ならびに、研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらう。										
事前事後学 修	研究テーマの設定に向けて先行研究を調べ、じっくりと読んで吟味すること。研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうので、授業の中で指摘された不足している知識や新たな課題に取り組むこと。予習復習はそれぞれ2時間以上行うこと。										
教材 教科書 参考書	各自、専門領域を調査することになるので、ゼミ生共通のテキストは無し。適宜、各自のテーマに合った参考書を紹介する。										
留意点	論文・研究レポート・実践報告等の作成状況は、就職活動の影響も受けるし、調べる領域によっては先行研究が少なく文献探索に長期間を要すること等も影響する。発表すべきときに発表レジュメが間に合わないということがないように計画的な行動を心掛けてもらいたい。発表日の欠席は厳に慎んでもらいたい。この演習では「研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させる」という目標に取り組める意欲のある方の履修を大いに歓迎する。										

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)	科目コード	W44706		単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		時間	90時間				
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	演習	単独
授業の 概要	〔授業の主旨〕 卒業論文を仕上げていく演習になります。卒業論文を提出時期は基本的には1月末とします。社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験を受験する学生は、11月末に提出して下さい。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している									
到達 目標	卒業論文を仕上げる能力を身につけます。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)	備考			
第1回	卒業論文を仕上げる心構えと諸注意	質問		第16回	夏休みをどのように過ごしたかを聞く	質問や意見交換				
第2回	3年次までに仕上げた文章の発表	質問や意見交換		第17回	学生の発表	質問や意見交換				
第3回	同上	同上		第18回	同上	同上				
第4回	同上	同上		第19回	同上	同上				
第5回	現時点での学生の発表内容への講評	講評に対する質問や意見		第20回	卒業論文の仕上げに向けて	質問				
第6回	卒業論文の新規追加文章の発表	質問や意見交換		第21回	学生の発表	質問や意見交換				
第7回	同上	同上		第22回	同上	同上				
第8回	同上	同上		第23回	同上	同上				
第9回	卒業論文の新規追加文章の講評	質問や意見交換		第24回	学生によるこの2年間の反省と将来の希望	質問や意見交換				
第10回	学生の発表	質問や意見交換		第25回	卒論未提出の学生の発表	質問や意見交換				
第11回	同上	同上		第26回	同上	質問や意見交換				
第12回	同上	同上		第27回	西東の修士論文作業の思い出	学部学生時代は法律学科で卒論がなかった				
第13回	先輩の卒業論文を読む	質問や意見交換		第28回	文章を書く能力について解説	これまでの卒業生と自らの経験から改めて解説				
第14回	学生の発表	質問や意見交換		第29回	自らの好きなことを見つける人生	質問				
第15回	学生の発表	質問や意見交換		第30回	これからの時代を生き抜く卒業生に	質問				
評価 方法 及び 評価 基準	卒業論文の提出 (100%)									
課題等	粘り強く文章を作して下さい。									
事前事後学修	文章の作成途中でも、質問に来て下さい。									
教材 教科書 参考書	文章の作り方などの参考書は自分で選んで下さい。									
留意点	上記授業内容は、基礎演習の中で、時間があいたときに教員が学生に説明を心がけるものです。学生の要望がなければなりません。									

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44707	単位数	6単位	対象	4年	開講	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S	時間	90時間	学年		学期		
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 この演習では、大学で4年間学んできたことの証しとして卒業論文を執筆します。卒業論文を完成させた暁には、大きな達成感と共に、これまで見たことのなかった景色を見ることができると期待します。論文のテーマについては各自の関心を重んじます。自らが書くべきテーマについて、よく考えてください。ただし、論文は、必ずしも自分のみで執筆するものではありません。他のゼミ生や担当教員とのやり取りを通じて、より多面的で深い内容に仕上がると期待します。 また、論文執筆の際には、必要に応じて社会調査も行います。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2-2、3-2、4-2、5-3、5-4に関連している										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの力で問いを立てられる。</li> <li>・問いに対応した適切な方法を考えられる。</li> <li>・データの解釈や理論的検討を元に、妥当な結論を導くことができる。</li> </ul>										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考
第1回	ガイダンス	演習の進め方について				第16回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第2回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第17回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第3回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第18回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第4回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第19回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第5回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第20回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第6回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第21回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第7回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第22回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第8回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第23回	中間報告	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			プレゼンテーション
第9回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第24回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第10回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第25回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第11回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第26回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第12回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第27回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第13回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第28回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第14回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第29回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第15回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第30回	論文の発表	完成した論文を発表する			プレゼンテーション
評価 方法及び 評価 基準	授業への参加度、途中の報告、卒業論文を総合的に評価します										
課題等	課題、報告レジュメのやり取りにはTeamsも使用します										
事前事後学 修	文献読解、調査の準備・実施等を継続的に行ってください。準備学習時間の目安：1日当たり1時間程度。										
教材 教科書 参考書	適宜、指示します										
留意点											

科目名	専門演習Ⅱ・社会福祉実践 (卒業研究含む)		科目コード	W44708		単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年			
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S										
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	宮田 将希				授業 形態	演習	単独				
授業の 概要	[授業の主旨] ・卒業論文執筆に向けて取り組んでいく。 ・実践現場において必要な知識や技術について学習する。 ・それぞれの研究テーマに対して、学生同士が共に考え、議論を重ねて論文を執筆する。													
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している													
到達 目標	・実践現場に必要な知識や技術を身につける。 ・卒業論文を執筆する。													
<b>授 業 計 画</b>														
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を確認。				第16回	オリエンテーション	授業の進め方を確認。						
第2回	テーマ設定①	卒業論文執筆に伴う、自身が研究したいテーマについて考える。			グル ープ ワー ク	第17回	論文の執筆方法	卒業論文の執筆方法についての説明。						
第3回	テーマ設定②	卒業論文執筆に伴う、自身が研究したいテーマについて考える。			グル ープ ワー ク	第18回	卒論指導	卒業論文の進捗確認。 それぞれが直面する論文のつまづきに対しては、グループワークにてディスカッション等も行う。 進捗に応じて、論文執筆に必要な説明・講義を行う。			グル ープ ワー ク			
第4回	研究計画	それぞれの研究についての計画を策定する。			グル ープ ワー ク	第19回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第5回	文献の調べ方	論文に必要な文献の調べ方について学ぶ。			グル ープ ワー ク	第20回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第6回	グループディスカッション①	それぞれのテーマに関してのディスカッションを行う。 リサーチクエスト・仮説を立てその内容を議論していく。			グル ープ ワー ク	第21回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第7回	グループディスカッション②				グル ープ ワー ク	第22回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第8回	グループディスカッション③				グル ープ ワー ク	第23回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第9回	グループディスカッション④				グル ープ ワー ク	第24回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第10回	グループディスカッション⑤				グル ープ ワー ク	第25回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第11回	フィールドワーク①	それぞれのテーマに関連する実践現場にてフィールドワークを行う。 映像資料等も活用する。			フィー ルド ワー ク	第26回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第12回	フィールドワーク②				フィー ルド ワー ク	第27回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第13回	フィールドワーク③				フィー ルド ワー ク	第28回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第14回	フィールドワーク④				フィー ルド ワー ク	第29回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第15回	まとめ	これまでのまとめ・進捗確認。				第30回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度50%と卒業論文の内容50%													
課題等	適宜													
事前事後学 修	それぞれのテーマに応じて													
教材 教科書 参考書	それぞれのテーマに応じて													
留意点														

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44709	単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S						
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 〔キーワード：人間の尊厳、スピリチュアリティ、ウェルフェア、公助と共助〕 19世紀、20世紀、21世紀と、福祉が発展した経過の中で、キーワードに上っているテーマを一つでも用いて論文を書くこと。そのためにもキーワードを調べておくこと。それを学び、自分のテーマとすることで21世紀の福祉のテーマをマクロに捉えることができる。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している									
到達 目標	自分の主体的な判断で論文のテーマを決めること。それを表現するスキルを上げる。それが他者にどう伝わるのかを工夫する。単純かつ判明に表現すること。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	論文の書き方 (1)	題目の設定		第16回	論文作成 (1)	構想と展開 1				
第2回	論文の書き方 (2)	研究の意義について		第17回	論文作成 (2)	構想と展開 2				
第3回	論文の書き方 (3)	方法の検討		第18回	論文作成 (3)	構想と展開 3				
第4回	論文の書き方 (4)	スケジュール		第19回	論文作成 (4)	レイアウト				
第5回	論文の書き方 (5)	文献蒐集		第20回	論文作成 (5)	節の検討 1				
第6回	論文の書き方 (6)	文献の検討 1		第21回	論文作成 (6)	節の検討 2				
第7回	論文の書き方 (7)	文献の検討 2		第22回	論文作成 (7)	節の検討 3				
第8回	論文の書き方 (8)	文献の検討 3		第23回	論文作成 (8)	中間発表				
第9回	論文の書き方 (9)	文献の検討 4		第24回	論文作成 (9)	記述内容の検討 1				
第10回	論文の書き方 (10)	文献の検討 5		第25回	論文作成 (10)	記述内容の検討 2				
第11回	論文の書き方 (11)	文献の検討 6		第26回	論文作成 (11)	記述内容の検討 3				
第12回	論文の書き方 (12)	文献の検討 7		第27回	論文作成 (12)	記述内容の検討 4				
第13回	論文の書き方 (13)	文献の検討 8		第28回	論文作成 (13)	引用、参考文献の整備				
第14回	論文の読み (1)	文献の講読と検討 (1)		第29回	論文作成 (14)	レジュメの作成				
第15回	論文の読み (2)	文献の講読と検討 (2)		第30回	論文作成 (15)	発表				
評価 方法 及び 評価 基準	出席、予習、発表、復習（ノートを1ヶ月事に点検）を総合的に評価する。									
課題等	主題ごとの調査をしっかりと行うこと。記録をノートにとり、後日内容を点検する。									
事前事後 学修	各テーマにわたってしっかり調査+学習を要する。その上で論文作成作業へ入っていく。									
教材 教科書 参考書	『当事者研究』熊谷晋一郎、岩波書店。ISBN:978-4-4-00-006337-1									
留意点	毎回前進する必要があるため、予習をしておくこと。									

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44710	単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S							
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 日本における社会福祉の歴史について、テーマを設定し、論文もしくはレポートを執筆する。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達 目標	卒業論文またはレポートを執筆すること。安易に「論文」・「研究」という言葉を使わず、内実の伴ったものを執筆できるようにすること。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	論文を書く前に①	論文とレポートの違い				第16回	論文のきまり	論文執筆のイロハ			
第2回	論文を書く前に②	何のために、何を書くのか				第17回	引用の示し方	参考は学会誌			
第3回	年間計画の立て方	限定された時間を論文執筆に充てる方法				第18回	参考文献・引用文献の書き方	怪しい文献リストは、論文の命取り			
第4回	テーマ設定の仕方①	それを勉強しないと生きていけないテーマとは？				第19回	専門用語の定義	論文で使用する用語は定義が必要			
第5回	テーマ設定の仕方②	先行研究を越えて				第20回	事実と意見の分け方	事実と意見を分けよう			
第6回	先行研究の探し方	研究レビューのない論文は、論文ではない				第21回	論理的に書くには	「逆茂木」の文章とは			
第7回	先行研究の読み方	先行研究に敬意をはらう				第22回	註と見出し	註のない論文は、論文か？			
第8回	研究方法の選び方	歴史的な研究は、文献研究のみ？				第23回	論文構成の実際	論文のアウトラインを作ろう			
第9回	調査的面接の実際①	インタビューをする前に				第24回	卒論の展開の仕方	卒論の限界			
第10回	調査的面接の実際②	インタビューをしてみよう			インタビュー	第25回	論文の点検と推敲	別の環境で推敲せよ			
第11回	研究の倫理①	研究の節度				第26回	卒論の報告・議論①	書きたいことを口頭で説明する			報告
第12回	研究の倫理②	「コピペ」を越えて				第27回	卒論の報告・議論②	書きたいことについて、批判をもらう			報告
第13回	文献検索の方法①	図書館利用方法			文献 検索	第28回	卒論発表の実際	書いた卒論を披露する			報告
第14回	文献検索の方法②	他大学などの図書館利用方法			文献 検索	第29回	発表論文への道	本当に「論文」になっているなら			
第15回	文献検索の方法③	公文書館利用方法				第30回	まとめ	一年間を振り返って			
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点と卒論・レポートを半々で評価する。										
課題等	その都度、指示をする。										
事前事後学 修	その都度、指示をする。										
教材 教科書 参考書	白井利明・高橋一郎著 (2013) 『やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる卒論の書き方 第2版』 ミネルヴァ書房 ISBN: 978-4-623-06572-1 鈴木淳子 (2002) 『調査的面接の技法』 ナカニシヤ出版 ISBN: 4-88848-693-x										
留意点	「社会福祉発達史A・B」を修得していること。 勝手に他の教員の指導を受けないこと。これは、アカデミックな機関におけるイロハにあたることを認識しておくこと。										

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44711		単位数	6単位	対象	4年	開講	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S		時間	90時間	学年		学期	
区分	実践系列科目	選択必修	担当者名	棟方 達也				授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 卒業研究はスポーツに関連するテーマを対象とする。尚、研究の成果は必ずしも論文形式とは限らない。各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式（論文の他、視察・体験報告、企画、創作等）を選択して良い。従って、当然ながら、授業時間以外の活動、調査、作業等も相応に求められることになる。「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」、「反転学習」の他、テーマによっては「グループワーク」のアクティブラーニング要素を含む。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,2-2,3-2,4-2,5-3,5-4に関連している										
到達目標	卒業研究の完成										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	ガイダンス	本ゼミの受講にあたっての諸注意と確認				第16回	夏期休業中実績報告会	夏期休業前の計画をふまえた実績報告			プレゼンテーション
第2回	年間計画	卒業研究の他、専門演習Ⅰの実習との関わり方を含む（オブザーバー）				第17回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第3回	卒業研究指導	テーマの確認（テーマの絞り込み）				第18回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第4回	卒業研究指導	研究形式の決定と研究計画（研究構想の提示）				第19回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第5回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第20回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第6回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第21回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第7回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第22回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）※状況によっては中間発表会			プレゼンテーション
第8回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第23回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第9回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第24回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第10回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第25回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第11回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第26回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）			
第12回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）				第27回	研究成果の提出	内容確認、補足、修正 等			
第13回	卒業研究指導	中間発表準備（レジュメ準備）				第28回	研究成果確定	確認及び発表形式について			
第14回	中間発表会	ppt. その他の形式による発表（レジュメ準備）			プレゼンテーション	第29回	最終発表準備	発表準備（レジュメ準備）と最終確認			
第15回	夏期休業中の計画	テーマ・研究形式に応じたスケジュールの確認				第30回	最終発表会	研究形式に応じた発表と評価			プレゼンテーション
評価方法及び評価基準	報告と中間発表：20点 卒業研究成果：80点 研究形式に即した内容と成果のまとめ方を評価する。 ※オブザーバーとして演習Ⅰの実習をサポートした場合は、その状況も考慮する。										
課題等	各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式（論文の他、視察・体験報告、企画、創作等）を選択する。										
事前事後学修	テーマによっては、学外での活動に多くの時間（宿泊、遠征を伴う場合もあり=フィールドワーク）を要する場合もある。										
教材教科書参考書	研究テーマ次第										
留意点	3年次の専門演習Ⅰは棟方ゼミを履修していることが望ましい。										

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44712	単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S	時間	90時間					
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	小川 幸裕				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 社会福祉に関する諸問題について、自らが興味関心を持ったテーマを選び、これまで修得してきた知識や技能を統合して研究を行い、卒業論文またはレポートをまとめることを目指す。卒業論文やレポートの作成に伴う、「研究テーマの設定」「先行研究のレビュー」「研究の背景・目的」「研究方法」「考察」などに関するレジメの作成および報告を行う。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達 目標	1) 研究テーマを設定することができる。 2) 先行研究のレビューを行うことができる。 3) 研究の背景および目的を記載することができる。 4) 研究方法を記載できる。 5) 考察を記載できる。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考
第1回	オリエンテーション	1) 演習の進め方 2) 評価方法および基準				第16回	考察の検討(1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第2回	研究テーマの設定(1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第17回	考察の検討(2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第3回	研究テーマの設定(2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第18回	考察の検討(3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第4回	研究テーマの設定(3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第19回	考察の検討(4)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第5回	先行研究のレビュー(1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第20回	報告・議論(1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第6回	先行研究のレビュー(2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第21回	報告・議論(2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第7回	先行研究のレビュー(3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第22回	報告・議論(3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第8回	先行研究のレビュー(4)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第23回	報告・議論(4)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第9回	研究の背景・目的の検討(1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第24回	報告・議論(5)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第10回	研究の背景・目的の検討(2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第25回	報告・議論(6)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第11回	研究の背景・目的の検討(3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第26回	報告・議論(7)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第12回	研究方法の検討(1)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第27回	報告・議論(8)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第13回	研究方法の検討(2)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第28回	報告・議論(9)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第14回	研究方法の検討(3)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第29回	報告・議論(10)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第15回	研究方法の検討(4)	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第30回	まとめ	1) 卒論発表 2) 総括			ディスカッション
評価 方法 及び 評価 基準	1) 卒業論文・レポート70%、レジメ作成および報告30% 2) 卒業論文・レポートの執筆にあたって、先行研究のレビュー、研究の背景・目的、研究方法、考察などの執筆過程についても評価する。 3) 卒業論文・レポートは、着眼点、構成と文章力、その内容の論理性、妥当性、客観性、オリジナリティ、先行研究などの収集とまとめ、その到達レベルについてルーブリックを用いて評価する。										
課題等	フィードバックとして報告内容やレジメについてコメントを返します										
事前事後学修	演習時にて次回の予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。 準備学習時間の目安：90分以上。										
教材 教科書 参考書	学生の研究内容に応じ、必要な資料や文献を指示する。										
留意点	卒業論文およびレポートの作成に意欲的に取り組むことを期待します。ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある。										

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44713	単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S							
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	高橋 和幸			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 専門演習Ⅰで調べた内容について更に深く掘り下げて調査を行う。たとえば、海外ではどのように対策が取り組まれているか、国内での先進事例はどうなっているか探し、あるいは地元での地道な取り組みに密着取材する等が考えられる。原則として、卒業論文を完成させることをねらいとする。但し、それに抛り難い場合は、学外において継続的に取り組んだ活動を事例に検討し報告書として提出する卒業研究レポートを完成させる。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している										
到達 目標	自分の力で研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させること。但し、それに抛り難い場合は、学外において継続的に取り組んだ活動を事例に検討し報告書として提出する卒業研究レポートを完成させること。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考
第1回	オリエンテーション	演習の進め方を説明。(次回までに研究テーマを準備のこと)				第16回	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成(次回の発表に備える)			
第2回	テーマの検討	持参した研究テーマについてのレジュメを報告しあう。(次回までに研究計画下書きを準備)			プレゼンテーション・ディスカッション	第17回	経過報告① ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度			プレゼンテーション・ディスカッション
第3回	テーマの大枠を設定	研究計画下書きを報告。(次回までに先行研究の文献リストを準備)			プレゼンテーション・ディスカッション	第18回	経過報告② ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度			プレゼンテーション・ディスカッション
第4回	先行研究などの資料収集にあたって、どんな方法で、どんな視点でみるべきか討論	先行研究文献リストを発表しあう。Wi-Fiに接続しCiniiでもう一度確かめる。(先行研究探しを継続のこと)			プレゼンテーション・ディスカッション	第19回	追跡調査、追加で行うべき調査について討論	追跡調査、追加で行うべき調査について討論			プレゼンテーション・ディスカッション
第5回	先行研究の資料収集に関する情報交換	先行研究の資料収集に関する情報交換を行う			プレゼンテーション・ディスカッション	第20回	章立て構成の検討	章立て構成の検討を行う(次回まで追跡調査結果を発表できるようにレジュメを準備)			グループワーク
第6回	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合って図書館にて文献収集を行う①	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合って図書館にて文献収集を行う。また、Web接続しながら資料検索を行う。			Webを活用した他館蔵書検索含む	第21回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告			プレゼンテーション・ディスカッション
第7回	共同での調査②	前回の続きを行う(調査結果を次回までにレジュメにまとめて持参)。不足部分はWebに接続しながら追跡調査する。			Webを活用した他館蔵書検索含む	第22回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告(次回までに論文執筆状況報告レジュメを用意)			
第8回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。			プレゼンテーション・ディスカッション	第23回	論文等執筆状況報告、意見交換	論文等執筆状況報告、意見交換			プレゼンテーション・ディスカッション
第9回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。			プレゼンテーション・ディスカッション	第24回	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論			プレゼンテーション・ディスカッション
第10回	仮説の設定と調査方法の検討①	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。			プレゼンテーション・ディスカッション	第25回	論文等執筆状況報告、意見交換	論文等執筆状況報告、意見交換(次回までに卒論の調査結果についてパワーポイント発表できるように下書きを作成して持参)			
第11回	仮説の設定と調査方法の検討②	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。			プレゼンテーション・ディスカッション	第26回	パワーポイントによる最終発表の準備	発表スライドの下書きで予行練習。修正の指摘をもらう			プレゼンテーション・ディスカッション
第12回	論文の書き方について復習	論文の書き方について復習する(次回までに研究計画書を作成し持参)			プレゼンテーション・ディスカッション	第27回	最終発表会①(質疑応答含む)	最終発表会①(質疑応答含む)			プレゼンテーション・ディスカッション
第13回	研究計画書を作成	研究計画書を発表、質疑応答。(次回までに助言を踏まえた計画書の修正版作成のこと)			プレゼンテーション・ディスカッション	第28回	最終発表会②(質疑応答含む)	最終発表会②(質疑応答含む)			プレゼンテーション・ディスカッション
第14回	意見交換を踏まえ研究計画書を作成	最終的な研究計画書の提出、発表。質疑応答。			プレゼンテーション・ディスカッション	第29回	発表会での指摘を受けて加筆・修正	発表会での指摘を受けて加筆・修正(卒論等を次回提出できるよう用意のこと)			
第15回	前半の振り返り	前半の振り返りと、夏休み中の調査実施に関わる諸注意。				第30回	一年間の振り返り(成果の分かち合い)	一年間の振り返り(成果の分かち合い)、卒論等提出。慰労会。			
評価 方法 及び 評価 基準	参加態度30%と卒業研究の成果物(論文・研究レポート・実践報告等)70%の総合評価。(参加態度):研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうことで評価する。(研究成果物):主に論文・研究レポート・実践報告については関心・意欲・問題解決の思考・判断・技能・表現方法の観点から評価を行う。										
課題等	卒業研究の成果物(論文・研究レポート・実践報告等)ならびに、研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらう。										
事前事後学 修	研究テーマの設定に向けて先行研究を調べ、じっくりと読んで吟味すること。研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうので、授業の中で指摘された不足している知識や新たな課題に取り組むこと。予習復習はそれぞれ2時間以上行うこと。										
教材 教科書 参考書	各自、専門領域を調査することになるので、ゼミ生共通のテキストは無し。適宜、各自のテーマに合った参考書を紹介する。										
留意点	論文・研究レポート・実践報告等の作成状況は、就職活動の影響も受けるし、調べる領域によっては先行研究が少なく文献探索に長期間を要すること等も影響する。発表すべきときに発表レジュメが間に合わないということがないように計画的な行動を心掛けてもらいたい。発表日の欠席は厳に慎んでもらいたい。この演習では「研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させる」という目標に取り組める意欲のある方の履修を大いに歓迎する。										

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44714		単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S							
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名				西東 克介		授業 形態	演習	単独
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 卒業論文を仕上げていく演習になります。卒業論文を提出時期は基本的には1月末とします。社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験を受験する学生は、11月末に提出して下さい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している</p>										
到達 目標	卒業論文を仕上げる能力を身につけます。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考
第1回	卒業論文を仕上げる心構えと諸注意	質問				第16回	夏休みをどのように過ごしたかを聞く	質問や意見交換			
第2回	3年次までに仕上げた文章の発表	質問や意見交換				第17回	学生の発表	質問や意見交換			
第3回	同上	同上				第18回	同上	同上			
第4回	同上	同上				第19回	同上	同上			
第5回	現時点での学生の発表内容への講評	講評に対する質問や意見				第20回	卒業論文の仕上げに向けて	質問			
第6回	卒業論文の新規追加文章の発表	質問や意見交換				第21回	学生の発表	質問や意見交換			
第7回	同上	同上				第22回	同上	同上			
第8回	同上	同上				第23回	同上	同上			
第9回	卒業論文の新規追加文章の講評	質問や意見交換				第24回	学生によるこの2年間の反省と将来の希望	質問や意見交換			
第10回	学生の発表	質問や意見交換				第25回	卒論未提出の学生の発表	質問や意見交換			
第11回	同上	同上				第26回	同上	質問や意見交換			
第12回	同上	同上				第27回	西東の修士論文作業の思い出	学部学生時代は法律学科で卒論がなかった			
第13回	先輩の卒業論文を読む	質問や意見交換				第28回	文章を書く能力について解説	これまでの卒業生と自らの経験から改めて解説			
第14回	学生の発表	質問や意見交換				第29回	自らの好きなことを見つける人生	質問			
第15回	学生の発表	質問や意見交換				第30回	これからの時代を生き抜く卒業生に	質問			
評価 方法 及び 評価 基準	卒業論文の提出（100%）										
課題等	粘り強く文章を作って下さい。										
事前事後学 修	文章の作成途中でも、質問に来て下さい。										
教材 教科書 参考書	文章の作り方などの参考書は自分で選んで下さい。										
留意点	上記授業内容は、基礎演習の中で、時間があいたときに教員が学生に説明を心がけるものです。学生の要望がなければなりません。										

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44715	単位数	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S	時間	90時間					
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 この演習では、大学で4年間学んできたことの証しとして卒業論文を執筆します。卒業論文を完成させた暁には、大きな達成感と共に、これまで見たことのない景色を見ることができるよう。論文のテーマについては各自の関心を重んじます。自らが書くべきテーマについて、よく考えてください。ただし、論文は、必ずしも自分のみで執筆するものではありません。他のゼミ生や担当教員とのやり取りを通じて、より多面的で深い内容に仕上がると思います。 また、論文執筆の際には、必要に応じて社会調査も行います。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2-2、3-2、4-2、5-3、5-4に関連している										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの力で問いを立てられる。</li> <li>・問いに対応した適切な方法を考えられる。</li> <li>・データの解釈や理論的検討を元に、妥当な結論を導くことができる。</li> </ul>										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考
第1回	ガイダンス	演習の進め方について				第16回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第2回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第17回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第3回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第18回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第4回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ				第19回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第5回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第20回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第6回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第21回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第7回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第22回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第8回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第23回	中間報告	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			プレゼンテーション
第9回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第24回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第10回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第25回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第11回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第26回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第12回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第27回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第13回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第28回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第14回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第29回	論文の執筆・推敲	論文を執筆し、内容の検討、推敲をする			ディスカッション
第15回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する			プレゼンテーション	第30回	論文の発表	完成した論文を発表する			プレゼンテーション
評価 方法及び 評価 基準	授業への参加度、途中の報告、卒業論文を総合的に評価します										
課題等	課題、報告レジュメのやり取りにはTeamsも使用します										
事前事後学 修	文献読解、調査の準備・実施等を継続的に行ってください。準備学習時間の目安：1日当たり1時間程度。										
教材 教科書 参考書	適宜、指示します										
留意点											

科目名	専門演習Ⅱ・人間科学 (卒業研究含む)		科目コード	W44716		単位数 時間	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年			
			科目ナンバリング	W-PPPF3-21.S			90時間							
区分	実践系列科目	選択 必修	担当者名	宮田 将希				授業 形態	演習	単独				
授業の 概要	[授業の主旨] ・卒業論文執筆に向けて取り組んでいく。 ・実践現場において必要な知識や技術について学習する。 ・それぞれの研究テーマに対して、学生同士が共に考え、議論を重ねて論文を執筆する。													
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 2-2, 3-2, 4-2, 5-3, 5-4に関連している													
到達 目標	・実践現場に必要な知識や技術を身につける。 ・卒業論文を執筆する。													
<b>授 業 計 画</b>														
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を確認。				第16回	オリエンテーション	授業の進め方を確認。						
第2回	テーマ設定①	卒業論文執筆に伴う、自身が研究したいテーマについて考える。			グル ープ ワー ク	第17回	論文の執筆方法	卒業論文の執筆方法についての説明。						
第3回	テーマ設定②	卒業論文執筆に伴う、自身が研究したいテーマについて考える。			グル ープ ワー ク	第18回	卒論指導	卒業論文の進捗確認。 それぞれが直面する論文のつまづきに対しては、グループワークにて ディスカッション等も行う。 進捗に応じて、論文執筆に必要な 説明・講義を行う。			グル ープ ワー ク			
第4回	研究計画	それぞれの研究についての計画を策定する。			グル ープ ワー ク	第19回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第5回	文献の調べ方	論文に必要な文献の調べ方について学ぶ。			グル ープ ワー ク	第20回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第6回	グループディスカッション①	それぞれのテーマに関しての ディスカッションを行う。 リサーチクエスション・仮説を立て その内容を議論していく。			グル ープ ワー ク	第21回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第7回	グループディスカッション②				グル ープ ワー ク	第22回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第8回	グループディスカッション③				グル ープ ワー ク	第23回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第9回	グループディスカッション④				グル ープ ワー ク	第24回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第10回	グループディスカッション⑤				グル ープ ワー ク	第25回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第11回	フィールドワーク①	それぞれのテーマに関連する実践現場 にてフィールドワークを行う。 映像資料等も活用する。			フィー ルド ワー ク	第26回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第12回	フィールドワーク②				フィー ルド ワー ク	第27回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第13回	フィールドワーク③				フィー ルド ワー ク	第28回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第14回	フィールドワーク④				フィー ルド ワー ク	第29回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
第15回	まとめ	これまでのまとめ・進捗確認。				第30回	卒論指導				グル ープ ワー ク			
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度50%と卒業論文の内容50%													
課題等	適宜													
事前事後学 修	それぞれのテーマに応じて													
教材 教科書 参考書	それぞれのテーマに応じて													
留意点														